

# 10周年記念誌



(公社) 日本山岳会栃木支部

表紙題字は坂口三郎会員筆耕  
表紙写真は山本武志会員提供

# 10周年記念誌

(公社)日本山岳会栃木支部

# 目 次

## □絵

写真集	1
-----	---

## 挨拶

公益社団法人日本山岳会 栃木支部長 渡邊 雄二	13
-------------------------	----

公益社団法人日本山岳会 会 長 小林 政志	15
-----------------------	----

栃木支部設立までの歩みと設立総会	17
------------------	----

設立以来 10 年の活動	21
--------------	----

## 各委員会の活動

自然保護委員会	27
---------	----

事業委員会	28
-------	----

YOUTH 栃木	28
----------	----

マスターズクラブ	29
----------	----

2015(平成 27)年度の活動の足跡	31
---------------------	----

ピックアップ支部報	42
-----------	----

会員よりの寄稿	59
---------	----

会員紹介	71
------	----

年度別支部役員一覧	78
-----------	----

栃木支部規約	79
--------	----

協賛広告	82
------	----

編集後記	84
------	----

# 2007(平成 19)年度のシーナリー



設立総会で役員を紹介する渡邊事務局長  
【2007年5月27日(日)】



炎天下を山頂に向かう  
《支部設立記念山行》  
【2007年8月19日(日)】



白根山頂直下にて《支部設立記念山行》  
【2007年8月19日(日)】



ゴンドラ山頂駅で日下田支部長挨拶  
《支部設立記念山行》  
【2007年8月19日(日)】



ゴンドラ山頂駅で白根山をバックに記念撮影  
《支部設立記念山行》【2007年8月19日(日)】



講師の神長善次氏<<第1回秋季講演会>>  
【2007年11月18日(日)】



講演会後の懇親会<<第1回秋季講演会>>  
【2007年11月18日(日)】



三支部懇談会<<日光湯元『湯の湖荘』>>  
【2008年2月2日(土)】(上下2枚とも)



重廣恒夫氏講演会  
【2008年3月6日(木)】



# 2008(平成20)年度のシーナリー



茶臼岳山頂にて《春山山行》  
【2008年4月13日(日)】



2008(平成20)年度総会  
【2008年5月24日(土)】(上下2枚とも)



羽田栄治氏の講演  
《第1回山岳映画の夕べ》  
【2008年7月12日(土)】



加仁湯玄関にて《夏山山行》  
【2008年8月31日(日)】



雲竜溪谷にて《冬山山行》  
【2009年1月25日(日)】

# 2009(平成21)年度のシーナリー



総会・懇親会の光景  
【2009年5月24日(日)】  
(左右2枚とも)



羽田栄治氏と講演参加者「第2回山岳映画の夕べ」  
【2009年7月26日(日)】

右：鬼怒沼への急な階段を登る坂口会員  
下：鬼怒沼湿原で記念撮影「夏山山行」  
【2009年8月30日(日)】







左：薬師岳山頂 右：細尾峠 《秋山山行》  
【2009年10月31日(土)】

## 2010(平成22)年度のシーナリー



2010年度総会  
(上・左2枚とも)  
【2010年6月20日(日)】

右：根名草山頂  
下：加仁湯前にて夏山山行  
【2010年8月28・29日】



左：熱弁をふるう桑野講師 右：懇親会での記念撮影  
《第4回秋季講演会》【2010年11月27日(土)】





《いずれも第4回三支部懇談会》

上・右3枚：開会式・記念講演【2011年2月12日(土)】

下2枚：日光世界遺産巡り班【2011年2月13日(日)】



# 2011(平成23)年度のシーナリー



春山山行・前田会員激励会  
左・桜峠 右・桜峠からの登り  
【2011年4月10日(日)】



春山山行・前田会員激励会  
(左2枚ともかしの里にて)  
【2011年4月10日(日)】



右：山野井支部長挨拶  
左：総会出席の方々  
(2011年度総会)  
【2011年5月28日(土)】



左：羽田栄治氏 右：講演会参加者  
(第4回山岳映画の夕べ)  
【2011年7月9日(土)】





右：湯沢噴泉塔へ向かう  
 【2011年8月28日(日)】  
 (夏山山行)  
 左：赤岩滝  
 【2011年8月27日(土)】



右：三枚岩  
 左：古峰峠(秋山山行)  
 【2011年10月10日(月)】



富弘美術館前で  
 (新年会・冬山山行)  
 【2012年1月28日(土)】



熊鷹山手前の中曽根十字路付近にて  
 (新年会・冬山山行)  
 【2012年1月29日(日)】

# 2012(平成24)年度のシーナリー



(春山山行)  
 【2012年4月15日(日)】  
 右：大倉尾根のカタクリ  
 左：花瓶山手前の次郎ブナ



袈裟丸山山頂にて《埼玉支部との合同》  
 【2012年6月10日(日)】



太郎山山頂にて《第1回親子登山教室》  
 【2012年7月29日(日)】



加仁湯前にて(夏山山行)  
 【2012年8月26日(日)】



七ヶ岳山頂にて《秋山山行》  
 【2012年11月4日(日)】



大坊主山山頂にて《冬山山行》  
 【2013年1月13日(日)】

# 2013(平成25)年度のシーナリー



左：開会行事 右：特別講演の船村徹氏《『山の日』を作ろう！栃木集会》  
【2013年6月2日(日)】



第2回親子登山教室

上：楽しい夕食【2013年8月3日(土)】

下：男体山全員登頂【2013年8月4日(日)】



3回の講演会の講演風景

上：第6回夏の山岳映画の夕べ《山本篤氏》【2013年6月29日(土)】

中：第5回ヒマラヤの集い《北村誠一氏》【2013年11月3日(日)】

下：第7回「山」の講演会《猪熊隆之氏》【2013年12月1日(日)】



夏山山行【2013年8月25日(日)】  
左：加仁湯前にて 右：鬼怒沼にて

荒海山山頂にて《秋山山行》  
【2013年11月4日(月)】



足尾銀山平『かじか荘』にて《第7回四支部懇談会》  
【2014年2月2日(日)】

## 2014(平成26)年度のシーナリー



春山山行(谷川岳)  
右：赤倉沢二股にて  
【2014年4月13日(日)】  
左：成蹊学園山の家『虹芝寮』  
【2014年4月12日(土)】



第3回親子登山教室【2014年7月20日(日)】

左：女峰山・唐沢小屋にて 右：小真名子山山頂にて





夏山山行 左：加仁湯での懇親会【2014年8月23日(土)】  
右：於呂俱羅山山頂にて【2014年8月24日(日)】



称名滝前で記念撮影  
【2014年9月13日(土)】



登山研修所にて  
【2014年9月14日(日)】



弥陀ヶ原ホテル前にて  
【2014年9月14日(日)】

秋山山行4景立山方面

雄山山頂にて  
【2014年9月14日(日)】



新年会・冬山山行 左：日光湯元『湯の湖荘』【2015年1月24日(土)】  
右：高山山頂にて【2015年1月25日(日)】



## 支部長挨拶

栃木支部長 渡邊 雄二



2016年5月27日、公益社団法人日本山岳会栃木支部は設立10周年を迎えることができました。10年前（2007年）の同日、日下田實支部長以下33名の会員で日本山岳会の26番目の支部として発足しました。

設立総会は、本部から宮下秀樹会長をはじめ、神崎忠男副会長、吉永英明常務理事らにご出席いただき、宇都宮市の「コンセーレ」にて盛大に開催できたことを昨日のように思い出されます。

当時の日本山岳会の活動方針として、クラブライフの更なる充実のためには支部の組織化が重要だとして各地方に働きかけをしておりました。日本山岳会理事経験者である私は担当副会長平林克敏氏と相談の上、平林副会長を宇都宮市にお迎えし支部設立のための有志懇談会を開催し設立準備を始めました。幸い本県の登山界は、県山岳連盟の役員が多くが日本山岳会員であるという恵まれた環境にありましたので、支部設立の事務手続きはとんとん拍子に進み、わずか半年の間に設立に至りました。平林副会長をはじめ本部理事の方々、設立発起人として名を連ねていただいた会員の方々のご理解とご協力には心より感謝申し上げます。

その後、日本山岳会の組織運営で大きな課題として突きつけられたのが、「公益法人改革法」（2008年）への対応でした。様々議論や模索を経て総会での公益法人化が承認され、2012年4月1日から「公益社団法人日本山岳会」となりました。本支部としてはいち早く会員のための共益事業と社会貢献のための公益事業の二本立ての事業を設立当時から取

り組んでおりましたが、この公益法人化への移行はさらに地域社会や県岳連と一体となり充実した事業を実施することができるようになりました。特に「財団法人栃木県青年会館コンセーレ」との共催・後援事業に関しましては、事業展開の上で大変有り難く心強いご支援に感謝申し上げます。

また、本年から施行されました「山の日」の祝日につきましても、その実現と関連行事の実施について、県当局をはじめ関係山岳団体との連携の下に推進でききたことは大変喜ばしいことでした。このことがさらに本県の登山文化の発展につながり、「山の日」の祝日が更に意義深いものとなるよう切に願っています。

アルパインクラブとしての本支部の活動は、当然「山登り」を主体的に行うことですが、次代を担う若者にも「山登り」を通して自然と共生する真の「生きる力」を養ってもらいたいものです。その意味からも学習院山桜会のご支援で継続している「親子登山教室」は本支部の重要な公益事業でもあり、最近の日本の自然災害状況を鑑みれば防災教育にも繋がる活動でもありますので、今後とも充実させて継続していきたいものです。

本支部の組織も、新たにユースクラブやマスターズクラブの活動が増えて充実のための礎ができつつあります。10年という年月は、組織にとっては体裁がどうにか整いつつあるといった段階と思います。本支部も現代日本の抱える課題の縮図でもあると言える、高齢化、会員数の伸び悩み、若手会員の絶対的不足など難問を抱えています。しかしながら、山を愛し、人と自然を大切にしながら岳人として「山登り」を継続しながら、社会に貢献する活動はいつの世においてもその状況に応じて続けることができるはずです。そのためにも、この10年の節目となる記念誌を捲ることによって、これまでの活動を支えていただいた役員や会員の皆様にご慰労と感謝を申し上げるとともに、アルパインクラブとして今後の実りある活動をするための糧としていただければ有り難く思います。そのことにより、これからの10年が栃木支部のますますの充実・発展期となることを確信しております。

末筆にて恐縮ですが、この10年の基礎固めをしていただきました歴代の支部長、日下田實氏、山野井武夫氏に衷心より感謝申し上げ、10周年記念誌発行の挨拶としたいと思います。

# 栃木支部の10周年をお祝いして

日本山岳会会長 小林 政志



栃木支部が設立して今年で10周年の記念の年を迎えられました。心よりお祝い申し上げます。

貴支部は本会の26番目の支部として、2007年5月27日に発足しました。当時本会では、支部組織がない各地方に支部の組織化を推進し、より豊かなクラブライフの送れる体制づくりを推進しておりました。この取り組みに真っ先に取り組んで行動していただいたのが栃木支部の設立でした。このことが各地方に新たな支部が設立される契機ともなり、千葉、茨城と次々と支部が設立していきました。本会としては貴支部の設立は大変心強い限りでした。ありがとうございます。

初代栃木支部長には、マナスル峰登頂者である日下田實氏が就任され、このことは改めて日本山岳会の偉業を栃木県民の皆様にお伝えすることのできた素晴らしいことでした。そして本年はマナスル初登頂60周年にあたり、それを祝う多くの行事が開催されましたが、日下田氏には積極的に参加をしていただき行事を盛り上げていただきました。重ねてお礼を申し上げます。

貴支部の活動を拝察いたしますと、支部会員のための共益活動はもちろんですが、支部設立当時から公益活動にも積極的に取り組んでいただき、栃木県の山岳文化活動の普及に大いに貢献していただいております。特に、次代を担う子供達を対象とした1泊2日の「親子登山教室」、国際理解のための「ヒマラヤの集い」、山岳文化の啓蒙活動である「山の講演会」など有意義な活動を継続していただいております。大変感謝申し上げます。

現在本会には支部事業委員会を設置して、支部事業の活性化のためのお手伝いをさせて

いただいております。特別事業助成金制度や登山教室指導者養成講習会などを是非活用していただき、さらに貴支部の活動が活性化されますことを期待しております。

現在、本会が抱える大きな課題は会員の高齢化と会員数の減少です。支部活動の充実は同時に地方在住の岳人の本会入会への大きな刺激になると確信しております。その意味でも貴支部の活動力に大いに期待しているところです。

栃木県は日光国立公園や那須に男体山をはじめとする名峰が聳え、世界遺産である東照宮に代表される文化遺産にも恵まれ、アルパインクラブの存在するための豊かな自然と文化の環境が整っております。この地の利と素晴らしい人との繋がりを大きな財産として大切にしながら、貴支部が日本山岳会の支部活動の牽引力となっていただくよう、今後ますますのご発展を祈念申し上げます。

# 栃木支部設立までの歩みと設立総会

## 栃木支部設立までの経過

### H19・01・14(日)：有志懇談会

- 宇都宮市『ホテルサンシャイン』にて有志懇談会(17名)を開催。
- 本部の方針である支部の組織化推進を受けて、本部より平林副会長、吉永常務理事、篠崎委員、栃木県関係有志(日下田以下14名)が出席する。
- 栃木支部設立の準備を進めることを確認した。

### H19・03・28(水)：同意書送付

- (社)日本山岳会「支部設立並びに運営に関する規定」により、関係会員43名に支部設立に関する同意書等を送付し、回答を求めた。

### H19・04・15(日)：回答回収

- 上記同意書の回答結果、支部設立に同意する会員が回答者33名中32名であったので、支部設立の承認申請手続きをすることに決定した。

### H19・04・20(金)：承認申請書等提出

- (社)日本山岳会栃木支部設立の承認に関する書類一式を(社)日本山岳会会長に提出した。
- 支部設立総会通知を関係者に送付した。

### H19・05・09(水)：5月定例理事会

- 本部の5月定例理事会において、栃木支部設立について承認された。

### H19・05・19(土)：第1回通常総会

- 本部の平成19年度第1回通常総会において、栃木支部設立について承認された旨が報告された。

### H19・05・27(日)：栃木支部設立総会

- 栃木支部設立総会・祝賀会開催。

## 設立趣意書

栃木県は、関東地方の東北部、首都東京から60km～160kmの間に位置し、恵まれた地理的条件のもと、首都圏に近いという特性を生かし、農業・工業・商業などがバランスよく成り立ち発展し続けています。

県の北西部は日光国立公園の指定地になっており、百名山に数えられている男体山、白根山、皇海山の名山がそびえ、さらには奥日光、那須高原、塩原溪谷などの四季折々の美しい自然と、鬼怒川・川治・奥鬼怒・塩原・那須などの豊富な温泉群、世界遺産に登録された日光東照宮に代表される日光の歴史的文化施設が一体となって、訪れる人を魅了してやみません。

さて、(社)日本山岳会は支部組織がない各地方について、支部の組織化を推進し、より豊かなクラブライフの送れる体制づくりを進めるよう指導・助言を受けているところです。本県にはまだ支部組織がありませんので、上記したような豊かな地域性を活かし、会員相互の交流を深め、地縁による小集団から生まれる共感と実感を通して、会員一人ひとりが参画できる「楽しい会員の集い」を形成し、豊かなクラブライフを創造しながら、本会の活動の活発化に寄与したいと考えています。

つきましては、栃木県在住等の会員が相集まり、栃木支部を結成したいと存じます。何卒このような趣旨をお汲み取りの上、栃木支部の設立にご同意賜りますようお願い申し上げます。

平成19年3月28日  
(社)日本山岳会栃木支部  
発起人代表 日下田 實

### 発起人名簿

会員番号	4146	日下田 實	(設立発起人代表)
4633	山野井 武夫	5346	沖 允人
6189	小島 守夫	6322	小材 守志
6956	井上 孝郎	7973	坂口 三郎
8383	前田 洋子	8432	前田 文彦
9265	石澤 好文	9267	臼田 徳雄
9350	山本 武志	10459	仙石 富秀
10885	蓮實 淳夫	7914	渡邊 雄二 (設立発起人事務局)

## 設立総会・祝賀会盛大に開催！

○2007(平成 19)年 5 月 27 日(日)午後 5 時から(社)日本山岳会栃木支部設立総会が、「コンセーレ」にて開催された。当日は好天に恵まれ、汗をかくほどの陽気になり、33名の会員中 25名の会員が出席した。本部からも、宮下秀樹会長・神崎忠男副会長・吉永英明常務理事・篠崎仁千葉支部設立委員の4名が足をお運びいただいた。

○まずは小島守夫会員が「1月14日に有志で集まって支部設立の話し合いをしたのが出発点である」とのコメントを入れた開会の言葉を述べた。

○ついで日下田實会員が設立発起人を代表して挨拶された。「一番番号が若い私が設立発起人ということになっているが、実際には渡邊会員が骨を折られた。関東に支部はなかったが、公益法人問題を契機に、栃木に続いて茨城・千葉にも支部ができる予定である。今後ともご協力をお願いしたい。」

○4名の来賓を代表して、宮下秀樹会長が「一週間前に会長になったばかりである。栃木には坂口さん、日下田さんなど、本会を支える大物がおられるので頼もしい限りである。支部の中では72周年を迎える関西支部が一番古く、栃木支部は26番目の支部となる。今後とも活発な活動をなされて、本会発展に協力されたい。」と祝辞を述べられた。

○来賓紹介、祝電披露(平林前副会長・重廣関西支部長からの2通)後、日下田實会員を議長に選出し、支部設立に伴う議事に入った。まずは、設立発起人を代表して、渡邊雄二会員が設立までの経過を報告した。詳細は前述した通りである。

○規約・役員・事業計画・予算等の協議事項については、満場一致で設立発起人からの原案通りに決議された。

○最後に出席者が自己紹介をして散会となった。

○その後、場所を移動して午後6時から祝賀会が催された。祝賀会場からは、日光連山から足尾山塊までが一望のもとに見渡せ、折りしも夕日に映える山並みがシルエットに変わろうとする時間帯で、参加者はしばし窓からの景色を楽しむことができた。円卓を囲みながら歓談にふけり、8時過ぎに散会した。

## 設立総会・祝賀会次第

日時：2007(平成 19)年 5 月 27 日(日)

設立総会 17:00～

祝賀会 18:00～

場所：コンセーレ【(財)栃木県青年会館】

### ◆◆設立総会次第◆◆

進行：設立事務局 渡邊 雄二

- 1 開会の言葉 小島 守夫
- 2 設立発起人代表挨拶 日下田 實
- 3 来賓祝辞(社)日本山岳会会長 宮下 秀樹様
- 4 来賓紹介 前田 文彦
- 5 議長選出
- 6 議事
  - 1 報告事項
    - (1) 栃木支部設立までの経過報告
    - 2 協議事項
      - (1) 日本山岳会栃木支部規約(案)について
      - (2) 平成 19 年度支部役員(案)について
      - (3) 平成 19 年度事業計画(案)について
      - (4) 平成 19 年度予算(案)について
      - (5) その他
- 7 出席者自己紹介
- 8 閉会の言葉 山本 武志

### ◆◆設立祝賀会次第◆◆

進行：石澤 好文

- 1 開会の言葉 坂口 三郎
- 2 支部長挨拶 副支部長 山野井武夫
- 3 来賓祝辞(社)日本山岳会副会長神崎忠男様
- 4 乾杯 (社)日本山岳会常務理事吉永英明様
- 5 懇親 (会員によるスピーチ)
- 6 閉会の言葉 沖 允人

## 栃木支部役員

### ◇◇栃木支部役員◇◇

支 部 長	日下田 實(4146)
副支部長	山野井 武夫(4633)
委 員	小島 守夫(6189)
	渡邊 雄二(7914) (事務局長)
	前田 文彦(8432)
	石澤 好文(9265) (会 計)
	山本 武志(9350)
	神島 仁誓(14438)
会計監事	沖 允人(5346)
	坂口 三郎(7973)

## 平成 19 年度事業計画

### ◇◇平成 19 年度事業計画◇◇

- 1 日本山岳会栃木支部設立総会 H19・05・27(日)
- 2 栃木支部設立記念山行(暑気払い集会) H19・07
- 3 秋季講演会 H19・09
- 4 忘年集会 H19・12
- 5 冬季山行 H20・02

## 平成 19 年度予算

### ◇◇平成 19 年度事業計画◇◇

#### I 収 入

(内 訳)	148,500 円
会 費	66,000 円 (@2,000 円×33 人)
助 成 金	82,500 円 (@2,500 円×33 人)

#### II 支 出

(内 訳)	148,500 円
通 信 費	30,000 円 (総会, 委員会, 事業等通信費)
事 業 費	60,000 円 (講演会等の開催費用)
会 議 費	45,000 円 (総会, 委員会等会場費等)
消耗品費	13,500 円 (ゴム印, 封筒, 用紙代等)

III 残 額 0 円

## (社) 日本山岳会栃木支部規約

### 第 1 条 (名称)

本支部は「(社) 日本山岳会栃木支部」と称し、事務局を事務局長宅に置く。

### 第 2 条 (組織)

本支部は日本山岳会支部規定に準拠し、栃木県及びその周辺に在住する(社) 日本山岳会会員をもって組織する。

### 第 3 条 (目的及び事業)

本支部は(社) 日本山岳会の定款に定める目的を達成するための事業を行う。

### 第 4 条 (役員)

本支部に次の役員を置く。

支部長	1 名	副支部長	1 名
会計監事	2 名	委員	若干名
(事務局長 1 名, 会計 1 名含む)			

### 第 5 条 (役員を選出及び任期)

役員は支部会員の中から選出し、総会にて承認を受けるものとする。任期は 2 年とし、再任は妨げない。

### 第 6 条 (役員の仕事)

1. 支部長は本支部を代表し、会務全般を総括する。
2. 副支部長は、支部長を補佐し、支部長に事故ある時はこれを代行する。
3. 委員は委員会を構成し、総会の決議に従い本支部の活動を企画立案し、会務を処理執行する。
4. 会計監事は支部会計を監査し、総会に報告するほか委員会に出席し意見を述べるができる。

### 第 7 条 (会議)

本支部には総会及び委員会を置き、総会が本支部の最高議決機関とする。

1. 総会は毎年 1 回支部長が招集する。ただし、支部長または委員会が必要と認めるときは、臨時に総会を招集することができる。
2. 委員会は必要に応じて支部長が招集する。
3. 議事は出席会員の過半数を持って決定する。

### 第 8 条 (会計)

1. 本支部の会務執行に要する費用は、会費、支部助成金、その他の収入をもって充てる。
2. 会費は年額 2,000 円とする。
3. 本支部の経費は、事務局長を代表とする郵便局総合通帳により管理する。

### 第 9 条 (会計年度)

本支部の会計年度は毎年 4 月 1 日より翌年の 3 月 31 日までとする。

### 第 10 条 (規約の変更)

本規約の変更は、総会において出席者の 3 分の 2 以上の同意を必要とする。

付則 本会会則は平成 19 年 5 月 27 日から施行する。



有志懇談会で挨拶する日下田實支部長  
【2007(平成19)年1月14日(日)】



有志懇談会に集い来る面々  
【2007(平成19)年1月14日(日)】



設立総会で役員を紹介する渡邊事務局長  
【2007(平成19)年5月27日(日)】



設立祝賀会での会員及び  
来賓各位の笑顔百態？  
【二〇〇七年五月二十七日(日)  
(平成19年)】



# 設立以来10年の活動

2007(平成19)年度

月日	事業	場所・会場等	特記事項
5月27日(日)	支部設立総会	宇都宮市・コンセーレ	本部役員4名、支部会員25名参加
7月8日(日)	第1回役員会	宇都宮市・とちぎ青少年センター	役員8名参加
8月19日(日)	支部設立記念山行	日光白根山(2578m) 丸沼からゴンドラを使って頂上へ	夏山山行を兼ねる 22名(うち会員外3名)参加
8月19日(日)	暑気払い	宇都宮市・コンセーレ	17名参加
10月14日(日)	第2回役員会	宇都宮市・とちぎ青少年センター	役員8名参加
11月18日(日)	第3回役員会	宇都宮市・コンセーレ	役員7名参加
11月18日(日)	第1回秋季講演会	宇都宮市・コンセーレ	講師：神長善次氏(元ネパール大使) 演題：「山と里」
1月27日(日)	第4回役員会	宇都宮市・とちぎ青少年センター	役員7名参加
2月2日(土) ～3日(日)	三支部懇談会	日光湯元『湯の湖荘』、奥日光各所 本部2名、千葉7名、茨城4名 会員21名参加	支部新年会及び冬山山行を兼ねる 1日目：懇談会・記念講演 2日目：3班に分かれて山行
3月6日(木)	重廣恒夫さん講演会	宇都宮市・とちぎ福祉プラザ	講師：重廣恒夫氏 演題：「登山における進化と退化」 会員・一般含めて90名参加
3月29日(土)	第5回役員会	宇都宮市・とちぎ青少年センター	役員7名参加

## 2008(平成20)年度

月日	事業	場所・会場等	特記事項
4月12日(土) ～13日(日)	講演と春山山行	那須大丸温泉『ニュー大高』 那須岳周辺	講師：大高登氏 演題：「那須周辺の最近の遭難事故」 13名参加
5月18日(日)	第1回役員会	宇都宮市・とちぎ青少年センター	役員5名参加
5月24日(土)	総会・懇親会	宇都宮市・コンセーレ	24名(うち入会手続き中2名)参加
7月5日(土) ～6日(日)	日光清掃登山 【栃木岳連との共催】	日光湯元キャンプ場 白根山等	会員8名(総勢200名)参加
7月6日(日)	第2回役員会	宇都宮市・コンセーレ	役員6名参加
7月12日(土)	第1回山岳映画の夕べ 「エベレスト征服」 「The Epic of EVEREST」 【コンセーレとの共催】	宇都宮市・コンセーレ 会員16名、一般65名参加 【コンセーレとの共催】	講師：羽田栄治氏 演題：フィルムアーカイブについて …映像の持つ記録性
8月30日(土) ～31日(日)	夏山山行・懇親会	奥鬼怒温泉『加仁湯』 根名草山・鬼怒沼等	会員17名参加
9月6日(土) ～7日(日)	那須岳クリーンキャンペーン 【栃木岳連との共催】	那須岳周辺	会員4名参加
10月25日(土)	秋山山行	会津 台倉高山(2067m)	会員9名参加
11月16日(日)	第3回役員会	宇都宮市・コンセーレ	役員6名参加
11月16日(日)	第2回秋季講演会 【コンセーレとの共催】	宇都宮市・コンセーレ 会員16名、一般44名参加	講師：星埜由尚氏 演題：伊能忠敬に始まる科学的地図
1月24日(土)	第4回役員会	日光市・交流促進センター	役員7名参加
1月24日(土) ～25日(日)	新年会・冬山山行	日光市・交流促進センター 雲竜溪谷	会員14名、一般6名参加
2月7日(土) ～8日(日)	三支部懇談会	千葉県南房総市・民宿『治郎吉』	本支部より11名、本部より神崎副会長 千葉支部28名、茨城支部8名

## 2009(平成21)年度

月日	事業	場所・会場等	特記事項
4月11日(土)	第1回役員会	日光湯元温泉『湯の湖荘』	役員9名参加
4月11日(土) ～12日(日)	講演と春山山行 会員19名、他2名参加	日光湯元温泉『湯の湖荘』 切込湖・刈込湖周辺	講師：伊藤誠氏 演題：「奥日光の自然の変化」
5月24日(日)	第2回役員会	宇都宮市・コンセーレ	役員10名参加
5月24日(日)	総会・懇親会	宇都宮市・コンセーレ	会員24名参加
7月4日(土) ～5日(日)	日光清掃登山 【栃木岳連との共催】	日光湯元キャンプ場 白根山等	会員11名(総勢208名)参加
7月26日(日)	第3回役員会	宇都宮市・コンセーレ	役員8名参加
7月26日(日)	第2回山岳映画の夕べ 「ナンダ・コト征服」 「花嫁の峰」ヨリサガ」 【コンセーレとの共催】	宇都宮市・コンセーレ 会員21名、一般71名参加 【コンセーレとの共催】	講師：羽田栄治氏 演題：スクリーン登山を楽しむ
8月29日(土)	第4回役員会	宇都宮市・コンセーレ	役員8名参加
8月29日(土) ～30日(日)	夏山山行・懇親会	奥鬼怒温泉『加仁湯』 根名草山・鬼怒沼等	会員18名、ほか5名参加
9月5日(土) ～6日(日)	那須岳クリーンキャンペン 【栃木岳連との共催】	那須岳周辺	会員7名参加
10月18日(土)	第5回役員会	宇都宮市・コンセーレ	役員8名参加
10月18日(土)	第1回ヒマラヤの集い 講演会 【コンセーレとの共催】	宇都宮市・コンセーレ	講師：天野和明氏 演題：「ピレネー」と私の登山 会員22名、一般28名参加
10月31日(土)	秋山山行	禅頂行者道 細尾峠・薬師岳・夕日岳	会員18名参加
11月28日(土)	第6回役員会	宇都宮市・コンセーレ	役員8名参加名参加
11月28日(土)	第3回秋季講演会 【コンセーレとの共催】	宇都宮市・コンセーレ 会員18名、一般32名参加	講師：中山珧一氏 演題：山岳衆徒志村烏嶺について
1月23日(土) ～24日(日)	新年会・冬山山行	茨城県奥久慈温泉『福寿荘』 男体山	会員・ならびに一般21名参加
2月6日(土) ～7日(日)	三支部懇談会	茨城県つくば市国土地理院 筑波温泉ホテル『一望』	本支部より13名、総勢53名参加

## 2010(平成22)年度

月日	事業	場所・会場等	特記事項
4月11日(土)	第1回役員会	日光市足尾銀山平『かめむら別館』	役員8名参加
4月10日(土) ～11日(日)	足尾歴史探訪と春山山行	日光市足尾銀山平『かめむら別館』 足尾歴史館、庚申山、備前楯山	会員24名参加
5月29日(日)	第2回役員会	宇都宮市・コンセーレ	役員10名参加
5月29日(日)	総会・懇親会、壮行会	宇都宮市・コンセーレ	会員27名参加 沖会員のマリ峰遠征壮行会を兼ねる
6月20日(日)	第3回役員会	宇都宮市・コンセーレ	役員が16名に増え、12名参加 新設された事業委員会も兼ねて実施
6月20日(日)	第3回山岳映画の夕べ 「山男」「未踏の水壁」	宇都宮市・コンセーレ 会員22名のほか一般も多数参加 【コンセーレとの共催】	講師：羽田栄治氏 演題：“アーカイブ、って何のこと
7月3日(土) ～4日(日)	日光清掃登山 【栃木岳連との共催】	日光湯元キャンプ場 西の湖等	会員9名(総勢約200名)参加
8月21日(日)	第4回役員会	宇都宮市・コンセーレ	役員10名参加
8月28日(土) ～29日(日)	夏山山行・懇親会	奥鬼怒温泉『加仁湯』 根名草山・鬼怒沼等	会員15名、ほか3名参加
9月4日(土) ～5日(日)	那須岳クリーンキャンペーン 【栃木岳連との共催】	那須岳周辺	会員9名参加
10月11日(月)	秋山山行	日光市鳴虫山(1103.5m)	会員16名、ほか3名参加
10月11日(月)	第5回役員会	日光市体育館会議室	役員12名参加
11月23日(火)	第6回役員会	宇都宮市・コンセーレ	役員13名参加
11月23日(火)	第2回ヒマラヤの集い 講演会 【コンセーレとの共催】	宇都宮市・コンセーレ	講師：黒田誠氏 演題：ランタン谷でのクライミング 会員19名、一般42名参加
11月27日(土)	第4回秋季講演会 【コンセーレとの共催】	宇都宮市・コンセーレ 会員26名、一般92名参加	講師：桑野正光氏 演題：栃木の峠
2月6日(土)	第7回役員会	宇都宮市・コンセーレ	役員14名参加
2月12日(土) ～13日(日)	三支部懇談会	日光市『千姫物語』『春茂登』 鳴虫山、世界遺産巡り 千葉12名、茨城13名、会員29名参加	記念講演：中川光熹氏 演題：日光の修験道 鳴虫山、世界遺産巡り等
2月13日(日)	第8回役員会	日光市公民館	役員15名参加

## 2011(平成23)年度

月日	事業	場所・会場等	特記事項
4月10日(日)	春山山行 前田会員激励会	栃木市晃石山・太平山 かかしの里	米国転勤の前田夫妻の激励会を兼ねる 会員・家族を含めて21名参加
4月10日(日)	第1回役員会	栃木市・かかしの里	役員10名参加
5月28日(土)	第2回役員会	宇都宮市・コンセーレ	役員15名参加
5月28日(土)	総会・懇親会、壮行会	宇都宮市・コンセーレ	会員26名参加
7月2日(土) ～3日(日)	日光清掃登山 【栃木岳連との共催】	日光湯元キャンプ場 切込湖・刈込湖	会員12名・一般1名 総勢200名超参加
7月9日(土)	第3回役員会	宇都宮市・コンセーレ	役員9名参加
7月9日(土)	第4回山岳映画の夕べ 「白き氷河の果てに」 【コンセーレとの共催】	宇都宮市・コンセーレ 会員13名のほか一般45名参加 【コンセーレとの共催】	講師：羽田栄治氏 演題：山の記録映画に見るカメラワーク
8月20日(土)	第4回役員会	宇都宮市・コンセーレ	役員9名参加
8月27日(土) ～28日(日)	夏山山行・懇親会	奥鬼怒温泉『加仁湯』 湯沢噴泉塔・鬼怒沼等	会員17名、ほか1名参加
9月3日(土) ～4日(日)	那須岳クリーンキャンペーン 【栃木岳連との共催】	那須岳周辺	会員4名・家族1名参加
10月10日(月)	秋山山行	古峰ヶ原高原	会員14名、ほか1名参加
10月29日(土)	第3回ヒマラヤの集い 講演会 【コンセーレとの共催】	宇都宮市・コンセーレ	講師：半田好男氏 演題：社会貢献の基礎は山にあり 会員20名、一般30名参加
11月13日(土)	第5回役員会	宇都宮市・コンセーレ	役員10名参加
11月13日(土)	第5回秋季講演会 【コンセーレとの共催】	宇都宮市・コンセーレ 会員18名、一般23名参加	講師：蓮實淳夫氏 演題：おくのほそ道の山
1月28日(土)	第6回役員会	サンレイク草木	役員9名参加
1月28日(土) ～29日(日)	新年会・冬山山行	サンレイク草木、富弘美術館 足尾周辺の山	会員18名、ほか1名参加
2月11日(土) ～12日(日)	三支部懇談会	千葉県南房総市 『房総岬少年自然の家』	本支部6名、千葉26名、茨城10名参加 千葉県立館山野鳥の森等

## 2012(平成24)年度

月日	事業	場所・会場等	特記事項
4月15日(日)	春山山行	八溝山系「花瓶山(692m)」 (はなかめやま)	会員・家族を含めて31名参加
4月15日(日)	第1回役員会	大田原市役所黒羽支所駐車場	役員11名参加
6月2日(土)	第2回役員会	宇都宮市・コンセーレ	役員が17名に増え、13名参加
6月2日(土)	総会・懇親会	宇都宮市・コンセーレ	会員30名参加
6月9日(土) ～10日(日)	埼玉支部との合同登山	日光市、高山、袈裟丸山	会員5名、埼玉支部14名参加
6月30日(土) ～7月1日(日)	日光清掃登山 【栃木岳連との共催】	日光湯元キャンプ場 前白根山・五色山	会員5名・一般6名 総勢200名超参加
7月7日(土)	第3回役員会	宇都宮市・コンセーレ	12名参加
7月7日(土)	第5回山岳映画の夕べ ニュース映画数本上映	宇都宮市・コンセーレ 会員20名のほか一般20名参加 【コンセーレとの共催】	講師：羽田栄治氏 演題：「ニュース映画」に見る戦後の山と世相
7月28日(土) ～29日(日)	第1回親子登山教室	学習院光徳小屋 山王峠、太郎山	主催者側：会員など8名 参加者：13名の親子
8月25日(土)	第4回役員会	奥鬼怒温泉『加仁湯』	役員10名参加
8月25日(土) ～26日(日)	夏山山行・懇親会	奥鬼怒温泉『加仁湯』 湯沢噴泉塔・鬼怒沼等	会員や一般を含めて21名参加
9月1日(土) ～2日(日)	那須岳クリーンキャンペーン 【栃木岳連との共催】	那須岳周辺	会員13名が参加予定であったが、雨天のために中止となった
11月4日(日)	秋山山行	七ヶ岳(1636m)	会員10名、ほか2名参加
11月10日(土)	第5回役員会	宇都宮市・コンセーレ	役員10名参加
11月10日(土)	第6回秋季講演会 【コンセーレとの共催】	宇都宮市・コンセーレ 会員23名、一般25名参加	講師：池田正夫氏 演題：日光修験 三峯五禅頂の道
12月8日(土)	第4回ヒマラヤの集い 講演会 【コンセーレとの共催】	宇都宮市・コンセーレ	講師：増本亮氏 演題：ヒマラヤ アルパインクライミング 会員22名、一般33名参加
1月12日(土) ～13日(日)	新年会・冬山山行	足利市・鹿島園温泉 大坊山・大小山	会員18名、ほか1名参加
2月2日(土) ～3日(日)	三支部懇談会	茨城県大子町・中央公民館 シバーサイド奥久慈『福寿荘』 生瀬富士山	本支部9名、千葉17名、茨城14名参加

## 2013(平成25)年度

月日	事業	場所・会場等	特記事項
4月14日(日)	春山山行	鹿沼市「尾出山(おでやま、933m)」	会員・家族を含めて18名参加
4月14日(日)	第1回役員会	与州バス停先公園	役員9名参加
5月18日(土)	第2回役員会	宇都宮市・コンセーレ	役員12名参加
5月18日(土)	総会・懇親会	宇都宮市・コンセーレ	会員22名参加
6月2日(日)	「山の日」を作ろう! 栃木集会	宇都宮市・コンセーレ	栃木支部関係者、栃木岳連関係者 栃木県勤労者山岳連盟関係者等約300名
6月2日(日)	第3回役員会	宇都宮市・コンセーレ	役員13名参加
6月29日(土)	第4回役員会	宇都宮市・コンセーレ	役員8名参加
6月29日(土)	第6回山岳映画の夕べ 「エベレスト征服」 「南壁に燃ゆ」	宇都宮市・コンセーレ 会員14名のほか一般41名参加 【コンセーレとの共催】	講師：山本篤氏 演題：8000m峰の魅力 講演をいただいた後に映画会を実施
7月6日(土) ～7日(日)	日光清掃登山 【栃木岳連との共催】	日光湯元キャンプ場 前白根山・五色山	会員4名・一般7名 総勢200名超参加
8月3日(土) ～4日(日)	第2回親子登山教室	学習院光徳小屋 山王峠、男体山	主催者側：会員など9名 参加者：親子6組16名
8月24日(土)	第5回役員会	奥鬼怒温泉『加仁湯』	役員7名参加
8月24日(土) ～25日(日)	夏山山行・懇親会	奥鬼怒温泉『加仁湯』 鬼怒沼等	会員や一般を含めて12名参加
8月31日(土) ～9月1日(日)	那須岳クリーンキャンペーン 【栃木岳連との共催】	那須岳周辺	会員関係12名参加
11月3日(日)	第6回役員会	宇都宮市・コンセーレ	役員11名参加
11月3日(日)	第5回ヒマラヤの集い 講演会 【コンセーレとの共催】	宇都宮市・コンセーレ 会員17名、一般78名参加	講師：北村誠一氏 演題：2013年夏 世界第二の高峰K2 登山とカラコルムの世界
11月4日(月)	秋山山行	荒海山(1580m)	会員10名、ほか3名参加
12月1日(日)	第7回役員会	宇都宮市・コンセーレ	役員が18名に増え、13名参加
12月1日(日)	第7回「山」の講演会 【コンセーレとの共催】	宇都宮市・コンセーレ 名称を『秋季講演会』から 『「山」の講演会』に変更	講師：猪熊隆之氏 演題：山岳気象の基礎と遭難事例 から学ぶこと 会員27名、一般117名参加
12月15日(日)	YOUTH栃木 冬山山行	日光白根山	会員1名、ほか1名参加
1月26日(日)	第8回役員会	宇都宮市・コンセーレ	役員12名参加
2月1日(土) ～2日(日)	三支部+群馬支部懇談会	足尾銀山平『かじか荘』 松木溪谷、足尾銅山	JAC会長、本支部15名、千葉支部15名 茨城支部12名、群馬支部4名参加

## 2014(平成26)年度

月日	事業	場所・会場等	特記事項
4月5日(土)	第1回役員会	宇都宮市・コンセーレ	役員13名参加
4月26日(土)	第2回役員会	宇都宮市・コンセーレ	役員14名参加
4月26日(土)	総会・懇親会	宇都宮市・コンセーレ	会員25名参加
6月21日(土) ～22日(日)	YOUTH栃木 平ヶ岳山行	平ヶ岳(2141m)	会員2名参加
6月28日(土)	第3回役員会	宇都宮市・コンセーレ	役員11名参加
6月28日(土)	第7回山岳映画の夕べ 「白き氷河の果てに」	宇都宮市・コンセーレ 【コンセーレとの共催】	講師：坂口三郎氏 演題：1977年K2登山隊の頃の登山界 会員20名のほか一般20名参加
7月5日(土) ～6日(日)	日光清掃登山 【栃木岳連との共催】	日光湯元キャンプ場 前白根山・五色山	会員4名・一般4名 総勢200名超参加
7月19日(土) ～20日(日)	第3回親子登山教室	学習院光徳小屋 山王峠、女峰山、小真名子山	主催者側：会員など8名 参加者：親子・爺孫8組20名
8月23日(土)	第4回役員会	奥鬼怒温泉『加仁湯』	役員10名参加
8月23日(土) ～24日(日)	夏山山行・懇親会	奥鬼怒温泉『加仁湯』 鬼怒沼、布引ノ滝、於呂俱羅山等	会員や一般を含めて19名参加
9月6日(土) ～7日(日)	那須岳クリーンキャンパ <sup>ン</sup> 【栃木岳連との共催】	那須岳周辺	会員参加
9月13日(土) ～15日(月)	秋山山行	国立登山研修所 称名滝、立山トレッキング 立山(雄山)、黒部溪谷トロッコ電車	会員や一般を含めて26名参加
11月29日(土)	第5回役員会	宇都宮市・コンセーレ	役員12名参加
11月29日(土)	第6回ヒマラヤの集い 講演会 【コンセーレとの共催】	宇都宮市・コンセーレ 会員19名、一般30名参加	講師：八木原罔明氏 演題：群馬のヒマラヤ登山
12月14日(日)	第8回「山」の講演会 【コンセーレとの共催】	宇都宮市・コンセーレ 会員18名、一般53名参加	講師：福田俊司氏 演題：奥日光からシベリアへ アムールトラを追って
1月24日(土)	第6回役員会	日光湯元『湯の湖荘』	役員9名参加
1月24日(土) ～25日(日)	新年会・冬山山行	日光湯元『湯の湖荘』 高山(1668m)	会員や一般を含めて14名参加
2月7日(土) ～8日(日)	四支部懇談会	千葉県館山市『ホテル川端』 房大山、お花畑	本支部4名を含めて総数37名参加
3月28日(土)	第7回役員会	宇都宮市・コンセーレ	役員15名参加



## 2015(平成27)年度

月日	事業	場所・会場等	特記事項
4月18日(土) ～19日(日)	春山山行	成蹊学園山の家「虹芝寮」 群馬県湯掛曾川、芝倉沢周辺	会員や一般を含めて22名参加
5月17日(日)	第1回役員会	宇都宮市・コンセーレ	役員15名参加
5月17日(日)	総会・懇親会	宇都宮市・コンセーレ	会員26名参加
6月28日(日)	第2回役員会	宇都宮市・コンセーレ	役員12名参加
6月28日(日)	第8回山岳映画の夕べ 「山での突然死を防ぐ」 「星にのぼされたザイル」	宇都宮市・コンセーレ 【コンセーレとの共催】	講演はなし、映画のみ上映 会員等20名のほか一般19名参加
7月4日(土) ～5日(日)	日光清掃登山 【栃木岳連との共催】	日光湯元キャンプ場 前白根山・五色山	会員5名・一般5名 総勢200名超参加
7月18日(土) ～19日(日)	第4回親子登山教室 【栃木岳連との共催】	学習院光徳小屋 山王峠、太郎山	主催者側：会員など10名 参加者：親子・爺孫8組18名
8月22日(土)	第3回役員会	奥鬼怒温泉『加仁湯』	役員9名参加
8月22日(土) ～23日(日)	夏山山行・懇親会	奥鬼怒温泉『加仁湯』 明神が岳(1595m)	会員や一般を含めて17名参加
9月5日(土) ～6日(日)	那須岳クリーンキャンペーン 【栃木岳連との共催】	那須岳周辺	会員参加
11月8日(日)	秋山山行・懇親会	宝篋山(461m)	会員17名参加
11月29日(日)	第4回役員会	宇都宮市・コンセーレ	役員12名参加
11月29日(日)	第9回「山」の講演会 【コンセーレとの共催】	宇都宮市・コンセーレ 会員22名、一般52名参加	講師：飯田肇氏 演題：山岳の魅力と脅威 …立山の雪と氷河から…
12月13日(日)	第7回ヒマラヤの集い 講演会 【コンセーレとの共催】	宇都宮市・コンセーレ 会員20名のほか一般も多数参加	講師：兵藤渉氏 演題：ランタン谷の山々
1月9日(土)	第5回役員会	足利市・地蔵の湯『東葉館』	役員8名参加
1月9日(土) ～10日(日)	新年会・冬山山行	足利市・地蔵の湯『東葉館』 行道山	会員や一般を含めて15名参加
2月6日(土) ～7日(日)	四支部懇談会	茨城県大洗町『大洗ホテル』 高鈴山	本支部5名を含めて総数52名参加
3月14日(月)	第6回役員会	宇都宮市・コンセーレ	役員9名参加

## 2016(平成28)年度

月日	事業	場所・会場等	特記事項
4月12日(火)	第1回役員会	宇都宮市・コンセーレ	役員9名参加
4月24日(日)	春山山行	霧降高原歩道、日光外山	会員や一般を含めて22名参加
5月29日(日)	第2回役員会	宇都宮市・コンセーレ	役員13名参加
5月29日(日)	総会・懇親会	宇都宮市・コンセーレ	会員26名参加
5月29日(日)	日下田顧問を囲んで マナスル登頂60周年を お祝いする会	宇都宮市・コンセーレ	会員26名参加
6月12日(日)	第3回役員会	常陸大宮市・石澤委員宅	役員12名参加
7月2日(土) ～3日(日)	日光清掃登山 【栃木岳連との共催】	日光湯元キャンプ場 前白根山・五色山	会員5名・一般5名 総勢200名超参加
7月23日(土) ～24日(日)	第5回親子登山教室 【栃木岳連との共催】	学習院光徳小屋 山王峠、男体山	主催者側：会員など10名 参加者：親子・爺孫8組18名
7月24日(日)	第4回役員会	宇都宮市・コンセーレ	役員9名参加
8月11日(木)	栃木県「山の日」制定 記念フェスティバル	日光だいや川公園	会員参加
8月12日(金)	栃木県「山の日」制定記念 ファミリー登山教室	霧降高原	会員参加
8月20日(土)	第5回役員会	奥鬼怒温泉『加仁湯』	役員9名参加
8月20日(土) ～21日(日)	夏山山行・懇親会	奥鬼怒温泉『加仁湯』 明神が岳(1595m)	会員や一般を含めて17名参加
9月3日(土) ～4日(日)	那須岳クリーンキャンプ 【栃木岳連との共催】	那須岳周辺	会員参加
9月27日(火)	第8回ヒマラヤの集い 講演会 【コンセーレとの共催】	宇都宮市・コンセーレ	講師：パトリシオ・ティサレマ氏 演題：赤道直下エクアドルの山々 会員・一般含めて約60名参加
10月2日(日)	第6回役員会	宇都宮市・コンセーレ	役員9名参加
10月16日(日)	創立10周年事業実行委 員会	常陸大宮市・石澤委員宅	役員12名参加
10月28日(金)	第7回役員会	学習院光徳小屋	役員7名参加
10月29日(土)	秋山山行	男体山	
11月11日(金)	創立10周年事業実行委 員会	那須塩原市・神島委員宅	
11月23日(水)	創立10周年事業実行委 員会	宇都宮市・コンセーレ	
11月27日(日)	第8回役員会	宇都宮市・コンセーレ	
11月27日(日)	創立10周年記念式典・ 祝賀会	宇都宮市・コンセーレ	

## 栃木支部トリビア

栃木支部会員でもある作曲家船村徹氏が今年度の文化勲章を受章されました。まことにおめでとうございます。また「山の日」制定にあたっては、氏の言動が大きな影響を与えたのは衆目の一致するところであります。そこで2008年9月7日付下野新聞に掲載された氏の『「山の日」をつくろう』という提言を示します。

「海の日」という祝日がある。1996年に制定された国民の祝日のひとつである。

現在7月の第3月曜日となっていて、世界唯一、わが国にだけ存在する祝日である。

海をテーマにした作品を数多く作ってきた私も心から納得して、設立には微力ながら協力したおぼえがある。ぐるりと海にかこまれた海国日本なのだから、われわれが海の恩恵にあずかって生きているのもあたりまえだ。

しかし、まてよ、考えれば考えるほど、なんかへんな気がしてならないのである。「海があんのに山がねえー」べつに海なし県の栃木で生まれ育った男の偏見などではなく、自然界の大摂理として、太古から信仰的にも実生活的にも人類にとっては「山海一体」なのであった。

山に降った雨や雪は、森にしみ出して林を流れ下り村や里をうるおして大河となって、やがて広大な海洋へとたどり着くのだ。とどのつまりが山と海とは、親友でもあり、男と女、夫婦以上に深い仲でもあるのだ。山が栄えれば海がよろこび魚は肥える。深山幽谷をほとぼしる水源は神秘の栄養にみちて、プランクトンやミネラルなどを運んで、溪谷や湖沼の淡水魚や里の農産物にも幸せを授けながら大海に入ってゆく。

やっぱり「山」はすごいのだ。「山」が痛んじゃいけない。近ごろの燃料の高騰が海上労働にたずさわる諸氏にとっては、たしかに楽ではない

全国的にいちころでヘコタレっちまうだろう。

幼かったころのふる里の川には、天然ものの溪魚はピチピチとむれ跳ねていて、学校帰りに川へ入ってヤマメでもイワナでもカヅカでも、手づかみでバケツ一杯とれたもんだった。

秋になると裏の山々には渡り鳥たちが飛んでくる。あの那須岳の奥のあたりに、おれの初恋のひとが住んでいるんだ一などと空想して、渡り鳥にたのんでみよう一葉に書いた愛の手紙を…そんな少年の恋物語を友人たちと語りながら歩いた山の小径も、なぜか美しかった。

山国で育った私は、中禅寺湖しか知らなかったから、上京して音楽大学に入ると横浜港へ海を見に出かけた。あのあたりはアメリカ占領軍の管理がやかましくて、「犬と日本人はいるべからず」なんて書いたカンバンがフェンスにぶら下がっていたが、かまうもんかともぐり込んで波止場の水をなめてみた。やっぱり塩っぱかったのを今でもおぼえている。

最近、海を豊かに守るためには、「山」を大切にしなければならないと、植林活動にいそしむ漁協も多いと聞く。いい事である。

今こそ日本国民が心をひとつにまとめて、「山の日」をつくり、国民の祝日とさだめ、おおいに、「山海の友情」を厚くしようではないかと思っている。

# 各委員会の活動

## 自然保護委員会活動報告

自然保護委員長 石澤 好文

本支部の自然保護委員会は、委員長以下3名の自然保護委員を中心に活動しています。主な活動として、本支部創設以来毎年実施している栃木県山岳連盟との共催事業である『日光清掃登山』及び栃木県山岳連盟、栃木県勤労者山岳連盟との共催事業である『那須クリーンキャンペーン&清掃登山』の二事業を実施しています。この二事業は、平成23年度から山の日制定プロジェクトとの一環として取り組んできましたが、昨年山の日制定が決定され、その制定の意義を広く周知することを目的として実施しています。これらの二事業について報告します。

### 【日光清掃登山】

毎年7月の第一土・日の日程で実施している。清掃登山前日の土曜日には、前夜祭が湯元キャンプ場で開催され、さまざまな分野の講師による講演会が実施されている。その後、山岳連盟の自然保護委員会の方々のお世話になり、交流会を実施し、交流を深めている。

翌日の日曜日には、湯元ビジターセンター前広場の開会行事の後、各会ごとに各コースに分かれて清掃登山実施している。清掃後、回収したゴミを分別し湯の湖レストハウスに出し、清掃登山を終了する。

### 【那須クリーンキャンペーン&清掃登山】

毎年9月の第一土・日の日程で実施している。日光清掃登山と同様に清掃登山の前日に前夜祭を開催し、各自がつまみ1品を持ち寄り懇親会が開催され、親睦を深めている。

翌日曜日のクリーンキャンペーン&清掃登山は、峠の茶屋駐車場にて開会式を行い、その後、各会に分かれて清掃登山を行っている。



本支部会員、一般参加者、それに大田原高校山岳部のフレッシューズも揃って記念写真  
【2009年7月5日(日)】



那須クリーンキャンペーンに参加した本支部会員  
【2013年9月1日(日)】



日光清掃登山に参加した本支部会員などの面々  
【2014年7月6日(日)】

## 事業委員会活動報告

事業委員長 麦倉 常治

事業委員会は、本支部の委員会の下に置かれ、本支部で開催する各事業（行事等）の企画運営をしています。本委員会は10名の会員により構成され、委員が本支部行事の各担当や副担当を務めています。

本支部の行事は、本会が公益社団法人であることから、栃木県山岳連盟や一般財団法人栃木県青年会館（コンセール）との、協力連携を図りながら公益事業を開催しています。別記の本会活動にあるように、各種山岳に関する講演会や映画会、地元山岳地における清掃登山、さらには親子登山教室など、会員以外の一般の方にも参加いただき、広く山の魅力や自然保護意識の醸成、安全登山の知識の普及などに役立っています。

また、公益以外の共益事業として、本支部会員を対象とした山行などの各種行事の開催の企画運営も行っています。主に地元の山や自然を対象とした山行や、会員相互の親睦を図ることを目的として開催する懇親会など、会員同士の繋がりをより深くすることで、会の組織的な強化が図られるよう努力しているところです。また、様々な会員で構成されているため、会員間での広範な情報交換の場としても有用に活用されています。

本会の行事開催では、本委員会以外に委員以外の各会員の協力を得る事で円滑な運営ができていくことに感謝しております。今後も会の事業について会員皆様の御協力をお願い申し上げます。



講演会では支部会員をはじめ多くの方が熱心に耳を傾ける【2013年12月1日(日)】

## YOUTH 栃木活動報告

ユース栃木委員長 深谷 篤志

この度は日本山岳会栃木支部創立10周年おめでとうございます。その中でユースは4年目の活動となります。

ユースの方は4年目とまだまだ始まったばかりですが栃木支部のメンバーとしてこれからも頑張ってもらいますのでどうぞよろしく願いいたします。

さて、ユースの活動ですが初年度の冬の奥白根山の日帰り登山からスタートしました。栃木の良いところは県内に素晴らしい山が沢山あるところだと思います。特にこの奥白根山は関東以北にこの山より高いものではなく、また植生もダイナミックで登っていてとても気持ちの良い山です。また冬山も高校生の合宿に使えるように危険も少なく安心して登れるということでも懐の深い山だと思っています。そんな思いから記念すべき最初の山に選びました。コースは中曾根から積雪は例年並みかと思いますが二人での登山だった為ラッセルも多く国境平付近で時間切れとなり下山しました。私自身実は高校3年生以来の奥白根山の冬山だったので少し遠慮がちだったという思い出があります。けれど、久しぶりの冬山は緊張感とラッセルによる全身運動？のおかげで心身ともに充実した山行となりました。

2年目は平ヶ岳、槍穂高、那須岳に行ってきました。平ヶ岳は天候があいにくの雨でしたが麦倉先生にサポートしていただきながら無事登頂することができました。頂上は平ヶ岳というだけあって平らでしたが独特な湿原で栃木の山では見ることのできない風景でも印象に残っています。槍穂高は高校生のサポート登山という事で私の母校であります栃木県立大田原高校山岳部の夏山合宿にサポート要員として参加させていただきました。

私が在籍していたころは山岳部ができて5～6年目でしたので少人数でしたが今は創部30年ほどで部員も30数名と大所帯になっていました。けれど組織がともしっかりしていてとても頼もしい後輩たちでした。天候にも恵まれ大変良い山行となりました。このサポート登山は、高校山岳部の活動が盛んな栃木ではありますが、卒業後の受け皿がないため会に入って山を続けるという事がないような気がしています。その点を渡邊支部長よりご指摘いただき、ゆくゆくはそういった方たちの受け皿になればと思います。私としましても少し

でも恩返しができたらという思いで、この年から時間の取れる夏山合宿は参加させてもらうようになりました。

那須岳は前田さんに指導していただくという形で、2月の強風の中参加させてもらいました。この時期の那須岳は初体験であまりの強風にとっても驚きました。途中の峰の茶屋で引き返しましたが、あの風を体験できたのはとても良い経験になりました。この年は初めての体験も多く充実した山行が多かったと思います。

3年目は白馬岳、那須岳に行かせていただきました。白馬はやはり2年目と同じく母校の夏山合宿に参加させていただきました。台風の影響もあり日程が変更になりましたが素晴らしい天候の中縦走することが出来ました。

途中の雪渓では1mほどの岩が、歩いた後をものすごい勢いで通過していったのには驚かされましたが、事故につながらず大変ほっとしました。また連続で参加したことで高校生の成長を感じ取ることが出来て、違う喜びと若い方からのエネルギーを頂きました。

那須岳も2年連続となりましたが、今回は前田さんに麦倉さんも参加されての山行になりました。峠の茶屋～峰の茶屋～朝日岳～茶臼岳のコースでした。天候もよかったのですが前田さんを先頭に大変なハイペースでなかなかのトレーニングになりました。この年は風が弱かったのでもとても快適な山行となりました。帰りのデニーズがおいしかった！山の緊張感から解放された後の食事は何を食べても？いえいえデニーズは最高です。

4年目はまだ途中ではありますが春の虹芝寮、恒例になった大田原高校夏山合宿に参加させて頂きました。

虹芝寮は成蹊学園の熊崎様のご配慮で実現しました。今回は芝倉沢から一ノ倉岳のコースで、登りは一緒ですが、山頂からは山スキー班と徒歩班に分かれ下山。山スキーが初めてで、スキーを履いているのに、渡邊支部長をはじめ熊崎様達にあっという間に離されてしまいました。山の奥深さを思い知らされた山行でもありました。

3年目になった大田原高校山岳部の夏山合宿は南アルプスの北岳でした。天候にも何とか恵まれ、心地よい山行でした。3年生とは3年間夏山に同行することになり、その成長とたくましさに大変感激しました。人はいろいろな場面を経て成長すると思いますが、こうした高校生を見ていると、自然の中でもまれながら暮らすことはかけがえのない体験なのではと改めて感じました。そして北岳のピークで3年生の皆さんと一緒に写

真を撮れたのが何よりの記念になりました。

以上がこれまでの主な活動報告になりますが、若輩者の(もうあまり若くない?)私でございますが、先輩方の温かい見守りの下で YOUTH 栃木の活動をこの4年間やらせていただきました。当面の目標は新たな会員の確保になるかとは思いますが、地道に取り組みたいと思います。

最後になりますが日本山岳会栃木支部が益々発展いたしますように、微力ながら一緒に歩かせていただきたいと思います。

## マスターズクラブ活動報告

マスターズクラブ委員長 上田 景子

### ◇◇◇山へのお誘い◇◇◇

健康のために登山、ハイキングができればいいなあと、前田洋、長、上田が企画しました。月に1回程度、いい汗を流して、いい景色の中でお弁当を食べられたら…決して無理をせず、時には背伸びしたくなるかもしれませんが、あくまで健康のための山を考えています。いかがでしょうか。

これがマスターズクラブの始まり、平成24年1月のことでした。どこにどういふ山があるかもわからず、本と地図のにらめっこで、「栃木百名山」をバイブルとして、コースも本の通りで行うしかなかった。

栃木県は関東平野を大きく抱え、北へ向かうほど山に向かい、登山口まで車で行かなければ、電車と路線バスでは日が暮れてしまう。従って車と運転免許証は不可欠である。お陰様で、湯元、那須、鬼怒沼方面、高原山、どのようにいけばよいかわかるようになった。

また、知らないことはずうずうしくなること、山の近くに住まいを置かれていらっしゃる方をお願いして案内頂いた。

太平山は中村さんの縄張りで、いつものコースを案内していただいた。

雨巻山は山本さん、三登谷山の近くの岩場を見て《あそこをよく遊んだよ》と。また、高館山、芳賀富士では陶芸の小道や穴場の駐車場を案内して下さり、おかげでスムーズに登山できた。

松倉山は森さん、観光協会、教育委員会まで足を

運び下準備をしてくださり、恐縮してしまいましたが、とてもうれしかった。

古峰ヶ原、これは著者と行く山行のように小島さんがガイドして下さった。

足利の山、石尊山、深高山、鶏足山、焼森山も著者と行く山行で、仙石さんが周りの山を説明しながら案内して下さった。鶏足、焼森山では内間さんがミツマタの群生を案内して下さり、底力のようなものを感じた。

宇都宮アルプスは北見さん、鈴木さん偵察までしてくださり、プリントもいろいろ集めて、紹介して下さった。またここは小島さん、仙石さんのテリトリーとかで道中は説明付き山行であった。

これらの登山はただ山へ行くということではなく、その地域独特の知識を提供して下さり、一味も二味も違った登山になり心豊かな山行を楽しんだ。

## ◇◇◇山行報告まとめ◇◇◇

### 【2014年】

- ① 1月23日：太平山、晃石山  
六角堂—アジサイ坂—大平神社参拝—大平山—晃石山—謙信平—  
参加者：坂口、関根、中村、北見、鈴木、前田洋、上田
- ② 2月25日：雨巻山  
大川戸ドライブイン—三登谷山、雨巻山—猪転げ坂—峠—大川戸  
参加者：坂口、山本、関根、中村、北見、長、石井、鈴木、前田洋、上田、茨城支部の方、鈴木友人（石井）
- ③ 3月16日：松倉山、烏山城址散策  
大木須小跡地—松倉山—ぐるっと回って、役場に駐車して城址を散策  
参加者：森、山本、関根、中村、長、前田洋&文、上田
- ④ 5月20日：古峰ヶ原  
古峰神社駐車場—峠—三枚岩—方賽山—横根山—往路をたどる  
参加者：小島、関根、中村、長、早川、石井、鈴木、前田洋、上田
- ⑤ 6月21日：井戸湿原と地藏岳(1274m)  
にしかた道の駅—粕尾峠—地藏岳—往路—井戸湿原—前日光ハイランド  
参加者：森、山本、関根、中村、鈴木、前田洋&文、上田

- ⑥ 7月31日：田代山  
ロマンティック村—鈴木さんの車で猿倉登山口—小田代湿原往路  
参加者：中村、関根、早川、石井、鈴木、前田洋、上田
- ⑦ 10月18日：金精山  
金精峠—金精山—中ツ曾根—スキー場  
参加者：山本、中村、鈴木、前田洋、上田
- ⑧ 11月17日：仙人が岳  
参加者：長、前田洋&文、上田
- ⑨ 12月20日：石尊山—深高山  
参加者：中村、仙石、関根、早川、石井、鈴木、前田洋&文、上田

### 【2015年】

- ① 2月25日：高館山—芳賀富士  
参加者：山本、関根、菱田、北見、鈴木、長、前田洋、上田
- ② 3月30日：本山—榛名山—男山—飯盛山  
参加者：小島、仙石、関根、北見、石井、鈴木村田、長、前田洋、上田
- ③ 5月30日：南月山  
参加者：山本、中村、関根、鈴木、村田、君島、前田洋、上田
- ④ 6月24日：三本槍  
参加者：関根、鈴木、前田洋、上田
- ⑤ 7月 雨のため中止
- ⑥ 9月23日：赤薙山  
参加者：山本、関根、長、鈴木、前田洋、上田
- ⑦ 10月22日：鶏鳴山  
参加者：坂口、関根、鈴木、前田洋、上田
- ⑧ 12月17日：笹目倉山  
参加者：関根、鈴木、前田洋、上田

### 【2016年】

- ① 2月19日：鶏足山、焼森山  
参加者：坂口、仙石、鈴木、関根、内間、前田洋、上田
- ② 3月28日：火戸尻山  
参加者：坂口、小島、関根、北見、鈴木、吉沢、石井、長、前田洋&文、上田

# 2015 年度の活動の足跡

## 第2回役員会・事業委員会

日時：2015年6月28日(日)14:00~14:30  
場所：宇都宮市『コンセーレ』タイムズスクエア  
参加者：役員18名中12名

## 第8回夏の山岳映画の夕べ (本支部とコンセーレとの共催事業)

日時：2015年6月28日(日)15:00~17:00  
場所：宇都宮市『コンセーレ』大ホール  
映画：『山での突然死を防ぐ』  
『星にのぼされたザイル』  
参加者：支部会員20名、一般19名、合計39名

- 例年のことであるが、どのくらいの人が来場するか見当がつかず、当日の梅雨空の天候も心配の種であった。コンセーレとの打合せの際に、会場は大ホールを使用するというで進んだ。
- 参加者は支部会員と一般を含めて39名であった。過去の映画会と比べると一般の参加者が少なく、ちょっと残念であった。今回はチラシ作成から映画会までの期間も短かったことも原因として考えられ、次回は広報面で改善が必要と思われた。
- 8回目の今回は、例年行ってきた講演会は行わず、2本の映画のみの開催で行った。第1部は「山での突然死を防ぐ」でこれは日本山岳会 医療委員会のシンポジウムをDVD化したもので内容的には安全登山を中高年登山者の体の面で考えさせる良い内容であった。道迷い、転落、滑落の原因による事故が圧倒的に多い中で、登山者個人の体調を知って登山することに認識を新たにしないのだろうか。第2部は、今回のメインになる監督・製作が往年の名クライマーのガストン・レビュファの「星にのぼされたザイル」で、「星と嵐」、「天と地の間に」の3部作の一部である。私もそうであるが、参加者の中にも昔、見たことがある人も多かったのではなかろうか。現在の登攀とは隔世の感があるが、華麗な登攀とヨーロッパの美しい山群、見ている方も時には冷や汗が出るようなスリルのある登攀を堪能したのではないだろうか。若い世代の登山に興味のある人にも見てもらいたかった映画であった。
- 映画会の後は、恒例の懇親会に移り、映画の話題や近況報告など、会員の懇親を深めた。

## 日光清掃登山(栃木県岳連との共催) 【山の日制定プロジェクト】

日時：2015年7月4日(土)、7月5日(日)  
場所：日光湯元キャンプ場、前白根山・五色山  
参加者：清掃登山…会員5名、一般5名  
【全体では200名超】

## 親子登山教室

日時：2015年7月18日(土)~19日(日)  
場所：学習院日光光徳小屋、山王峠、太郎山  
参加者：親子・爺孫8組18名、講師2名、支部8名  
行動概要：  
7/19(土)：曇り、時々わか雨  
光徳P(受付)9:30=光徳小屋 10:10、開会式  
10:30~10:55、昼食 10:55~11:55、読図・コンパ  
ズ使用法の講義 11:55~12:15、ハイキングに出  
発 13:15…雷雨により山王峠手前500m地点から  
引返す…光徳小屋 13:50…夕べの集い 15:00~  
15:30…夕食 17:00…星座についての講義 19:00  
~20:00…就寝 22:00  
7/20(日)：曇り、時々わか雨  
起床4:00…朝食5:10、出発6:00==林道遮断機  
6:20、準備体操後出発 6:35…女峰山登山口(林  
道分岐)7:40…馬立 7:50…唐沢小屋にて昼食  
10:00~10:40[雨のため登山中止・下山]…馬立  
11:50…林道分岐 12:10…遮断機 13:20、同発  
[小真名子班：山頂 11:10…遮断機 14:20]  
14:30==光徳P 14:50、閉会式 15:00、解散 15:10

### 【7月18日(土)】

- 2014(平成24)年に開始された親子登山教室も、今年度第4回目を迎え、親子8組、18人、講師(前博物館課長・山桜会長)2名、日本山岳会栃木支部スタッフ8名の参加で実施されました。9:30より光徳駐車場で受付開始、小雨の中光徳小屋まで、参加者及び荷物をスタッフの車2台でピストン輸送。10:10全員光徳小屋に集合。10:35から開会行事を行い、自己紹介後10:55から11:30分まで昼食並びに荷物を部屋に移動する。
- 11:30小雨の中雨具を付け、小学2年生の親子を先頭に低学年から隊列を組み山王峠ハイキングに出発する。途中富永講師からキノコや植物等の講話をしていただく。13:15山王峠のベンチ前に全員元気に到着。ここで記念写真を撮り13:25下山を開始。山王峠ハイキングは明日の太郎山登山のリハーサルを兼ねた山行でしたが、雨の中全員元気に14:30学習院日光光徳小屋に到着。



- 15:30 から夕べの集いを行い、昨年も参加した稲葉清香さんが参加の抱負を述べ、スタッフから小屋使用上の注意や今後の日程等の説明を行い 15:45 夕べの集いを終了した。
- それ以降、子どもとスタッフが夕食の準備（カレー）を、保護者はミーティングを行った。子どもたちは、保護者の心配をよそに嬉々として夕食の準備を行っていた。また、ミーティングを通し保護者同士がお互いに親密になり、子どもの教育やら登山についての話に盛り上がった。
- 17:00 から夕食、夕食後に明日の朝食のおにぎりづくりを子供たちは、楽しそうに行っていた。19:00 から、星座の観測会を行う予定でしたが、今年も天気が悪く外での観測会を中止し、屋内で富永講師よりの星座に関して分かり易く話していただき、子供たちは熱心に興味深く聞いていました。最後に渡邊支部長から短時間でコンパスの使用法についての講義を行い 20:00 に終了する。
- 20:10 から明日の行動予定他についてスタッフミーティングを行い 21:00 全員就寝。子どもたちは天気こそ悪かったが、すぐに友達になり、自由時間には小屋の前の広場で遊んだり、セミの抜け殻を見つけたり、小屋でかくれんぼをしたりと自然の中で楽しい時間を過ごしていました。

### 【7月19日(日)】

- 4:00 起床、4:30 より子どもはスタッフと朝食準備、保護者は、部屋の掃除と出発準備。朝食後本日の行動予定を確認。6:00 にスタッフの5台の車に分乗し出発、裏男体林道をとおり太郎山登山口 6:20 到着。準備体操の後 6:35 全員元気に出発。昨日の雨もあがり、雲は多いものの絶好の登山日和になる。
- 登山口からお花畑までは鎖場やロープの着いた急登になるが、戦場ヶ原、男体山、大真名子山、小真名子山、女峰山の景色を楽しみながら全員元気に登る。9:55 お花畑に到着。ここまで来ると太郎山頂上は間近である。
- 10:25 待望の太郎山山頂に到着。すぐに記念写真を撮り、昼食をとる。同じルートを下山するが、新薙コースは岩場の通過、そして段差が激しいコースなので、参加者の5人（小学校2～3年生）には、スリングを利用し簡易ハーネスを作成し後ろからスタッフが確保しながら下山する。参加者の保護者にも協力していただく。スムーズに下山すること出来た。登山口には14:05 全員元気に到着する。整理運動の後、14:15 スタッフの車5台に分乗して光徳駐車場に向け出発。
- 14:30 光徳駐車場に到着し、閉会式を行う。栃木県山岳連盟が共催の関係で日本山岳協会より登山教室修了証を参加者親子全員に渡し14:50 解散した。
- 今回は、梅雨末期の不安定な天気であり、小雨の中

の山王峠ハイキング、そして星座の観察会はできなかったものの、太郎山は雨も上がり絶好の登山日和のなか、全員元気に登頂することができました。元気に2日間歩いてくれた子どもたちに感謝したいと思います。今回の経験をこれから親子で登山していくうえでぜひとも活かしていただけたら幸いです。

- 予定したプログラムを全て終了することはできませんでしたが、『美しく雄大な自然にふれながら、親子の絆を深め、他人との協働と日光山系（太郎山）登山による自然体験を通して、心身ともにたくましく自立する青少年の人格形成の一助とする。』という親子登山教室の目的は達成することができたものと思っております。
- 子どもたちが嬉々として夕食や朝食の準備をする姿、太郎山の急登を元気に登る姿を見、スタッフ一同準備の苦労を忘れさせ本当に親子登山教室を実施して良かったと実感しております。子供たちの元気な姿がある限り、次年度以降もこの事業を継続していきたいと思っております。次年度もぜひとも多くの方の参加をお待ちしております。



楽しい夕食（全員そろっていただきます。）（2015.7.18）



参加者代表挨拶（2015.7.18）



山王峠ハイキング出発  
(光徳小屋前にて)  
(2015.7.18)



太郎山の登り (2015.7.19)



太郎山頂にて楽しい昼食  
(2015.7.19)



太郎山頂にて  
(2015.7.19)

閉会式後の記念写真  
(2015.7.19)



## 第3回役員会・事業委員会

日時：2015年8月22日(土)14:00~14:30

場所：奥鬼怒温泉郷『加仁湯』

参加者：役員18名中9名

## 夏山山行・懇親会

日時：2014年8月22日(土)~23日(日)

場所：奥鬼怒温泉郷『加仁湯』

奥鬼怒ハイキング、明神が岳(1595m)

参加者：坂口、前田 F&Y、牛窪、石澤、山本、上田、仙石

菱田、神島、長、鈴木、深谷、青山、村田

支部会員外：藤田、神島一の計17名

行動概要：

8/22(土)：加仁湯集合は女夫淵より徒歩またはバス、役員会後の懇親会は全員参加

8/23(日)：朝食 7:00、加仁湯 8:00 == 女夫淵 8:30、8:50 == 湯西川水の郷 == 滝倉橋 10:30 ...1361m 12:45~13:10...滝倉橋 14:30 == 湯西川水の郷 14:40、解散

### 【8月22日(土)】

- まずは夫婦淵に集合。皆さん集合時間よりだいぶ早く到着されていたので着いた順に出発。
- 時間的にも余裕があるのでそれぞれ散策されたようだ。天候は何とか持ってくれて雨に降られることなく到着。到着後は役員会も開催され10周年の行事の提案がされた。
- 夕食は懇親会も兼ねて行われそれぞれの近況を報告しながら盛り上がる。その後部屋に戻っての2次会の山談義は最高である。狭いテント生活が身に染みているのだろうか。夜、あいにくの雨模様となる。温泉に入りながらの雨は風情もあるが次の日のことを考えると少々心配になる。

### 【8月23日(日)】

- 朝食後、お弁当をもらいつつ来年の予約を済ませる。加仁湯の大提灯の前で記念撮影を行う。その後バスに乗り込み夫婦淵駐車場へ。ここから各々車に乗り湯西川水の郷へ。ここから3台に分乗し滝倉橋に向かう。途中かなり落石がありパンクする車も出た。パンク修理後準備体操をして出発。
- 天候は曇り。最初急登坂続く。なかなかハードだ。尾根に出るとなだらかになる。雲の中に入ったのか多少雨粒を感じる。途中、加仁湯でもらったおにぎりを食べ、1361mのピークで帰りのことを考え下山を開始。明神が岳のピークは踏めなかったが安全第一という事でよい判断だった。途中、濡れていたのがスリッパした方も出たが大きなけがをする人もなく無事下山。林道の落石を避けながら水の郷まで車で移動。解散式を行い無事終了となった。

- その後は各々珍品?いや民芸品を多数おいてある水の郷で買い物をしたりソフトクリームを食べたりと楽しんでた。山の後にこういった楽しみがあるのも幹事さんの場所の選定の妙だと思う。
- 最後に、恒例となっている加仁湯を中心とした山行だが、毎年同じ場所に来られるというのも大変幸せなことだと感じた夏山山行だった





## 第36回那須クリーンキャンペーン & 清掃登山(栃木県山岳連盟と共催)

日時：2015年9月5日(土)～6日(日)  
場所：那須、峠の茶屋園地、茶臼岳周辺  
参加者：12名(森、坂口、臼田、仙石、蓮實、北見、東、内間、仲島、鈴木、稲葉×2)  
行動概要：峠の茶屋駐車場(開会式)7:30…峠の茶屋…茶臼岳山頂…峠の茶屋駐車場 12:00

○曇りがちの天気の中、予定通り実施。恒例の行事だが、今年度はゴミ拾いだけでなく、登山道整備も行った。峠の茶屋駐車場から峠の茶屋経由で鉄杭やトラロープなどを分担して運び、茶臼岳頂上付近の登山道に杭を打ち、ロープを張る。これにより、道迷いや植物の踏み荒らしが減ることを期待したい。

## 秋山山行

日時：2015年11月8日(日)  
場所：宝篋山(461m)  
参加者：森、坂口、前田F & Y、牛窪、石澤、山本、上田、中村、長、早川、石井、増淵、仲島、鈴木、青山、村田の17名  
行動概要：  
○道の駅にのみや 8:40＝宝篋山小田休憩所駐車場 9:30、同発 9:55…宝篋山山頂 11:55、同発 12:20…宝篋山小田休憩所駐車場 13:55、14:20 発＝道の駅にのみや 15:00、解散

○『道の駅にのみや』に15名が8:35集合、増淵車・前田車・石澤車の3台に分乗し8:40出発。天気が悪く小雨が降っている。とりあえず登山口に行ってから山行をするかどうか判断するとして出発する。雨のせいか駐車場は思ったよりすいていた。  
○9:30宝篋山登山口到着。山本武志さんが東京からの直接登山口に8:00に到着し待っていてくれ、合流する。9:45青山・牛窪組が登山口に到着し、予定していたメンバー全員が集合する。雨は降っていたが、それほど強くなく行けるところまで行くことにし、簡単な出発式の後、9:55出発。  
○予定通り極楽寺コースをたどることにする。地藏菩薩立像を見学し、極楽寺跡地を通り、五輪の塔を見学しながら、沢コースを辿る。  
○慈悲の滝等小さな滝を見ながら、白滝にて休憩。雨は降り続いていたが樹林の中なのでそれほど気にならない。葵の滝。太郎こぶしを過ぎたところ

から沢を離れ水平歩道になる。途中富士山やスカイツリーが見える展望台があるが、雨で展望はきかない。富士岩手前で休憩する。雨が強くなってきたが頂上まで1キロほどなので頂上に行く事にする。

○こぶしの森で常願寺コースと合流し道が広がる。宝篋峰城跡を右に見ながら、林道(バイオトイレがある)に合流する。ここから10分ほどで宝篋山山頂である。山頂到着11:55。山頂には宝篋印塔があり、これが山名の由来になっている。三角点を確認したりするが、雨が降り風もありすぐに下山し、林道との合流点で簡単に昼食をとる。  
○12:20分全員が頂上より戻り同じルート下山する。途中宝篋峰城跡を通り、宝篋山小田休憩所駐車場に13:55到着。14:00青山・牛窪組はすぐに帰途につく。残り15名は小田休憩所でお茶等をご馳走になりながら昼食をとり、14:20に3台の車に分乗し、『道の駅にのみや』に15:00到着。ここで解散式を行い15:10解散する。



宝篋山山頂にて(雨とガスの中)

## 第4回役員会・事業委員会

日時：2015年11月29日(日)14:00～15:00  
場所：宇都宮市『コンセーレ』タイムズスクエア  
参加者：役員18名中12名

## 第9回「山」の講演会

(本支部とコンセーレとの共催事業)

日時：2015年11月29日(日)15:00～16:50  
場所：宇都宮市『コンセーレ』1階大ホールA  
参加者：会員22名、一般52名、計74名  
講師：飯田肇氏  
(富山県立山カルデラ砂防博物館学芸課長)  
演題：「山岳の魅力と脅威  
……立山の雪と氷河から」

○多くの方のご尽力のお陰で、昨年の第8回「山」の講演会にもまして大勢の方にお越しいただき、盛況のうちに開催することができた。支部会員・一般の方を合わせて74名の参加者があった。埼玉支部の石岡慎介さんも来場された。渡邊支部長の挨拶ならびに講師紹介に続いて、早速飯田講師の講演に入る。なお飯田講師の所属する『富山県立山カルデラ砂防博物館』には、栃木支部秋山山行で立山方面に出向いた折【講演会前年の2014(平成26)年9月13日(土)】に見学をさせていただいたので、飯田講師にはとても親近感を覚えたものであった。

○立山・劔岳で氷河が確認されたことを中心に立山の魅力を力説されると同時に、そうした魅力に隠された脅威についてもお話しをいただいた。講演会後「タイムズスクエア」で懇親会を開いた。飯田講師も含めて14名の参加があり、一献傾けながら氷河の話しに花が咲いたことであった。

○以下、講演の内容を抜粋して報告する。

### 1 導入

晴れた男体山は初めてで、しかもまわりの山々に雪がついていたが、今年の北アルプスは、例年だと2mほどの雪があるのに、11月25日頃まで積雪0センチであった。しかし今日の冬型で130センチくらいの積雪になった。

### 2 立山の魅力

ヒマラヤに劣らぬ立山の魅力は、①上昇する山 ②氷の山 ③火の山 ④水の山 といった要素が凝縮してある点。

#### ①上昇する山

ヒマラヤと立山はでき方が同じで、プレート同士の衝突で形成された。立山連峰の基盤は花崗岩であるが、80万年前の世界一新しい花崗岩が発見されており、急激に隆起したことがわかる。

#### ②氷の山

世界でも有数の豪雪地帯で、今年の「雪の大谷」は19mの高さになった。雪の壁を調査すると沢山の事がわかる。真っ白い雪と黄砂の混じった雪の違いを認められるし、温暖化の影響で雨が降ったり溶けたりしてできた透明な氷の板も入っている。立山の2500m付近の年降水量は雪3000mmと雨3000mm合わせて6000mmに達する。

氷河の定義は厚い氷体のあること、それが流動することであるが、氷河圏としては緯度や標高が低いので、日本には氷河が存在しないといわれてきた。しかし年を越して残る雪(万年雪)が立山近辺にはあるので、立山や劔岳で調査をして、氷河の存在を確認できた。劔岳の三ノ窓雪渓・小窓雪渓、立山の御前沢雪渓がそれである。

氷河は、(1)気候の監視者、(2)地球温暖化のタイムカプセル、(3)貴重な資源である。

#### ③火の山

立山の噴気活動は大変活発であり、弥陀ヶ原は火山活動によって形成されたものである。

#### ④水の山

落差4段350mを誇る称名滝は、水の浸食で年に1~10センチずつ後退している。

### 3 山の脅威と防護術

高度に伴う気温の低下や強風による低体温症の事例が多い。低体温症の三大要因は(1)稜線付近の気温の低下(2)稜線付近の強風(3)降雨・曇等による濡れであること。これらを引き起こすのが、温帯低気圧の発達と通過後の寒気流入であり、気象遭難の9割を占めている。また沢の増水や土石流(鉄砲水)による山岳遭難も多くなっているため注意が必要である。



渡邊支部長が挨拶、続いて飯田講師の紹介をする。



映像を使って講話をなさる飯田肇講師

## 第7回「ヒマラヤの集い」講演会 (本支部とコンセーレとの共催事業)

日 時：2015年12月13日(日)15:00~17:00  
場 所：宇都宮市『コンセーレ』アイリスホール  
講 師：兵藤渉氏(大阪市立大学山岳会)  
演 題：「ランタン谷の山々」  
参加者：本支部会員20名、一般29名、計49名

- 「ヒマラヤの集い」も今回で7回目となった。2015年4月25日、ネパールヒマラヤで登山活動中に「ネパール大地震」に遭遇した大阪市立大学山岳会、ランタン・リ登山隊の兵頭渉氏を講師にお招きし、貴重な体験を語って頂いた。当日は栃木支部会員以外にも新聞等で講演会の開催を知って駆けつけた熱心な登山愛好家やネパールに関心のある方々等が多数参加した。渡邊支部長の挨拶並びに講師紹介に続き、講演が開始された。
- 1961年、大阪市大山岳部・山岳会は、ランタン・リルン峰(ネパールヒマラヤ・7245m)で雪崩に襲われ第1次隊3名の尊い命が犠牲となった。日本隊として初めてのヒマラヤ遭難であった。その後も挑戦し続け、1964年、第二次隊はランタン・リルン峰には登頂できなかったが、ウルキンマン峰(6151m)、モリモト・ピーク(ブンダン・リ6150m)に初登頂し、1978年には第三次隊が念願のランタン・リルン峰をリルン氷河ルートから初登頂を果たした。
- 先の遭難事故から50回忌にあたる2010年春、墓参団を編成し、リルンBC及びランタン村の墓名碑にて法要を営んだ。その時、ランタン谷の峰々への登山が話題に上り、ランタン・プロジェクトを立ち上げた。ランタン・プロジェクトとして、2011年にはグルカルポ・リ(6891m)、2012年にはサルバチョム(6912m)、2013年にはドルジェ・ラクバ(6966m)、2014年にはランタン氷河第2の高峰ランタン・リ(7205m)に挑んだが、いずれも初登頂時の報告書に書かれたルートとは状況が全く難化してしまい、4年連続で登頂できなかった。登頂断念が度重なる中、次なる目標をランタン・リに定めて再挑戦することになった。元々5カ年計画だったランタン・プロジェクトは万全な準備の元、最後の遠征に挑んだ。
- 2015年4月10日、シャブルベシからキャラバン開始。20日、ヘリでBC(5300m)入り。21日、BC建設完了。22日、プジャのセレモニー、C1(5700m)予定地への荷揚げ。23日、荷揚げ、C1建設、C2ル

ート偵察。24日、BCで休養。

- そして4月25日11時47分(現地時間)、天候が思わしくなく、全員がBCでめいめいに休養を取っている時間だった。突然2~3回の縦揺れ、直後に横揺れ。周囲の稜線から雪崩が発生した。小高い丘の上に設営したBCは大きな被害を免れたが、メステント、キッチンテントが爆風で崩壊した。C2のテントが4張残った以外は雪崩で全滅。1時間半後にエージェントと連絡が取れた。エベレストでの救援活動が終わり次第、ヘリコプターで救援することを告げられた。
- 4月26・27日、写真で比較すると地震の前後で、ランタン・リの山頂付近の雪の付き方が全然違っていった。4月28日、ヘリでBCからキャンジゴンパへ。すべての建物が雪崩と爆風で崩壊し、トレッカーは天幕で生活していた。4月29日、ヘリでキャンジンからドンチェへ。上空から見たランタン谷の被害は凄まじく、村の痕跡さえ見あたらない。詳細は不明だが、村民200名、トレッカー100人が犠牲になった。ドンチェでヘリを乗り換え、カトマンズに帰着。ホテルはクローズされていたので、テントに二晩泊まった。5月2日、成田着。今後はランタン谷の復興支援に関わっていく決意をした。
- 講演終了後、前田事務局長から謝辞があり、盛会の内に幕を閉じた。その後は、兵頭氏を囲んで会員同士の懇親会兼忘年会で、大いに盛り上がった。



## 第5回役員会・事業委員会

日 時：2016年1月9日(土)16:30~18:00  
場 所：足利市地蔵の湯『東葉館』  
参加者：役員18名中8名

## 新年会・冬山山行

日時：2016年1月9日(土)～10日(日)

場所：足利市地蔵の湯『東葉館』

行道山、両崖山

参加者：渡邊、坂口、前田、石澤、上田、蓮實、中村、菱田、長、鈴木、村田の11名

【新年会のみは山野井、牛窪、関根、深谷】

行動概要：

1/9(土)：新年会 18:00～20:00…二次会 22:00 了

1/10(日)：朝食 7:00、8:10 発＝織姫神社 P8:40

＝行道山浄因寺 P9:00、同発 9:05…行道山浄

因寺 9:15 行道山(石尊山見晴台)10:05…大岩

山多門院最勝寺 11:00…昼食 12:00～12:20…

両崖山手前展望台 12:45…両崖山 13:05～

13:20…織姫神社 14:20、解散 15:00

### 【1月9日(土)快晴】

- 新年会・冬山山行は日光での開催予定だったが、予定していた宿舎が日光でのインカレ開催のため、満室とのことで急遽足利で開催することになった。
- 快晴で1月にしては暖かい。16:30から役員会を開催。次年度の10周年記念事業等の行事予定、予算案について審議。厳しい財政状況で18:00まで白熱した話し合いをした。
- 18:00新年会を渡邊支部長の挨拶、山野井前支部長の乾杯で開始。今回の新年会は渡邊支部長のエクアドル遠征壮行会も兼ねて行われた。仕事の都合で挨拶終了後武勇のお酒を持参して到着した深谷会員より、酒作りの講話をしていただく。美味なる酒の差し入れに素晴らしい講話に感謝。その後参加者から近況報告をしていただく。お酒が入るにつれ大いに盛り上がり 20:00 坂口監事の中締めで一次会終了。その後、役員会で使用した部屋で二次会を開く。参加者からの差し入れしていただいたお酒やつまみ、そしていつもことながら深谷会員から差し入れ頂いた「武勇」の美味しいお酒を堪能し大いに盛り上がる。22:00 二次会をお開きにする。

### 【1月10日(日)晴】

- 7:00 朝食、8:00 冬山山行参加者の早川・菱田・石井・青山氏四名が東葉館駐車場で合流。8:10 全員で下山予定の織姫神社に向かう。神社到着 8:30。安全登山祈願をいただく予定だが、社務所が閉じているので下山後安全祈願をすることにし、4台の車に分乗し 8:40 織姫神社駐車場発。行道山浄因寺駐車場到着 9:00。出発準備をした後、9:05 発。
- 駐車場から鬱蒼とした薄暗い急な石段を辿る。昨夜の酒が残り急登はきつかった。9:15 行道山浄因寺に着く。ここで10分ほど休憩。断崖上の清心亭を見ながら急坂を登ると展望が開け、岩場の上に四十九涅槃台があり小さな寝釈迦がある。また、展望が素晴らしく筑波山が霞の中に望める。ここから仏法僧峠を経て、行道山(石尊山見晴台)着 10:05。

15分ほど休憩する。日光・足尾の山々から赤城・榛名山等の展望が素晴らしい。稜線を南に向かい10:35 剣ヶ峰(大岩山)到着。急な坂道を下り車道に出る。車道をしばらく進むと駐車場に出る。ここでトイレ休憩し、11:00 大岩山多門院最勝寺(日本三大毘沙門天の一つ)に参拝。11:10 出発。しばらく車道を進み両崖山に続く尾根道に入る。稜線は風があり冷たいが、樹林帯に入ると風もなく暑いくらいである。アップダウンのある稜線を辿り、北関東自動車道真下に望む稜線上で昼食をとる12:00～12:20。さらに稜線を辿り両崖山手前の展望台12:45着。ここから剣ヶ峰の勇姿が遥か遠くに望める。小休止の後、15分程で両崖山山頂13:05着。山頂は足利城本丸跡で、御獄神社と天満宮が祀られてある。また天然記念物の大きなタブの木が数本自生している。ここで集合写真を撮り13:20 出発。両崖山から織姫神社までの登山道には、家族連れをはじめ多くの登山者がそれぞれのペースでハイキングを楽しんでいる。急な石段を下り、碎石混じりの岩場を下ると鏡岩休憩所に到着する。東側と南側の展望が素晴らしく、眼下に渡良瀬川、足利の街並みを望むことができる。さらに下ると車道に出る。ここでトイレ休憩をし、14:20 織姫神社着。晴れ着を着た成人が参拝し記念写真を撮っていた。ここで安全登山の祈願をしていただく。集合写真を撮り、15:00 渡邊事務局長に挨拶を頂き解散する。天候に恵まれ展望を楽しみながら、楽しい山行をすることができた。このあと、上田委員に浄因寺駐車場まで送ってもらい車を回送することができた。



両崖山山頂にて



織姫神社にて



## 第8回・四支部懇談会

日時：2016年2月6日(土)～8日(日)

場所：茨城県大洗町『大洗ホテル』  
高鈴山

参加者：栃木支部5名(坂口、小島、牛窪、長、前田F)、千葉・茨城・群馬支部から総数52名  
行動概要

2/6(土)：開会行事、各支部報告、講演会、その後合同懇親会

2/7(日)：高鈴山登山

大洗 H8:00⇒向陽台 P9:15、同発 9:25……

御岩山 10:20～11:10…高鈴山 11:35～

13:30…向陽台 13:30⇒大洗 H15:00

### 【2月6日(土)晴】

- 栃木・千葉・茨城の三支部でスタートした合同懇親山行も3巡目の最後9回目となった。来年は途中から加わった群馬支部で初めての開催となる。今年の会場の大洗ホテルは太平洋に面し、後ろの台地には大洗磯前神社がある絶景の場所にある。つい津波が来たらどうしようかと考えてしまったが、実際5年前の3.11ではホテルの1階は津波に洗われてしまったそうである。
- 本日はホテルで13:30受付開始。少し早めに着いて参加者に配布する栃木支部報を受付にお渡しした。その後14:30の開始まで海辺と大洗磯前神社を散策。ホテルに戻ると栃木支部の4名(小島、坂口、牛窪、長)も到着していた。
- 今日のメニューは4つ：各支部活動報告／講演会／アンコウつるし切り実演／懇親会。

#### [各支部活動報告]

茨城支部 浅野支部長の挨拶。支部の活性化と若手の育成の課題を取り上げた。また、来年10月に全国支部懇談会を筑波山で行うことがPRされた。また各支部より事務局長が支部活動の内容と課題対応を報告。栃木支部は四つの公益事業「夏の山岳映画の夕べ」・「親子登山教室」・「山の講演会」・「ヒマラヤの集い」を報告した。

千葉支部：高齢化、活動する人が少ない。支部域を三つのエリアに分け、各サテライトで定期的に情報交換・親睦会を開催。

群馬支部：子供対象の登山教室「チャレンジキッズ」を6月／8月／9月に開催。また「山フェスタ」では岳連・労山と相談ブースを開いたほか、パネルディスカッション・写真展を行った。

茨城支部：支部会員39名、支部友16名。自閉症協会親子登山への協力登山を実施。

#### [講演会]

元国土地理院測地部職員 山田会員の講演。演題

は「劔岳の三角点」。映画「点の記」で知られる劔岳。その劔岳には平成16年まで三角点がなかったのはご存じでしょうか。山田さんは劔岳に三角点を設置するプロジェクトのリーダーでした。3000mの上か下かで話題になった劔岳。最新の技術をもって測量した結果は2998.6mで、3000mを超えることはなかったが、ビデオによる設置作業の展開は迫力があつた。この様な講演を聴くことができるのは、日本山岳会ならではあろう。知識が増えた感じがする。ちなみに劔岳は三等三角点(平成16年8月24日設置)、明日登る高鈴山は一等三角点(明治26年2月21日設置)である。

#### [アンコウつるし切り・懇親会]

アンコウつるし切り実演の後、浅野支部長の乾杯で懇親会がスタートした。時間が進むにつれ四支部会員それぞれ入り乱れて会話が進む。自分の隣に座ったのは千葉支部の谷内本部理事。支部ユースの活動など話げできた。田中群馬支部長の中締めでいったん解散、栃木支部は部屋に戻り二次会となった。

### 【2月7日(日)晴】

- 夜、天気が一度崩れたようだが、朝から持ち直し栃木支部5名は全員Aコースの阿武隈山地南部にある花の百名山・一等三角点峰の高鈴山(623.3m)に向かう。ちなみにBコースは「大洗町幕末と明治の博物館」散策であった。
- 茨城支部が用意してくれた大型バスで大洗町を出て日立市まで北上、そこから山地に入り本山トンネルを抜けると向陽台の駐車場がある。今日はここから尾根筋にあがり、御岩山を経由して高鈴山までの往復コースである。準備体操をして、各支部単位で登り始めた。
- 暖冬の今年、茨城の600mの山と言うことで“日だまりハイク”のつもりでいたら、意に反して登山道に雪。どうも夜の間には積もったらしい。とは言え、そこは日本山岳会会員、問題にせず登り始めた。途中の御岩山には5億年前の岩がある。会話をしながら登っていくと2時間で目的地着、雨量観測網の大きな建物と電波塔がある高鈴山に到着。山頂一帯雪面のなか、ここには展望デッキと一等三角点がある。昨日「点の記」の講話をしていただいた山田会員の説明を受け、理解を深める。一等三角点は一回り大きい。ここで昼食と記念撮影。
- 後はバスの待つ向陽台へ向け下るだけ、と思いきや。雪の残った登山道の下りの途中で茨城支部の一人がおぼつかなく足が進まなくなった。茨城支部より“ロープ持っていませんか”の申出があり、ザックから8mmロープを取り出して貸し出した。ここからは滑りやすいところをロープで確保しながらの下りとなる。街中のウォーキングシューズを履いていたこともあり、フィジカル・メンタルの

面で苦労されたようだ。低山とはいえ、雪山の山行は要注意であることを肝に銘じることになった。

○ともかく、先に下ったメンバーが待つ向陽台にだいぶ遅れて到着。山行は無事終了となった。全員がそろったバスは大洗に向け出発。左に海の上を走る船を眺めながら大洗ホテルに到着し、解散となった。前日の講演・懇親会から好天の雪道登山と楽しむことができました。群馬・栃木・千葉から集まった会員を快くもてなしていただいた浅野支部長

以下茨城支部の皆さん、ありがとうございました。  
○P.S. 帰りがけに浅野支部長に“ロープの使用料高いですよ”と言ったら、江戸前の佃煮を送っていただいた。本当にありがとうございました。

【ご参考】「日本山岳会 親子登山」サイト  
：高鈴山-5億年前の山とレーダー基地  
- <http://jac.or.jp/oyako/f15/d201020.html>



大洗ホテル前で機縁撮影



浅野茨城支部長挨拶



高鈴山山頂にて、栃木支部の面々

## 第6回役員会・事業委員会

日 時：2016年3月14日(月)16:30~18:00  
場 所：宇都宮市『コンセーレ』タイムズスクエア  
参加者：役員18名中9名

# ピックアップ支部報

## 1 栃木支部報発刊に当たって……巻頭言……

栃木支部長(当時) 日下田 實

【2008(平成20)年発行・創刊号より】

○昨年5月27日(日)に会員33名をもって発足しました日本山岳会栃木支部は、現在37名の会員になりました。この一年間渡邊事務局長をはじめ支部役員の皆様、また関係者の方々の努力により創立記念登山として関東以北の最高峰日光白根の登山をはじめ、事業報告にありますように種々の活動をすすめてまいりました。また栃木支部の発足を契機に、千葉支部、茨城支部が発足し、今まで支部のなかった関東圏に三つの支部が誕生しました。これはこれからの日本山岳会の行く手に明るい光を与えたものと思っております。

○御承知のように栃木県は山国であります。日光、那須、あるいは福島県境の山々など本格的な登山でなければ登ることが難しい山もありますし、栃木・茨城県境をなして筑波山まで至る八溝山地の山々、また日光連山の末端に位置する足利北部・佐野北部の山々など、四季折々にトレッキングを満喫しながら歩くことのできる山々もあります。

○私事にわたりますが、私は今まで狭く深い山登りをして参りました。その延長でマナスルまで行ったわけで、したがって春夏秋冬を問わず穂高界隈の山々をよく知っておりますが、その他の山々はほとんど知っておりません。私も後期高齢者の仲間入りをしまして、体力的にも本格的な山登りは出来ません。支部の仲間の皆様の足手まといにならぬように心がけ、故郷の山々を歩いてみたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

○さて日本山岳会は現在公益法人化を目指しておることはご承知の通りであります。将来のことはどうなるかはっきりとしてはおりませんが、当支部

としては今後支部の仲間を増やし、千葉、茨城両支部とも協力して支部の活動を活発化させていきたいと思っております。幸いなことに当支部には渡邊事務局長をはじめ高体連登山部に関係している方々が多くおりますので、この方々を通じて高校生に山登りの面白さを教えていただき、当支部の活性化につなげていきたいと考えております。やらなければならないことはたくさんありますが、会員の皆様、高体連登山部、栃木県山岳連盟の方々、その他関係者のご協力を得ながら、急がずに一歩一歩やっていきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願い致します。

○またこのたびは、かねてより待ち望まれていた『栃木支部報』を発刊することになりました。これまで『栃木支部通信』が節目に発刊されておりましたが、活動の総まとめとしての意味あいをもつ機関誌の発刊を検討し、ようやくお手元にお届けするに至りました。各種情報の提供、会員各位からの原稿も幅広く募っておりますので、事務局あてに是非ともご送付下さい。



栃木支部パーティの先頭を行く日下田支部長

【2007(平成19)年8月19日(日)、白根山頂直下にて】

○2010年3月25日、日下田支部長には、長年の功績が讃えられて、「早稲田大学スポーツ功労賞」を受賞された。

○過去の主な受賞者は、

第1回(1982/12/13):織田幹雄…陸上(走幅跳・三段跳)

第2回(1984/03/25):南部忠平…陸上(走幅跳・三段跳)

第3回(1986/03/25):西田修平…陸上(棒高跳)

第9回(2009/04/01):川淵三郎…日本サッカー協会名誉会長

など、そうそうたる顔ぶれである。

○以下、顕彰状の内容を転記する。

## 顕 彰 状

日下田實氏は1930年6月27日、栃木県芳賀郡益子町(現)に生まれた。山に囲まれた焼き物のふるさと益子で少年期を過ごし、終戦直後の真岡中学校に学んだ。同校卒業後、1948年4月に早稲田大学専門部政治経済学科に入学、翌49年4月に早稲田大学第一政治経済学部自治行政学科1年に編入した。在学中は山岳部に所属し、北アルプス剣岳、穂高岳の積雪期登山を成功させるなど、当時の学生登山界をリードする登山家として活躍した。4年次の52年には代表委員主将を務めるとともに、早稲田大学南米アコンカグア登山隊(関根吉郎隊長以下6名)に隊員として参加し、53年1月、登頂を果たした。この遠征によって早稲田大学体育名誉賞を受賞している。海拔6962メートルの南米最高峰への登頂経験が、後のヒマラヤでの快挙に繋がることになった。

その後、日下田實氏は1954年に日本山岳会第2次マナスル登山隊への参加に続いて、56年にはマナスル世界初登頂に成功した第3次マナスル登山隊(槇有恒隊長)に隊員として参加し、同年5月11日、加藤喜一郎氏(慶応大学山岳部OB)と共に8163メートルの頂上に立ったのである。今西壽雄氏(京都大学山岳部OB)とギャルツェン・ノルブ氏(ネパール人隊員)が前々日の9日、登頂したことに続くものであった。12人の隊員中最年少だった。このマナスル世界初登頂は、エベレスト登頂(1953年、イギリス隊)など、ヒマラヤ・オリンピックといわれた当時

一連の新聞報道や記録映画「マナスルに立つ」は国民を熱狂させ、若者、少年たちを勇気づけた。終戦から10年余、歴史的といってよい快挙だった。

マナスル登頂から帰国した後、氏は毎日新聞社に入社し、運動部記者として活躍した。また、1960年からは早稲田大学体育局講師として体育実技「山岳」を担当し、62年からは山岳部監督を務めて後進の育成に当たった。その後は郷里の栃木県に戻り、益子町教育委員会委員長、県教育委員会委員長、民事調停委員を歴任して郷土の振興に貢献した。また、(社団法人)日本山岳会の評議員、常任評議員などを務めて日本登山界の発展に寄与した。1996年、永年の民事調停委員としての貢献に対して最高裁判所長官表彰を受けた。2001年にはマナスル登頂、調停委員の功績、地方教育への貢献に対して勲五等双光旭日章が贈られた。さらに、2006年12月、ネパール登山協会に招かれてマナスル登頂50周年の式典に参加し、名誉顕彰を受けた。現在は日本山岳会栃木支部長を務めている。

ここに早稲田大学は、卓越した登山活動によって戦後の日本人に勇気を与えるとともに、山岳界で後進の育成に尽力した特筆すべき貢献、ならびに早稲田大学への永年にわたる多大な功績と献身に対して、日下田實氏を早稲田大学スポーツ功労者として表彰し、その名誉を永く讃えるものである。

2010年3月25日

早稲田大学

- 「1964年立教大学バルンツェ踏査隊」の大倉・岸野・遠藤・山野井と慈恵医大OBの横山Drは、50周年記念として、ゆかりの地を訪れようと、3月1日成田発17:30のタイ航空で出発した。コルカタへは乗り継ぎで2日0:30到着。インド博物館隣の「リットンホテル」には3:00チェックイン。昼過ぎからは市内見学に出かけた。ガイドは頑張って金ぴかジャイナ教の寺院を案内してくれた。午後16:30カトマンズ入り。
- 空港から街へ向かう。駐車場から出るのにも一苦労。パズルのようにあちこちと進んで、ようやく通りへ出る。赤信号でも止まらないのが多いし、ポリスも全く注意しないようだ。車・自転車・人間が混在しているが、事故は少ないという。立派なものだと変に感心してみたりする。宿は「ヤク&イエティ」。私以外の4人は街へ出かけたが、私といえば部屋で地ビールの銘品エヴェレストにチャレンジする。のんびりと味わって、1959年からの回想にふけた。
- 4日にはナガルコットへ向かった。64年の時はナムチェからの帰りのキャラバンでは、神原達さんの車に助けられ、神原さんが神様となった処だ。今や展望のきく場所であり、多くのホテル、ロッジが点在していて、ポカラに次ぐ人気の場所だ。
- 5日4:30防寒着を着用し、日の出とヒマラヤの山並みを見ようと展望台に出ると、阪急ツアーで来られた関西弁のおばさんが50人ほど陣取っていた。5:00待望の日の出だ。それとともに霧が飛んでいって消えて、ロールワリン・ランタン・エヴェレストが一気に見渡せる。ヒマルチュリは特異な姿を見せてくれる。ここには13:00頃までいてカトマンズに帰り、もとの「ヤク&イエティ」に戻る。
- 6日は自由行動日で、私は旧友である元毎日新聞現地特派員ピナヤ氏、仏教僧ムクシダ氏等と会話を楽しめ、岳兄数名の供養もつとめたので、大いに安らぐことができた。
- 7日、カトマンズから40分のフライトでビラトナガルに入る。素晴らしい道路がダランバザールまで約40マイル続く。英軍グルカ兵新兵募集所がある恩恵を被っているようだ。50年前、神原達氏の助言で、英国武官ワイリー氏(1953年ハント隊)の好意にあまえてキャンプに入った後、63人のキャラバンを編成した思い出の場所である。そこを曲がってバザールの外れから山に入道に入る。曲がりくねった山道を登り、山から崩れた土砂に覆われた河原を延々と走る。やがて行く手上方に、白い建物が少しづつ姿を現してきた。ダクッタの街である。ここからはほぼ尾根筋を通して街の宿舎に入る。荷を解き、街を散歩すると、近くの丘に新築中のホテルが見える。
- 8日。丘の近くで車を降りて周囲を見渡すと、周り一帯300度くらい山また山。水の便を尋ねると、保水性の土から湧出している水の他に天水、そして⑧を利用すること。近々名所が増えるだろう。下山して英軍キャンプの場所を聞いて訪問することになる。旧キャンプは昔と変わらぬ姿であった。新キャンプは10キロくらい離れていたが、突然の訪問にも拘わらず喜んでくれた。
- 9日。ビトラモードからカカルビッタへ。ここはインドとの国境である。30分ほど歩いてインド側に入り、ラニガンジを経てダーズリンへ向かう。山が近づくにつれて紅茶畑が出現。ダーズリン茶とアッサム茶の差について語った。整備された道を登り下りしながら進むと、車の混雑が目立つようになる。ロバート通りの「セントラル・ヘリテージホテル」に入る。街を一回りしたあと、早めにベッドに入った。
- 10日3時起床。車でタイガーヒルへ向かい、日の出とカンチェンジュンガを拝むことにする。車の列が延々と続く。4:40頃駐車場に到着、車から降りて展望休憩室に入り日の出を待つ。5:20くらいであったか、日の出瞬間にどよめきがおきる。さらにねばって待つこと30分、ようやくカンチェンジュンガが見えると再びのどよめき。カムバチェン・ホワイトウェーブ。1973年の豪雨との苦闘を思い出して、この場を離れ難くなった。この感動は大満足と言わねばなるまい。ホテルに戻り、午後はトイトレインを楽しむ。その後ヒマラヤ登山学校、博物館を見学する。展示のなかでもテンジン・ノルゲイは別格扱いである。氏が来日した時、奥日光に案内してスキーを楽しみ、子供達に天神さまと呼ばれたこと、成川氏とともに東照宮を案内し、ヘッドラ

マなどと適当な通訳をしたら、山崎安治さんが苦笑していたことなどな次々に思いだされて、気がついたら迷子になりそうであった。隣接の動物園も見所が沢山あったが、動物がみな元気だったのには驚いた。やはり飼育方法や気候の差によるものなのであろうか。

○11日。バグドグラまで車で移動。そこから空路コルカタへ向かい、15:50着。市内観光をして時間をつぶし、翌12日2時のタイ航空でバンコクに飛ぶ。ここでもちょっとだけ観光、そして仮眠の後、22:30発成田行きに搭乗。成田には13日6:50着。こうしてなんともノスタルジックな旅は終わったのだが、燃えるような若き日を思い出す毎日が楽しく、また友情の有り難さを心から感じるののできた旅、小さいけれども大きな満足感を感じるののできた旅であった。



←写真

1964年のメンバー  
英軍キャンプにて

(右から)

山野井  
遠藤  
ケント中尉  
オブリー大佐  
岸野  
大倉



←写真

2014年のメンバー  
ヒレ高原にて

(右から)

山野井  
岸野  
遠藤  
大倉  
横山  
Dr

## 4 渡邊事務局長、国立登山研修所長として着任

【2010(平成 22)年発行・第 3 号より】

- 本年度末の異動で、栃木支部の渡邊雄二事務局長が国立登山研修所(正式名称は「独立行政法人日本スポーツ振興センター 国立登山研修所」)の所長として着任された。
- 登山研修所は、わが国における登山の健全な発展を図るため、1967(昭和 42)年 6 月 1 日、文部省設置法施行規制の一部改正により、文部省体育局(現在の文部科学省 スポーツ・青少年局)の内部部局として設置され、2009(平成 21)年 4 月文部科学省から独立行政法人日本スポーツ振興センターに移管された。
- 開所以来、登山指導のための研修事業・登山に関する情報提供等を行い、登山事故の防止にあたる、登山活動には不可欠な業務を行っている施設である。
- 渡邊雄二事務局長は、栃木県立学校の教員であったが、1997(平成 9)年 4 月 1 日~2001(平成 13)年 3 月 31 日の期間も登山研修所専門職員の経験があり、栃木支部一同、大いなる活躍を期待しているところである。

## 5 渡邊事務局長が韓国の『ヒマラヤ』誌に掲載される

【2014(平成 26)年発行・第 7 号より】

한국 방문한  
일본 국립등산연구소 소장  
와타나베 유지씨

### “일본 산에서도 안전산행 하세요”

클 인준영 기자 · 사진 이명준 기자



2009년부터 지금까지 일본 국립 등산연구소 소장을 맡아온 와타나베 유지씨가 지난 9월 8일 한국을 방문했다. 일본 국립등산연구소는 2010년부터 국립공원관리공단과 업무협약을 맺고 교류를 해 왔으며, 와타나베씨가 등산 교류 목적으로 방문한 건 이번이 두 번째다. 국립공원관리공단 구조대원들과 함께 안전등산보급, 산악조난구조 등의 연수 프로그램을 마친 그는 “한국과 일본이 사용하는 장비가 비슷하여 구조 기술에는 큰 차이가 없었으며, 기존 구조기술을 확인하는 기회가 되었다”고 소감을 말했다.

지금의 우리나라와 일본의 산악 구조 기술이 비슷한 수준에 있지만, 일본의 산악구조 활동은 우리나라보다 앞선 1967년에 일본 문부성에서 국립등산연구소를 설립하면서 시작했다. “설립 당시에는 산악조난사고가 많았던 시기였다”며 와타나베씨는 국립등산연구소의 설립 배경에 대해서 설명해주었다.

“일본은 1956년 마나즈루 초등정을 기점으로 등산이 대단히 발전하기 시작했어요, 이른바 ‘등산 열’이 일어났죠. 그런데 등산에 대한 기술과 지식이 전혀 없는 사람들이 산에 가는 바람에 조난 사고가 많이 생기기 시작했습니다. 특히 대학생들의 등산을 비롯해, 동계 산악 사고, 사회인들의 알력 동반 사고가 빈번하게 일어났어요.” 이러한 일본 국내 사정으로부터 문부성에서는 조난



사고를 방지하기 위해서 국립등산연구소를 설립한 것. 국립등산연구소에서는 여러 산악회의 리더 또는 교사, 경찰·소방·자위대 구조대를 대상으로 산악구조 교육을 하고 있다. 와타나베씨는 “최근에는 중고생자들의 산악 사고가 늘고 있는 추세”라며, “산악 사고의 직접적인 원인은 추락이나 넘어짐이지만 그 근본은 체력과 트레이닝 그리고 등산에 관한 기본 지식과 기술이 없기 때문”이라고 설명했다. 이에 따라 일본 국립등산연구소에서는 일반 등산객들을 대상으로 안전 등산 교육과 새자를 제작·배부하고 있다.

이번 연수 기간 중 주말에 북한산을 다녀온 와타나베씨는 “등산로를 가득 메운 만큼 많은 한국 산인구에 놀랐다”며 “일본도 등산국가라고 하면 한국만큼 등산인구가 많지 않는데 한국은 문화를 즐겨하고 적극적인 사람들이라는 상을 받았다”고 한국을 방문한 소감을 말했다. 그는 이어서 “한국 등산객들이 일본의 산을 즐기는 것은 매우 고마운 일이지만, 한국의 산행 환경에 유의해서 안전한 산행 준비를 해서! 해주길 바란다”는 당부의 인사도 잊지 않았다.

## 韓国を訪問した日本国立登山研修所所長渡邊雄二氏 “日本の山でも安全登山してください”

文アン・ジュンヨン記者・写真イ・ヨンジュン記者

2009年から日本国立登山研修所所長である渡邊雄二氏が、去る9月8日韓国を訪問した。日本国立登山研修所は2010年から国立公園管理公団と業務協約を結んで交流をしており、渡邊氏が登山交流目的で訪韓したのは今回が二度目だ。国立公園管理公団救助隊員らと共に安全登山普及、山岳遭難救助などの研修プログラムを終えた彼は“韓国と日本は使う装備が似ていて救助技術には大差なく、既存救助技術を確認する機会になった”と所感を述べた。

現在、韓国と日本の山岳救助技術は似た水準にあるが、日本の山岳救助活動は韓国より先1967年に日本文部省で国立登山研修所を設立し始まった。

“設立当時は山岳遭難事故が多かった時期であった”として渡邊氏は国立登山研修所の設立背景に対して説明してくれた。

“日本は1956年マナスル初登頂を契機に登山が非常に発展し始めました。いわゆる‘登山ブーム’が起きたのです。ところが登山に対する技術と知識が全くない人々が山に行ったせいで遭難事故がたくさん起こり始めました。特に、大学生の登山をはじめとし、冬季山岳事故、社会人の岩壁登攀事故が頻繁に起きました。”このような日本国内事情

で文部省が遭難事故を防止するために国立登山研修所を設立したとのこと。国立登山研修所では様々な山岳会のリーダー、教師、警察・消防・自衛隊救助隊を対象に山岳救助教育をしている。渡邊氏は“最近では中高年の山岳事故が増加している傾向”として、“山岳事故の直接的な原因は滑落や転倒だが、その根本は体力とトレーニング、そして登山に関する基本知識と技術がないため”と説明した。これに伴い、日本国立登山研修所では一般登山者を対象に安全登山教育とパンフレットの製作・配付をしている。

今回研修期間中の週末に北漢山に行った渡邊氏は“登山道いっぱいの韓国の登山人口に驚いた”として“日本も登山国家と言えるが韓国程は登山人口が多くない。韓国人は運動を楽しんで積極的な人々という印象を受けた”と韓国訪問の所感を言った。そして、“韓国人登山者が日本の山を訪れるのは非常に有り難いことだが、韓国の山より標高が高く、天気変化が激しい日本山岳環境に留意して安全な登山準備をして訪問するように願う”という言葉も忘れなかった。



## 6 沖允人会員のヒマラヤ遠征報告

【2012(平成24)年発行・第4号・5号合併号より】

○すでに『栃木支部報』第3号でもお知らせしたように、本支部の沖允人会員が2010(平成22)年6月下旬から7月下旬にかけて、インド北西部のラダック地方のパンゴン山脈に遠征した。本支部はこの遠征隊を後援したところである。沖会員からその記録を提供していただいたので紹介しよう。

### インド北西部・ラダック地方 パンゴン山脈バルマ・カンリ峰初登頂 とカンジュ・カンリ峰試登 沖允人(オマサト)

#### ●はじめに

日本山岳会栃木支部で後援をいただいた2010年・中京山岳会ヒマラヤ登山隊の当初の目的は、パンゴン山脈の双子峰、マリ峰(6585m, 6560m)に登頂することであった。しかし、地図と地形情報の不足、地元ガイドの誤認識、地形の類似、GPSと詳細地形図と衛星画像のパンゴン山脈地域への持込禁止などが原因で、山頂へ続く谷を誤り、マリ山群の東南約10kmのカンジュ・カンリ山群に向かってしまった。登山を終了し、帰国して撮影した写真記録や衛星画像を詳細に比較検討するまで、その誤りに気づかなかつた。検討の結果、初登頂し、仮にバルマ・カンリ峰(Barma Kangri)と命名したピークは、カンジュ・カンリ峰の東約500mにある地図上の無名峰(c. 6500m)だと推定できた。カンジュ・カンリ主峰(6725m)はパンゴン山脈最高峰で、インド隊が1983年初登頂したといわれ、その後、1987年、1995年、2001年にインド隊が登頂している。

幸か不幸かマリ山群の主峰は今のところ未踏のままに残っていると思われる。何時の日か山頂に立つ人があることを期待している。

#### ●パンゴン山脈西面のベースキャンプ地へ

2010年6月27日、成田発、ニューデリー経由・空路、ジャム・アンド・カシミール州、ラダック地区の主都レーに6月29日に到着した。レーの標高は約3700mである。パンゴン山脈はインド・中国の国境地帯にあるため、登山ビザに加えて

インナーライン・パーミット(禁止区域入域許可)の取得が必須なので、レーでその最終手続きをする。隊長：沖允人(75歳・中京山岳会・日本山岳会栃木支部)、登攀隊長：西嶋・鍊太郎(67歳・白山フウロ山岳会・日本山岳会石川支部)、リエゾンオフィサー：ガンディ・ソラブ(55歳)、クライミングガイド：クムチョック・ティネス(31歳)、ハイポーター(3名)、コック(1名)、コック助手(1名)、合計9名であった。

7月1日、車2台でレーを出発、チャン・ラ(5360m)、タンツェ(3795m)経由・パルマ(Parma)の集落の先の川原に7月2日にベースキャンプ(4800m)を建設。7月5日、カンジュ・カンリ(Kangju Kangri)山群西面、タストラ・ルンパ(Tastra Lungpa)谷中流域の岩と雪の高原台地に第1キャンプ(5400m)を建設。7月9日、タストラ・ルンパ谷源流域の索漠としたモレインの岩の上に第2キャンプ(6000m)を建設した。

#### ●バルマ・カンリ初登頂

7月12日、第2キャンプからパンゴン山脈主稜線のコル(c. 6200m)に登り、南東に伸びる岩と雪の主稜線を辿り、主稜線上の無名峰(c. 6500m)に西嶋・クライミングガイド・ハイポーターのペンバ・ノルブ(50歳)が初登頂した。頂上直下の雪壁に約200mのロープをフィックスした。この無名峰はBC近くの集落の名前からバルマ・カンリ(Barma Kangri)(間の岳の意)と仮称することにし、リエゾンオフィサーの了承を得、IMF(インド登山財団)に届けた。

7月17日、前記の無名峰(c. 6500m)に、沖・クライミングガイド・ハイポーターのペンバ・ノルブが第2キャンプから第2登した。フィックスロープを撤収、第2キャンプも撤収し、同日、第1キャンプ経由で、ベースキャンプに下った。

### ●カンジュ・カンリ峰試登

7月20日、タストラ・ルンパとケウルン・ルンパ(Keunglung Lungpa)谷源流域のカンジュ・カンリ峰南面の第2キャンプ西方の一段高いモレイン上に第3キャンプ(6100m)を建設し、7月21日、西嶋・クライミングガイド・ハイポーターのペンバ・ノルブは第3キャンプからカンジュ・カンリ峰に登頂すべく頂稜リッジの6420m地点に到達した。しかし、そこからカンジュ・カンリ主峰への頂稜リッジは、斧で断ったように切れていて

前進は困難で危険極まりないので登攀を中止した。また、別ルートからカンジュ・カンリ主峰に登るには、メンバー・登攀具・時間などが不足していると判断し、第3キャンプに登ってきた沖隊長も含めて協議し、残念ながら全面撤収を決定した。7月22日、第3キャンプ、第1キャンプを撤収し、ベースキャンプに下山し、7月24日にベースキャンプを撤収し、タンツェ、チャン・ラを經由し、レーに帰着した。

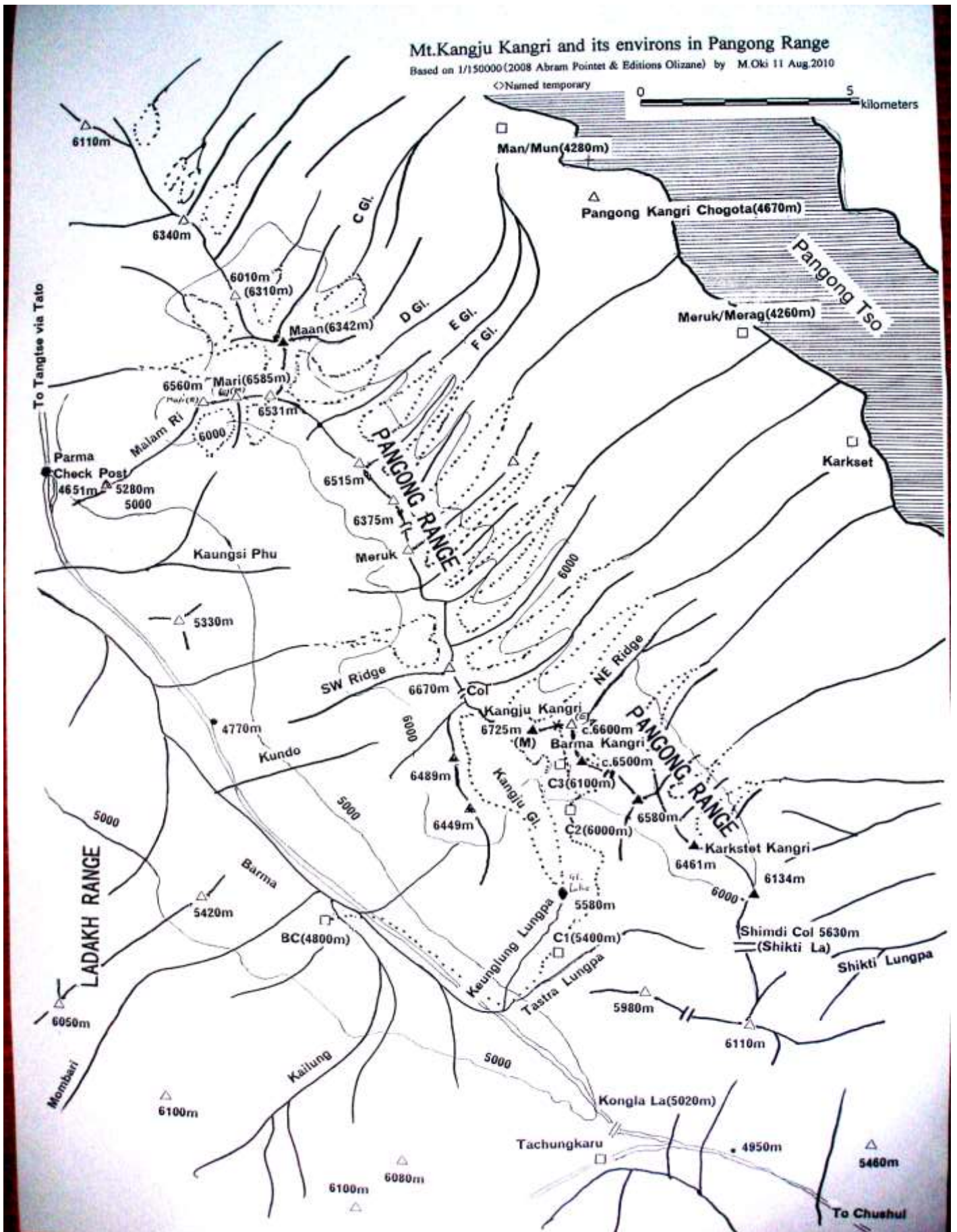


カンジュ氷河とベースキャンプから第3キャンプまでのルート



バルマ・カンリ峰(c.6500m)から無名氷河とパンゴン湖

概念図：パンゴン山脈・マリ山群とカンジュ・カンリ山群





カンジュ・カンリ主峰(6725m) (左端)と東峰(中央)、バルマ・カンリ峰(c.6500m) (右端後方)



バルマ・カンリ峰の頂上にて、後方はカンジュ・カンリ主峰(6725m)



カンジュ・カンリ東峰を南西面から登る



カンジュ・カンリ峰右岸  
の6000mの無名峰



カンジュ・カンリ峰  
の東面を登る



カンジュ・カンリ峰と  
第3キャンプ

# 7 石澤好文会員のネパール・トレッキング報告

【2014(平成26)年発行・第7号より】

## トレッキング隊行動表

目的地：ネパールヒマラヤ アンナプルナ・サーキットコース

出発地：カトマンズ・ポカラ・カーレ・シリチョール

隊員：安田里子・石澤好文・石澤令子（3名）

日	時	行動概要	備考
10月	1日	成田出発 - 香港 - カトマンズ (キャセイ航空・ドラゴン航空)	
10月	2日	カトマンズ - ポカラ (イエティ航空)	
10月	3日	ポカラ - カーレ (車) ~ オストリアンキャンプ (2,100m)	
10月	4日	オストリアンキャンプ ~ カーレ - シリチョール (車) (1,200m)	
10月	5日	シリチョール ~ ジャガット ~ チャムチェ ~ タール (1,700m)	
10月	6日	タール ~ ダラパニ ~ バガルチャフ ~ ダナキュー ~ ティマン (2,270m)	
10月	7日	ティマン ~ チャーメ ~ ディキュールポカリ ~ ロワーピサン (3,200m)	
10月	8日	ロワーピサン ~ フムデ (3,280m)	
10月	9日	フムデ ~ ナガール ~ 高所順応 4,100m 地点 ~ ナグアール (3,660m)	
10月	10日	ナール ~ ヤクカルカ上部 (4,000m) ~ ナガール (3,660m)	登山隊 と合流
10月	11日	ナガール ~ マナン (3,540m)	
10月	12日	マナン ~ ロワーピサン (3,200m)	
10月	13日	ロワーピサン ~ チャーメ ~ ティマン (2,270m)	
10月	14日	ティマン滞在	
10月	15日	ティマン ~ ダラパニ ~ タール (1,700m)	
10月	16日	タール ~ シリチョール (1,200m)	
10月	17日	シリチョール - カトマンズ (車)	
10月	18日	カトマンズ市内観光	
10月	19日	カトマンズ - 香港 (ドラゴン航空)	
10月	20日	香港 - 成田帰着 (キャセイ航空)	

※ 登山隊が1日早く下山となったので BC までの山行は断念し、途中のヤクカルカ上部のバッティ (約 4,000m) まで到達した。



## トレッキング隊行動記録

### ※10月10日以降は登山隊・トレッキング隊合同の記録(10月1日～10月20日)

#### 10月1日(雨)～出発～

○このところネパールは天候が悪く、雨季が続いているようなのでしばらくは雨という予想だが、ヒマラヤへの期待を沢山持って成田に向かい、10:30機上の人となった。香港経由で深夜にカトマンズに到着したら、エージェント社長のデニッシュ自ら迎えに出てくれていた。黄色のマリーゴールドで作った美しいレイを首にかけてもらいフジホテルに向かった。

#### 10月2日(曇り)～ポカラへ～

○8時頃にデニッシュが顔を見せ、ガイドのマン・バハドゥール・マガールを紹介してくれた。予想に反して流暢な日本語を話したので驚いた。私達はラッキーなトレッカーである。昼頃に飛行機でポカラに向かう。車では5～6時間かかるというが、35分で飛ぶ。やっぱり雨季は明けていないようで、空からもポカラについてからも山々は厚い雲に覆われてまったく見えなかった。街に遅い昼食をとりに出かけ、今回初めてのタルカリ・ダルバートを注文した。おいしくおかわり自由だが完食はむずかしいほどの量だ。時間があるのでタクシーを頼み国際山岳博物館とチベタン・キャンプを訪ねた。博物館はネパール登山協会が世界各国の山岳関係者からの支援を受けて設立し、国の多様な民族の暮らしと文化や山の自然、ヒマラヤに関する世界の歴史資料が展示されており、エヴェレスト登頂の記録写真や装備など日本や各国の登山隊の資料が広い館内に多数展示されている。入館料は外国人のみ有料(300Rs)。チベタン・キャンプは、チベット難民が辛いテント生活を送っていた場所だが、今では家に住みヤク(チベット牛)の毛や羊毛で絨毯を織る工房で働いたり、民芸品を作って売るなどして生活しているようだ。工房を覗く。街に戻ってプリムスのガスカートリッジをなんとか見つけ出し、小雨の中ペワ湖の付近を散策してホテルに戻る。

#### 10月3日(曇り)～オーストラリアンキャンプへ～

○ダウラギリも見えないはずのオーストラリアンキャンプへ車で出かけたカーレから登る。2,050mの高さがあり眺望の良いキャンプ地だが、雲におおわれてダウラギリ(8,167m)は見えず、わずかに数分ほどアンナプルナ南峰の一部が見えたが、隣のマチャプチャレ峰(魚の尾びれのような

双子峰)は殆ど見えなかった。それでも、大型船の船首のように突き出た丘の草地からは遠くポカラ方面が眺められ、うねうねと山肌を覆いつくす緑の段々畑は足元のはるか下に見えた。

#### 10月4日(小雨のち曇り)～登山隊の後を追う～

○オーストラリアンキャンプからカーレに下り、再び車をチャーターしてブルブレを越えてマルシャンディ河辺のシリチョールをめざす。悪路にはね上がる車にもまれながら手足を突っ張るなどしてひたすら耐え、7時間半後の夕方5時にロッジに到着。

#### 10月5日(曇り)～いよいよトレッキング開始～

○今日からトレッキングが始まる。ポーターのジバーは1人で3つの荷をかつぐ。30kg以上はあるだろう。雨は上がり空が見え始めた。歩いて行くと色々な姿の美しい滝が次々と現れ、かなりの高さがあり街道を横切ってマルシャンディ河に流れ下る。対岸にも多数見られ、はるか上方から白布を流すように落ちる。その水量はおどろくほど豊富だ。宿泊地タールは、家々の庭に色とりどりに花が咲き、裏山には数本の滝が流れ落ちる美しい街だ。

#### 10月6日(曇りの雨)～タールからティマン～

○昨日までは車道を歩いたが、今日はマルシャンディ左岸のトレッキング道をゆく。ワイヤー製の釣り橋を渡ると景色も変わる。ダラパニはマナスル方面の谷と分かれる分岐だ。ダナキューを過ぎ、あえぎながら急な登りを詰めるとティマンは近い。

#### 10月7日(快晴)～ティマンからピサン～

○昨夜遅くにエージェント社長のディネッシュ・マガールが到着し、私たちと一緒に歩きながら携帯電話でやり取りして登山隊の情報をくれることになった。アンナプルナII峰(7,937m)、アンナプルナIV峰(7,525m)の雄姿も現れ、ヒマラヤ巒が美しい。ピサン峰のピークが見え出し、11人が遭難したとのマンさんの話を聞く。全員絶好調。視界の開けたローワー・ピサンに泊まる。標高は3,200m。いよいよ3000mを越えた。

#### 10月8日(快晴)～ピサンからフムデ～

○広い台地が広がり、その真ん中を流れるマルシャンディ河の両側奥の右上方にピサンピークとチュルー峰、左にアンナプルナIII峰(7,555m)とガンガプルナ(7,454m)の峰々が天高く迫り出して競い合う。フムデ空港は今は営業していないという。何度かヘリがマナン方面に飛んでいった。軍のヘリらしい。標高は3,280m。



### 10月9日(晴れ)～フムデからナガール～

○大きなマニ車を納めた白いマニ塔を中心に置いたナガールの村に上る。標高は3,660m 3階建ての新しいロッジに入る。明日に向けて高所順応のために裏山に登る。裏山といっても標高は高く、4,100m 付近まで上った。気になっていた令子さんは絶好調で安心、感心。

### 10月10日(晴れ)～ナガールからヤク・カルカ上部往復～

○登山隊が登頂成功したので、1日早く下山するというのでBCの近くまで迎えに行こうということになり、ヤク・カルカ上部のバッチェがある4,000m 付近まで登った。スペイン隊も登っており、次々と下山する隊員を迎える。

### 10月11日(うす曇)～ナガールからマナンへ～

○1日の余裕が出来たので先のマナンまで出かける。土産物屋が軒をつらねており、外国人が多数行き交う大きな街である。ガンガプルナ氷河の舌端にある美しい氷河湖を見に行く。

### 10月12日(曇り)～マナンからピサン～

○今日からは本当のリターン。帰路のトレッキングだ。街道を戻りながら来る時に感じた事やロッジでの語らいを思い出しながら歩く。昼ごろローワー・ピサンに着いたので、毛塚隊員は1人なつかしのアッパー・ピサンに遊びに行った。

### 10月13日(曇りのち雨)～ピサンからティマン～

○ティマンに着く頃には雨が降ってきた。予報ではこれから4日間の雨という。登山隊がテントに泊まるはずだったが雨が強くなり他のロッジを捜した。夜のキッチンでは2人の若い娘がヤクの肉を焼いたり、ミルクティーを用意したりして暖かなもてなしをしてくれた。ロキシーはカップが空になるとやかんで注いでくれる。マンさんの陽気な太鼓とチェリンの歌、皆でネパールの国民歌の「レッサン・ピリリ」を大合唱し、チェダが踊り、隊員も負けずに唄い踊った。ここ数日は祝日であるダサインというネパール最大のヒンドゥー秋祭りがあり、ポーター達も休みを取らせなくてはならないということで、明日は滞在とした。

### 10月14日(雨)～ティマン滞在～

○今日も雨降り。午前中は各自のんびりしたが、午後は長老のキランさんがダサインの行事を全員に執り行い、厳かにティカというお祝いの印を額につけてくれ、マリーゴールドの花と50ルピーをくれた。夕方からは前夜と同じ大パーティーとなり、唄い、ネパールダンスを楽しんだ。「レッサン・ピリリ」の大合唱は何度も続いて笑顔だらけになった。

### 10月15日(雨)～ティマンからタールへ～

○雨の中マルシャンディ左岸に行く。狭くて滑りやすい道が続くので慎重に歩くとはいきや、皆元気に歩く。サンダルを履いていた久我さんが真っ先にヒルにやられていた。タールまでの道中の最後のところで、簡単に横切れたはずのいくつかの滝の流れが激流に変わり、危険な状態になっていた。ガイド2人とチェダが手助けしてくれて無事に渡る事が出来た。タールではロッジのまわりには濡れた物がずらりと干された。雨は降り続く。

### 10月16日(雨のち曇り)～タールからシリチョール～



ネパール料理「ダルバート」

○前日下げていたてるてる坊主が願いを聞いてくれたのか、朝は雨だったが次第にあがって昼頃から空が見えてきた。この地で最後の食事となるので、コックが張り切って鳥のモモを肉のカラ揚げを出してくれた。一人一本なので何羽やっつけたのか？さらに大きなケーキが出されて腹は大きく膨らんだ。

### 10月17日(うす曇)～シリチョールからカトマンズ～

○やっと晴れてきた。チャーターした車2台に隊荷を積み、皆で集合写真を撮った。ブルブレを過ぎ、ベシサハールで昼食をとり、バスやトラックなどと競い合い、18時半頃カトマンズのフジ・ホテルに戻る。

### 10月18日(曇り)～カトマンズ～

○本日は自由行動で各自市内を散策してみやげ物屋や登山用品店を歩く。中野さんのみネパールに残り、数日後にはエヴェレスト街道を目指す予定である。夕方にデニッシュが盛大なさよならパーティを開いてくれた。

### 10月19日・20日(曇り)～カトマンズから帰国の途に～

○夜の便で経由地の香港から日本へ帰国。



高所順化で4100mまで登る。チュルー峰をバックに

## ロキシータイムの想いで 石澤 好文

- 1日の行動を終えロッジで一段落した4時頃『石澤さんロキシータイム!』とガイドのマンさんの声がかかる。
- カトマンズからポカラに飛び、オーストラリアキャンプに入った頃から、ガイドのマンさんが、私が酒を好きなことをいち早く察知しトレッキング中の毎日のように声がかかる。ロキシーを飲むことが恒例になってしまった。私にとっては最高のことであったが。
- ポカラの高級レストランでは、ロキシーはなかったが、トレッキング中のロッジではどこにもあった。場所によって微妙に味が違う。やはり奥地に行くほど酵母の匂いがし日本酒に似た香りがあった。
- ロキシーの値段も1杯100ルピーほどであった。ネパールの物価を考えるとかなり高い。最初は飲むたびに精算していたが、面倒になりマンさんに1000ルピーを預け頼んでもらうことにした。マンさんが頼むとネパール人料金で飲むことになった。マンさんがやかんからどん

どん注いでくれる。結局毎晩4～5杯飲んでしまった。お金が足りなくなったら言ってくれとっておいたが、結局催促はなかった。

- 今回のトレッキングを振り返ってみると、ネパールは15年ぶりの2回目であったが、物価が高くなった印象である。これは、マオイストが政権を取ってから、外国人料金を設定したことによる。これは外貨を稼ぐためには仕方ない面もあるが、早く撤廃してもらいたい。パシュパティナート（世界遺産になっているヒンドウ教寺院）の拝観料がなんと1,000ルピーであった。
- さて今回のトレッキングであるが、計画の段階から安田隊長をはじめ野村海外委員長、喜内総隊長、糸川登山隊長には迷惑をかけっぱなしでした。初めて一隊員として参加させていただきなんのプレッシャーもなく実に楽しい日々を過ごさせていただきました。
- 今日泊まる場所も分からないまま何も考えず、ただ8,000m級の山々を眺めながらのトレッキングは最高でした。
- またガイドのマンさんを始めスタッフにも恵まれました。お陰様で4kgも太ってしまいました。
- 今までの海外遠征は職場の関係で夏休みしか休暇が取れず、モンスーンの影響を受けるネパールの山は対象外であり登山の対象として考えたことはありませんでした。しかし今回アンナプルナ山群を歩いてみてネパールの山の素晴らしさを実感しました。山岳連盟70周年記念登山もネパールの山を登りたいと思いました。
- このような楽しい思いをさせていただいた隊員の皆様をそして事務局の皆様へ感謝し駄文を締めくりたいと思います。



## 「山の日」制定記念 —ふるさとの山に登ろう—

栃木県・古賀志山(583m)……仙石富英

「山の日」制定記念特集ということで原稿を依頼されたが、「ふるさとの山」として考えると、はたしてどの山が一番適切な山になるのかと考えてしまった。栃木県は地形的に関東平野の中北部にあり、北西部は群馬県、福島県に接し、2000mを超える山々に囲まれ、東部は茨城県と八溝山系で接している。日光地区では関東以北で最も標高の高い白根山(奥白根山:2577m)をはじめとし、日光を代表する男体山(2486m)、太郎山(2367.5m)や女峰山(2483m)がある。また県北には茶臼岳(1915m)を中心に那須五峰(他に朝日岳・三本槍岳・黒尾谷岳・南月山)と呼ばれる山々が連なる。一方、県央から南に東西は平野部の豊かな自然を残した里山にも恵まれている。

あらためて「ふるさとの山」と考えると、「山、高きが故に尊からず」で、必ずしも高い山が当てはまるものではなく、そこに住む人それぞれに生活とつながった「ふるさとの山」があると思っている。2003年末に地元の下野新聞創刊120周年記念事業として栃木県山岳連盟も加わり、広く読者から推薦された「栃木百名山」の選定が行われ、2005年に「栃木百名山」として刊行された。これには、選定の条件として、登山、ハイキングとして親しまれている山、各地から眺望できる山、伝説や信仰の対象となっている山などが含まれていた。このため、今ではすべての山で登山道が開かれているが、選定時点では「百名山」といっても必ずしも登山されている山ではなく、登山道がなく、登山口もわかりにくい山も含まれていた。当然ながら、ここにも応募した人の「ふるさとの山」への思いが表れていた。前置きが長くなってしまったが、ここでは個人的ではあるが、私の住む宇都宮市の西部にある「古賀志山(583m)」を紹介したいと思う。

「古賀志山」は、宇都宮市の北西部に位置し、足尾山地の東端部をなしている。地質的には中・古生層の層状チャート、頁岩などからなり、南島側には緑色凝灰岩が変質した「大谷石」が産出される。このため、古くから関東の岩場として、ロッククライミングの

ゲレンデとして知られ、登り方は変わってきているが、今でも多くのクライマーのトレーニング場として親しまれている。登山としては、山頂から東の麓に宇都宮市森林公園、赤川ダムができてから、駐車場や施設が整備され、ここを中心に多くの家族連れの高キングや一般の登山者に親しまれ、県外からの登山者も多く訪れている。最近ではジャパンカップサイクルロードレースの公認コースの会場地としても知られている。この山麓では、古くから聖なる地域として崇められ、信仰に関わる樹木等も多く、民話や歴史を調べて登山をすることも、ふるさとの山に対する理解を深めることになると思う。

古賀志山はスギの植林も広がり、その作業道も多いことと、入山者が増えたことと重なり、森林公園管理事務所が紹介している赤川ダムからの登山コース以外に無数のコースができています。基本的には南コース、北コースで、他に中尾根コース、東稜コース、南から不動の滝を通る滝コースもあるが、これから派生した地図上にないコースがクモの巣のようにできており、標識も少ないため、低山とはいえ現在地を確かめるのに読図力が試される。地図を持たずに道なりに登る人も多いが、思い通りのコースが取れずに踏み跡的な道で、いきなり崖に遭遇することもあり、注意が必要である。落葉の時期は見通しがきくため、行く先が見えるが、夏など下草が茂ってくると先が見えにくくなるため、コースを確認して登ることが大切である。山頂からは関東平野南方に条件が良ければスカイツリーも見える。いずれにしても、家族連れから中高年登山者の健康登山、ベテランのトレーニングの場として、身近な愛される山である。

『登山月報』：日本山岳協会発行。  
2015(平成27)年4月のNo.553号に  
仙石さんの文は掲載されている。



# 会員よりの寄稿

## 赤い表紙の山日記

森 元一

1950年(S. 25)高校入学。教科書に載っていた田辺重治の「秩父・十文字峠」の文章が私の山登りのきっかけとなった。山岳部の夏合宿は顧問教師と新進気鋭のOBに連れられ20人程で上高地から槍ヶ岳登山だった。それまで山登りの経験は全くない私は、河童橋からの穂高連峰に圧倒された。梓川に一步足を踏み入るとその冷たさにしびれた。槍沢沿いの登山道を登り、やっと肩の小屋に着いた時は高山病の症状でダウン。頂上に達することは出来ず、悔いが残る苦い思い出となった。

その頃日本山岳会(JAC)はマナスル踏査隊を派遣(1952)、英国隊エベレスト初登頂のビックニュースがエリザベス女王戴冠時期に伝えられた(1953)。一方1954年、富士山で大遭難事故が発生、犠牲者15名。私は家族から登山禁止のご法度。1956年マナスル第三次隊が初登頂に成功した。初代栃木支部長の日下田實さんはそのマナスル登頂者であることはご承知の通り。

1950年代国内外は登山の熱気に包まれていた。訳もなくJACお茶の水ルームに出入りしているうち、山日記編集の手伝いを仰せ付き、1958年頃から4年間ほど山登りの余裕どころか勤務時間外や日曜休日は勿論のこと、時には宿舎に籠って只管原稿依頼や整理に明け暮れ、お茶の水ルームや茗溪堂への往復、時には技報堂工場へ出向いたり、サラリーマンの私は何時しか深みに嵌まってしまった。11月末頃

になると、あの「赤い表紙の山日記」が書店の棚に並ぶのでした。



## 赤道直下の氷河の山

-エクアドル最高峰

チンボラソ登山(6410m) -

渡邊 雄二

私の友人が2015年6月、医務官としてエクアドル大使館に転勤となった。実は私の友人はアルジェリア大使館に勤務しておりその時にアルジェリアを訪問する約束をしていたが、大変悲惨な事件(テロ)が現地で発生したため訪問する機会を逸してしまっていた。そこで、エクアドルへの転勤を機に、早速に訪問の約束をして2016年1月中旬に首都キトを訪問した。訪問の主目的は、エクアドルの最高峰チンボラソ登山とユネスコ世界遺産(自然遺産第1号登録)のガラパゴス諸島探訪である。

キトの標高は2800m、到着後のすぐの早歩きはさすがに息が切れるが、早速のウェルカムパーティの妙薬ですぐに順応する。とは言っても6千mの山登りなので高所順応には万全を期すことにする。

1日目、キト郊外のピチンチャ山(4696m)へ順応トレーニングに出掛ける。テレフェリコと呼ばれる6人乗りのゴンドラで一気に山頂駅(4140m)へ。ここはキトの街を見渡すことができる市民の憩いの場の公園になっている。夜は、夜景を見ながらのデートスポットらしい。そんな光景を想像しながら草原地帯を過ぎ6つの小ピークを越え、山頂直下の岩場をよじ登って頂上へ到着、そこにはPichincha4696mと標示した立派な看板が立っていた。ゴンドラ駅から往復して約8時間のハイキング登山であった。

2日目、チンボラソ山の登山基地であるカレル小屋へ向かう。トランスアメリカハイウェイを車で飛ばしキトから約5時間で標高4800mのカレル小屋に到着。車窓からはアンデス山脈の牛や羊の放牧地や雪を被った山々などの素晴らしい景観を楽しむことができた。カレル小屋でポークステーキの昼食をとってから、ウィンパー小屋(5000m)を経て5130mまで順応トレー

ニングした。カレル小屋に戻りその後、リオバンバのホテルに向かって山を下りた。

3日目、チンボラソ山を眺めることができるカリワイラソ山(5040m)へトレッキングに出掛けた。リオバンバから車で1時間30分で標高4220mのスタート地点へ。ここから大草原の中を、標高4600mまで往復約7時間の山旅であった。途中の湖や岩峰の景観、ビクーニャ(南米に生息する草食性ほ乳類)との遭遇を楽しんだ。リオバンバのホテルに戻り宿泊。

4日目、いよいよチンボラソ登山に向けて始動する。カレル小屋へ昼に到着し、チンボラソ山西稜5250mのテントサイトへ順応を兼ねて荷上げを行った(往復4時間の行程)。その後は小屋内でのんびり過ごす。室内は最近改装されたようで二段ベットを一人一台利用することができ快適であった。食事もスープ、メインディッシュ(肉)、パン、コーヒー、紅茶とフルコースで美味しかった。この夜は満点の星空が素晴らしい。

5日目、今日のはのんびりと前進キャンプに入るだけの行動となる。昨日のトレールをチンボラソ山の景観を楽しみながらのんびり行動する。西稜5250mのテントサイトには11時過ぎに到着、今夜の出発(23時予定)に向けて昼寝三昧となる。

6日目、素晴らしい月明かりに照らされて前進キャンプを出発(22:50)。西稜の基部をトラバースして稜線に上がり、アイゼンを装着してしばらく稜線通しに登っていく。稜線は大きな雪壁に吸い込まれ、氷化した壁をフロントポインティングのスタカットクライミングとなった。過去の記録を見ると、「5月の穂高岳登山」程度の難易度とのことであったが、いやいやどうしてなかなか厳しいクライミングになってしまった。天気は下り気味の予報であり、案の定午前3時頃から雪が降り出し周りの景色は全く見えなくなってしまったので尚更である。山頂近くになると、氷河が温暖化のためにずたずたになっており、傾斜のある巨大な洗濯板の上に登っているかのようなようであった。西峰(6270m)には吹雪の中を午前6時10分に到着した。降雪の合間から主峰(6410m)を眺めるが、巨大なクレバスが幾重にも波打っておりとってもじゃないが行けそうにないので、すぐに諦めがついた。最近の記録で主峰までは行っていないのには頷け

た。眺めはないし寒いので、とっとと下山開始とする。下降は、氷の壁に雪が付いたため下りづら。視界も悪くほとんど懸垂下降で降りる羽目になった。前進キャンプに到着したのは10時45分、往復12時間の登山であった。その後、キャンプを撤収しカレル小屋に下山、夕方にはリオバンバのホテル登頂祝いの祝杯をあげていた。

チンボラソ山は、温暖化の影響で氷河が後退し、登山ルートのほとんどは氷壁化してしまっている。登山の難易度は以前に比べかなり高くなっていると思う。おまけに西峰から主峰へはクレバスに阻まれ、行くことは相当困難な様相である。南米の山々ばかりではなく、ヒマラヤにもその傾向があり過去の登山記録とは様相が一変していることがあるので、過去の記録を鵜呑みにするのは軽率であろう。

個人的には、1995年のマカールー東稜登山以来の20年ぶりの高所登山であった。今回は現地ガイドと一緒に登山であったが、楽しいチームメイトにも恵まれてアンデスの一角の素晴らしい山(エクアドルの最高峰)の頂きに立つことができ、それなりの難しさもあったので大いに満足であった。(ガラパゴス諸島探訪の話は別な機会にしたい。)

私たちが帰国した後、4月16日、エクアドルで大地震が発生し、多くの人命と財産の被害が発生した。被害者の方々へのお見舞いとお悔やみを申し上げるとともに共に、1日も早い復旧が行われることを期待したい。幸いに、私の友人達が被害に遭うことはなかった。

本年9月27日、現地で知り合いになったエクアドルの登山家パトリシオ氏を招いて宇都宮で講演会を開催した。氏は大変親日家(奥様は日本人)であり日本で山岳ガイドとして働いていた経験もある。大変流暢な日本語(時々、筋肉がニンクになる)でエクアドルの山々の紹介やエベレスト単独無酸素登頂の話しを聞かせていただいた。日本人にとってエクアドルは赤道の国とかバナナの輸入国などでしか知られていないが、2018年に日本とエクアドルの外交関係樹立100周年を迎えることもあるので、今後ますますの交流が期待される。

## 日本山岳会の功労者、 志村烏嶺（實）のこと

坂口 三郎



チンボラソ山頂

栃木支部のはじめての記念誌であり、山野井前支部長の指示もあったので、烏山出身の大先輩、志村實（是、烏嶺）について記します。平成21年11月、当支部の第3回秋季講演会で、「山岳宗徒志村烏嶺について」と題して。中山琬一さん（栃木史談会、宇都宮山岳会、故人）から講話を頂いていますので、大方の会員は烏嶺についてご承知と思います。



山頂からの下降

烏嶺は明治7年（1874）烏山町の生れ、烏山高等小学校を卒業後、富山小学校の代用教員、明治25年、栃木県尋常師範学校（現宇都宮大学）入学、同29年卒業、その間、日光白根山、茶臼岳から三斗小屋、沼原と歩き、モウゼンゴケを見て感激している。西方小、宇都宮高等小の訓導を務め、明治32年、栃木県第一中学校（現宇高）、明治34年、栃木県第四中（現佐野高）、明治35年、茨城師範学校（現茨城大）、明治36年、宮城県第一中（現仙台一高）の教諭を務めた。

高山植物の研究、植物の垂直分布の研究という大きな目標をもって、明治36年11月、長野県第一中学（現長野高）に赴任している。

明治37年8月19日～23日、第1回白馬岳登山をし、ヒメウメバチソウ、シロウマオウギを新種として発見、アルパイン・ジャーナルに掲載されることになる写真「白馬鍾と大雪溪」を撮影している。この登山で深い感銘を受け「山岳宗徒、志村烏嶺」を名乗るようになる。一方、志村烏嶺が全国に知られることになる。明治38年4月、高頭仁兵衛（豪農、発起人）が志村宅を訪ね、会談の結果、終生の友となる。同年10月、城数馬（弁護士、発起人）は志村を訪れ、山岳会に財政的援助をするという高頭のことをこれから調べに行くとの話に、志村は直ちに長野に来よう高頭に打電。三者会談で、「高頭は山岳会に欠損がある場合は、向う十ヶ年、毎年千円提供する。十年経っても自立できぬ場合は解散する。万一の場合を考慮して直ちに一万円の養老保険に加入する。山岳会は日本博物同志会の支会として発足する」と確認された。これには烏嶺は反対し

た。「創立当初から他所の庇を借りて店を出すなどもってのほか、原稿や写真等の資料は力を尽くして提供する」と提言したが入れられなかった。会談は正午から深夜に及んだ。

明治38年10月14日、飯田橋の富士見楼において7人の発起人により山岳会が設立された。志村實の会員番号は18番である。

北アルプス三大縦走、鷲羽岳初登頂など活発な登山活動をやり、著書に「やま」「高山植物採集法及培養法」「山岳美観」「千山萬岳」登山史に残る出版物がある。大正5年、台湾総督府の招きで、台湾中学に奉職、新高山登山を行い、大正11年帰国、東京府目黒村下目黒に居を構え、教員生活に別を告げ、園芸を楽しむ生活となった。大正12年、関東大震災の被害を受け、日本山岳会の事務所が志村宅に移り、烏嶺は幹事として会務に尽くした。

昭和30年(1955)11月の日本山岳会創立50周年記念晩餐会に出席し、「白馬50年」をスピーチしている。昭和31年、烏嶺83歳の夏、中野中学の教え子とともに第14回目の白馬岳登山をやっている。昭和36年3月7日、中野区富国町にて逝去。享年88才、故郷、烏山の曹洞宗・泉溪寺に眠る。

志村實は昭和8年12月6日改めて山岳会に入会している。1492番、紹介者、小島久太・高頭仁兵衛。この当時復活の制度が無かった。

改めて、烏嶺、志村實の偉大さに敬意を表し、誇りに想う。

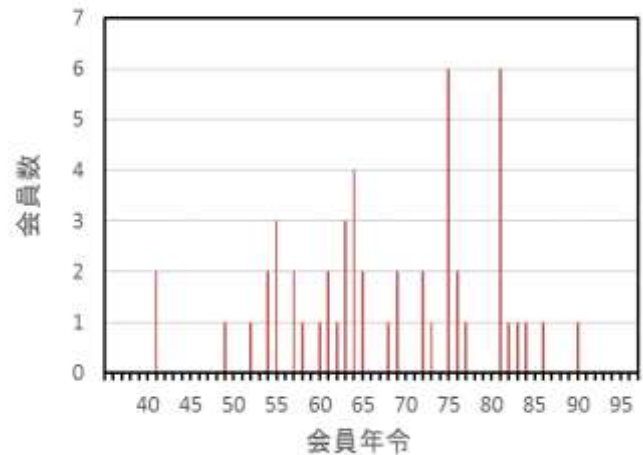


志村寛氏像

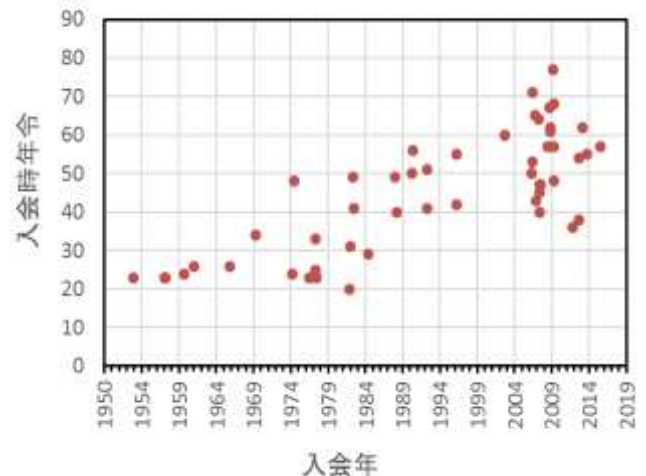
## 栃木支部の10年後は？ ～会員構成データから～

前田 文彦

栃木支部会員の年齢分布を示す。支部会員の平均年齢は67才。全国平均は68才でほぼ同じだが、これでも33支部中若い方から数えてみると8番目の支部である。



次に、山岳会入会時の年齢はどれくらいなのだろうか？調べてみた。



この分布を見てみると、1980年代後半以降から20代30代の若い世代の入会者が支部にはいないことがわかる。この時期は会員番号でいうと10000番頃からである。山岳会会員になろうとする理由に変化が起きたのだろうか？

2014年4月～2015年3月に新会員(復活を除く)となった237名の年齢構成を見てみる。

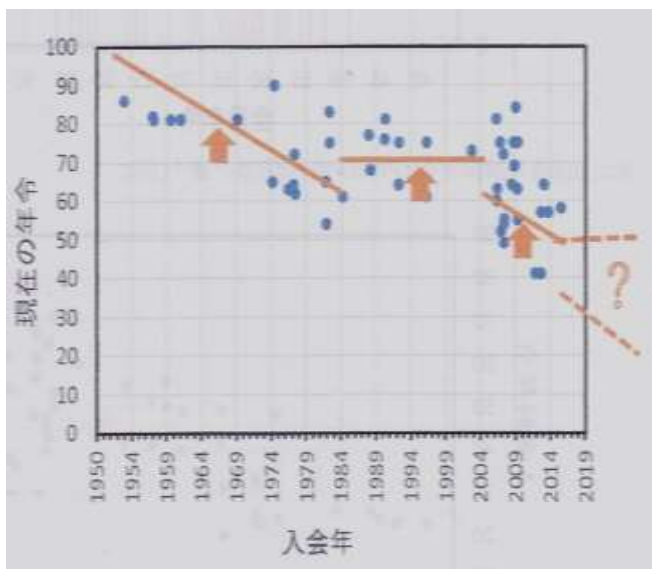
## 韓国漢拏山スキー登山

山本武志



60才以上のいわゆるリタイア世代からの新会員が4割いることは今のご時世かもしれない。しかし技術・体力が伸び、山の世界が広がっていく10代～30代の新会員も1/4いることがわかる。決して若い世代の入会が無くなっているわけではないし、入会動機も存在していると考える。

再び支部に戻って入会年を軸に現在の支部会員の年齢構成とその10年後を示してみた。



異なる幅広い年代の山岳会に対するニーズに対し、幅広い年代がお互いに山岳会で活動することの価値を提供し、山岳会の価値が伝承されてきたように思う。次の10年間に向けて、支部としてできること、支部だけでは難しいことを考えてみる良い機会だと思う。

昭和48年1月、「訪韓親善法政大学スキー登山隊」が編成され、風と岩と女の島、韓国済州島で遠征が行われた。

法政WV、OB会8名の隊員が大阪空港からYS-11に乗り込んだ。

小さな機体なので乗り心地がおよそ国際線などと呼ばれる代物ではないほど悪く、我々の心配をよそにこの日本製の飛行機は無事済州島国際空港に着いた。どこからともなくキムチの臭いが漂ってくる空港の空気に触れ遠征の喜びが沸いてきた。

何時も乍ら登山前は、装備点検、食糧買い込み、バスの手配と忙しいが、慣れたOB達なのでテキパキと仕事を片付けていった。

隊長は地元の放送局から取材を受け、それが電波に乗り、小さな島で話題の少ないせいか大きく報道されたので済州島滞在中現地の人達に好意的に受け入れられた。

登山初日はマイクロバスで登山口に向かうが、高度が増すにつれ積雪とアイスバーンでたちまちストップ。予定の地点よりかなり下から歩きはじめた。雪の沢道を登りオルム山荘に着き一泊。山荘は快適で中には朴大統領の注意書があり、韓国の山だと改めて感じた。

登山2日目は小雪の中を2回に分けて物資を運び雪降るなかベースキャンプを設営した。

3日目は快晴の中をスキーにシールを付け快適に漢拏山を目指す、火山特有の漢拏山がどんどん近づいてくる。途中釜山山岳会と交歓して登山の情報を得た。スキーをデポしてアタック隊3名が登攀を始めるも、3分の1登ったところで、氷壁に阻まれ時間切れとなり登頂を諦めた。雪壁の基部からスキーで下山に移った。

広大な斜面を豪快に滑り、一気にベースキャンプに着いた。学生時代に培った登山やスキー技術が大いに発揮された楽しい経験だった。

済州島に戻ってからは現地の学生や山岳会の人達と交流を深めたり済州島の歴史を訪ね見聞を深めた。

関釜フェリーで帰国したのも忘れられない思い出である。

何時の日か漢拏山の頂に立ちたいと機会を待つ



ていてやっと18年たって念願がかなえる時が来た。

平成3年のゴールデンウィークに学生、OBがそれぞれ韓国一帯を歩き、濟州島に集結し、漢拏山に登る計画である。

いよいよ漢拏山の頂に向かう。私は18年待つて頂上に立ったらどんな思いがこみあげてくるかなと感情をこらえて登っていると、頂上から「山本さん」と中華民国山岳会の林照雄さんに声をかけられビックリした。山の世界は狭いなと驚き一緒に来た韓国山岳会の人を交え、日、中、韓、友好登山に早変わりした。永年の思いが叶い頂上を辞した。

## 短歌 平ヶ岳

上田 景子

ただ一目 君に会いたくて  
迷いつつ 桧枝岐より魚沼郡へ

平ヶ岳 宮さまコース登りゆく  
釈迦のごと在す玉子石に会う

草原に あまた池塘の平ヶ岳  
何ゆえにある玉子石ひとつ

頂きは 三つの丘でまあるくて  
平ヶ岳立つただ広々と

楽園は 見渡す限り名も知らぬ山  
山 山また やま やま やま

あれが道 ナイフエッジの尾根筋に  
白茶けた崖吸い込まれそう

姦しきが よくぞ登りたる二百四歳  
今日の行程十三時間

## 山の俳句

蓮實 淳夫

### 鬼怒沼3句

水神の声と覚ゆる滝の音

野分来る気配に戦ぎ山上湖

鬼怒沼の池塘に託す夏の夢

### 那須岳3句

人寄せぬ晩夏の声や剣ヶ峰

雨連れて来たる雲の間濃りんだう

鎖場へ踏み込む一步律の風



## 白根山

菱田 克彦

一番好きな山は白根山です。なぜかという、いろいろなルートがあり、それぞれ変化に富んでいるからであり、何度登ってもいい山です。

白根山を初めて意識したのは、中学3年生の時。林間学校で登った、前白根山から眺めて、その山容や五色沼の美しさに感動しました。

しかし、なかなか登る機会に恵まれず、初めて頂上に立ったのは、社会人になって、会社の山好きたちといった時。この時は、菅沼からのコースでした。

その後も、金精峠から、湯元から前白根を越えてといろいろなコースで登りました。

弥陀ヶ池の畔での一服は、至福の時。周りを山に囲まれたこの空間は、とても落ち着き、休んでいるうちに、山頂など行かないで、ここでのんびり昼寝をする誘惑に駆られます。シラネアオイがほとんど見られなくなったのは残念ですが、一方で、増えたシカに出会ったこともありました。

近年では、丸沼高原のロープウェイで、比較的楽に登れるようになりました。山頂駅からは、頂上がきれいな山の文字の形になっているのが面白い。栃木側から見るのとまったく表情が違います。

ところでこの辺の地名は、弥陀ヶ池、坐禅山、血の池地獄、賽の河原など、古くから信仰されている山にはよくある面白いものがたくさんありますね。

あー、書いていて、また行きたくなりました。



白根山

## 台湾 雪山登山

長 百合子

平成21(2009)年5月12日(火)~17日(日)

【5泊6日】

5月12日(火)、私たち女性4人は、桃園空港で溯溪協会理事長の荘氏、張さんの出迎えを受け、台北ホテルに宿泊、その後近くのスーパーで登山のための食材を買う。13日(水)、常務理事の許氏のガイドで武陵登山口から高山ツツジが咲きほこる中を登山し、七卡山荘泊。14日(木)、哭坂展望台からの植生は紅毛ツツジになり、午後からの雨を避けて三六九山荘に泊まる。15日(金)、5時出発、樹林帯から石楠花の群生の中を登り、10時に雪山頂上に到着。360度の景色は貸切同様。後に地元の公務員グループが着き、この先の岩場の方へ出かけて行った。頂上を後にして七卡山荘へ下ると、地元の登山者がどんどん登って来る、20代?皆若い。登山は経済的と見直されているようだ。

日本からのあるツアーが、13日(水)夕暮れ頃、玉山を下山して七卡山荘へ登ってきた。14日(木)は3時過ぎ出発して雪山頂上をめざし、午後雨の中を行動して日も落ちた19時三六九山荘に帰ってきた。15日(金)はまた3時頃出発していった。日程が短く、費用が安い、二つの山も登ることができるということで、貧乏な私も飛びつきそうな企画であるが、快晴の私達の山行と比べると怖いと思った。

## 思い出の山 ～那須岳～

神島 仁誓

国道 400 号を北西の方角に向かい、宇都宮線の跨線橋を越える。上りの勾配がきついので、車のアクセルをちょっと深めに踏み込みこむ。ほどなく跨線橋の頂点に着くと、雪をいただいた山並みが一気に目の前に広がってくる。栃木県の北部から西部にかけての山塊がほぼ一望できる。ここからの眺めがなぜか一番好きだ。同じような景色は、この道路のもう少し手前から、あるいはちょっと下ったところからも見えるのだが、この地点は地上から 10 メートルあまり上っていて視界を遮るものもないので、まさにパノラマ・ビューの醍醐味が味わえる。瞬時のことゆえ凝視することなどできる筈もないのだが、あるいは脳裏の奥底に鮮明に刻み込まれた風景が、重なり合うように映し出されるのかもしれない。

左手には足尾から日光の山々、中央に高原山から塩原の山々、そして右手にはひときわ雪化粧の目立つ三倉・大倉・流石などの国境稜線を担う山々、そして噴煙たなびく茶臼など那須の山々。でもそれもほんの一瞬。車は勢いを増して下っていく。ジョギングでここを越えることもあるが、その時には必ず頂点で一度立ち止まって、しばしここからの絶景を楽しんでいる。

大学で山登りを初めて以来、少なからず山に関わる生活をするようになった。なかでも高校に勤務し、宇都宮南高校・大田原高校で山岳部をつくり、顧問として多くの山に登ることができたのは望外の幸せであった。なにしろ部員と山に行くことが仕事になったのだから……。機会に恵まれて海外遠征にも 4 回ほど行かせてもらった。山に行くたびに思い出が一つ二つと増え、いつの間にか多くの山仲間もできていた。どの山にも捨て難い思い出があり、思い返すたびになつかしさがこみあげてくる。だからすべての山の思い出を書きたいというのが本音であるが、それはかなわぬこと、ここでは那須岳の思い出にしぼって書いてみたい。

どうして那須岳かって？それはなんと言っても毎日仰ぎ見る故郷の山であり、小・中・高の校歌にも必ず登場するので、なじみ深い山である

からね。それにね、那須岳は宇南でも大高でもホームグラウンドにしていた山だから、新人歓迎合宿・強化合宿・冬山・春山をはじめとしてよく通ったもので、その分だけ思い出もすごく多い山なんだ。思いつくままに書き綴ってみよう。

○スキーをする父親はいつもリュックを背負っていて、そこから首だけ出してお供をしていたのが私で、行き先はきまって那須のスキー場だったね。

○冬山合宿で、予定のテント場までたどりつかず、三斗小屋の大黒屋の庭先をお借りしてテントを張ったことがあった。でも軽い気持ちで残飯を雪中に埋めて戻ったために、春になってそれが露見して、叱責のお手紙をいただいた。でもそのことが縁となって、山岳部員がよく泊めていただいたり、冬や春に温泉にいられていただくようになった。

○春山合宿の出来事。天候に恵まれた年は、大きなイグルーを作って、そこに部員ともども二泊した。二泊三日思う存分雪遊びを楽しんだ。でも天候の悪かった年は、清水で道がわからなくなり、すーっと引き返して避難小屋から三斗小屋方面に降りて、途中の小屋付近でテントを張ったこともあった。疲労困憊して多くの部員が目に涙を浮かべていたなあ。

○県境縦走の一環として、大峠から流石・大倉・三倉方面を歩いたことがあった。水場がないので、生徒 2 人と私とで合計 20 リットルほどの水を持参しての山行だった。真夏のことで藪こぎで苦勞したのを覚えている。途中で水が尽きて、結局沢に降りて敗退したが、その日、稜線から見た日の出の美しさを忘れられない。神々しいまでの美しさとはこういうものか。

○那須で行われた高体連の大会はよく強風に襲われた。掲揚塔にひるがえっていた高体連旗が強風にちぎれて無残な姿になったこともある。また峰の茶屋や牛ヶ首は風がひどくて、大会当日は生徒を一人ひとり顧問が抱きかかえて渡したこともあった。

○私のところの本堂に生徒を宿泊させて、早朝たたき起こしては那須に強化合宿によく出かけた。U 字工事の益子卓郎もよくそんなことで山に行き、山を楽しんでいたものだ。

# ちょっと一服！！ 山は「さん」「せん」「しゃん」？

- 世界で一番高い山はと聞かれて、ちょっと山に関心のある者ならば、ほぼ全ての者がエベレスト(チョモランマ, サガルマータ)と答えるに違いない。実在する山としてはその通りで、あるいは小学生だってそう答えるほどの知識を持つ者も多かるう。
- 仏教の世界観・宇宙観では須弥山(しゅみせん, 妙高山ともいう)が最高峰で、高さ 16 万由旬(ゆじゅん)という。1 由旬は 7km というから、想像を絶する高さということになる。ついでに言うと、この須弥山がのっている大地(金輪, こんりん)の最下層の底を「金輪際(こんりんざい)」というそう。
- 寺に行ってお本尊にお参りをすると、たいていの場合、御本尊は宮殿(くうでん)や厨子(ずし)に安置されていて、さらに宮殿は数段高い壇上に置かれている。この壇を須弥壇(しゅみだん)といい、須弥山に由来するものである。
- ところで、この『須弥山』はなんで「しゅみせん」と発音するのであろうか。『須弥山』の別称『妙高山』はなんで「みょうこうさん」なのであろうか。そういえば、山陰地方に『伯耆大山(ほうきだいせん)』とか『氷ノ山(ひょうのせん)』『蒜山(ひるぜん)』『若杉山(わかすぎせん)』とかいった例もある。ちょっと考えてみましょうか。
- 漢字の読み方には音読みと訓読みがある。確かなことは忘れたが、小学校で漢字に触れて最初に教えてもらったと記憶している。
- そのうち、音読みには呉音、漢音、唐宋音、慣用音等があって、漢和辞典にも呉, 漢, 唐, 慣という表記があって、識別できるようになっている。
- 古代の日本には、話し言葉はあっても、それを表記する文字はなかったから、朝鮮半島ないしは直接日本に入ってきた漢字がそれにあてられた。
- 倭の五王の史料にもあるように、日本は魏晋南北朝時代の南朝と朝貢関係にあり、その交流のなかで南朝から日本に伝わった発音が『呉音』と呼ばれることになったと推測されているようだ。おそらくは5～6世紀のことであったという。
- ところが、7～8世紀になって遣唐使や留学僧は、唐王朝の首都である長安で使われていた発

音をもち返った。これを『漢音』と読んでいる。奈良・平安朝ではこれを正規のもの(「正音」)として、普及させるべく指令を出したという。

- 『漢音』が導入された後も『呉音』は駆逐されずに仏教用語や法律用語として、『漢音』と併用されてきている
- さらに鎌倉時代以降に禅宗僧等が伝えたものを『唐宋音(唐音, 宋音)』という。
- 例えば、「自然」なら漢音では「しぜん」だが、呉音なら「じねん」と発音するし、「明」なら呉音では「みょう」と、漢音では「めい」と、唐宋音では「みん」と読むことになる。日本人は知らず知らずのうちに、数種類の発音を使い分けているのである。
- 前述の『山』についていえば、呉音なら「せん」、漢音なら「さん」と読むので、「しゅみせん」であり「みょうこうさん」なのである。もともと本家の中国では、天山のごとく「しゃん」という発音に変わってしまったから、日本人のほうが中国語の古い発音を使っていることになるわけである。【支部報1号より】



錦秋の茶臼岳

## 思い出の山行 虹芝寮とカレー

北見 正光

2015年4月の春山山行は、前年に続いて成蹊学園虹芝寮を拠点としての山行となった。

入会浅い私にとって、虹芝寮に泊まる、と言うことは大きな喜びであった。前年この寮について設計者など建設までの話を伺っており、改めてここに“泊まれる”ことに栃木支部会員としての喜びを感じていた次第。先輩方々の人脈の素晴らしさに拍手、である。

虹芝寮に到着後の作業分担で、なぜか私が炊事当番に選ばれた。土合に向かう車中でカレー作りの話で盛り上がったことが(私だけか?)炊事担当者の耳にはいり採用となつたらしい。最近の山行では自分たちで調理することなどまずないので、作る喜びと周りがお姉さんたちで少し緊張したものだった。手順や調理方法などリーダーの長さんと確認し合いながらワイワイと楽しいカレーづくりであった。隠し味にチョコレートをいれることなど、リーダーの長さんにオーケーをいただいて、“喜びいっぱい”で、出来あがったカレー料理でした。

幾人かの方に“北見さんが作ったの”と聞かれたりして 嬉しく楽しい虹芝寮での懇親会でした。

翌日 周辺の散策を終え、帰途の途中 我が儘を言って一人、一の倉沢に向かう。出会い間近で村田さんが来るのが見えた。一人では万が一の時にと上田さんの指示で追いかけて来てくれたのだった。短い距離で自分では“安全”と思っても“絶対”は無いので とってはならぬ行動だったのでは、と反省する。

久しぶりに見る一の倉沢の岸壁。村田さんと息子をここで亡くした父親の話として、“山男たちの死に方”(山際淳司)のなかから取り残された側の心情など、話をする。この本はいまでも時々開いては断片的に読んでいるものである。

“やはり 山で死んではならないね”とむすんで旧道を土合に向かって歩き出す。

赤倉沢出会いで眺めた美しい谷川岳の稜線と、一の倉沢出会いで見た岸壁の峻険さとが脳裏に焼き付いていて、虹芝寮でのカレーと共に思い出に残る山旅であった。

## 山の日制定プロジェクト 栃木県山岳連盟都の共催 2016日光清掃登山報告

麦倉 常治

日時：平成28年7月2日(土)

講演会 17:00～ 前夜祭 18:00～

7月3日(日) 7:30～17:00

場所：日光湯元キャンプ場、前白根山、奥白根山、弥陀が池、五色山など

参加者：7/2 (講演会・前夜祭) 支部会員：6名、岳連等参加者：20名程度  
7/3 (清掃登山) 支部会員：5名、一般：6名 全体参加総人数約200名



湯元キャンプ場での「山の講演会」

山の日制定プロジェクトとして、本支部での取り組みとして開催してきた清掃登山ですが、本年度最初の「山の日」(8月11日)が迫る中、山の日を迎える機運が各山岳団体を中心に高まり、そのキャンペーンなども具体的な準備が進められています。本支部としても、これまでの「山の日」制定の運動から始まり、制定が決定した一昨年よりは「山の日」の趣旨を広く県民に周知する機会ととらえ、毎年栃木県山岳連盟と共催により、日光清掃登山を実施してきました。

### 【7月2日(土)】

#### ◎山の講演会

参加会員：坂口、坂口直孝、前田F、仙石、麦倉、村田

※一般参加1名

演題：「海外登山でお世話になった方々」

講師：県山岳連盟副会長 糸川 章氏

下界は、気温が上がり雲も多くドンヨリした天気でしたが、奥日光の湯元は、青空が広がり、気温は湿度も快適で、まさに避暑の別天地を実感出来る中、県内の山仲間が湯元キャンプ場集まり、山の講演会が開催されました。講師の糸川章氏は現在も海外登山を精力的に行っており、様々な山に登頂されています。その中で、ご自身の山での出来事や、成功裏に遠征が終了出来るためには、海外で活躍されている日本人のスタッフが非常に強力なサポートとなることを講演でお話いただきました。特に、海外での旅行社で働く女性の活躍がクローズアップされていました。

参加された皆さんは、海外の山に思いをはせ、熱心に聞き入っている姿が印象的でした。

### ◎栃木県山岳連盟主催の前夜祭

参加会員：坂口、坂口直孝、前田F、仙石、麦倉、村田

※一般参加1名

講演会が盛会に終了したあと、清掃登山を明日に控えて、毎年恒例の栃木県山岳連盟自然保護委員会主催の前夜祭が、湯元キャンプ場の炊事場を中心に開かれました。会場では、岳連自然保護委員会の方を中心に準備がされ、参加者がそれぞれ料理や飲み物を持ち寄り、また、各方面からの差し入れなどもあり、山の中にしてはかなり豪勢な品揃えで、盛大に開催されました。これまでに比べて少し人数が少ない感じもありましたが、会や組織を越えての歓談や親睦を深める、楽しい交流の夜となりました。

【7月3日(日)】

### ◎清掃登山

参加会員：坂口、坂口直孝、麦倉、村田、前田F（開会式のみ参加）

△仙石、東、鈴木、北見、猿山等の各氏は別の所属会での参加

※一般参加6名

清掃登山当日の朝は、あいにくの雨が降り、開会式を迎える時間になり、雨は一旦上がりました。開会式には、前日からの参加者（5名）に加え、一般参加者6名も合流しました。朝7時30分に湯元のビジターセンター前広場での開会式が行われ、そこでは、県山岳連盟会長の喜内氏の

挨拶と、共催団体として本支部からは前田事務局長から参加者への挨拶がありました。

開会行事終了後、各会に分かれての活動となり、本支部では、健脚コースとハイキングコースに別れて会員を案内役として、総勢10名を2つのパーティーに分けて登山行動に入りました。

### ○健脚グループ：奥白根山コース

参加会員：坂口直孝、麦倉、村田

※一般参加3名

これまで何年か前白根までのコース設定をしていましたが、その先を望む声に答え、本年度は、前白根山から奥白根に登る健脚コースを設けました。湯元から会員3名と一般参加者3名の6名のパーティーで湯元を出発しました。いつ降り出すか分からない空模様ではありましたがそれでももちこたえ、日差しが無く風がひんやりして気持ちいい中、一行は湯元スキー場から外山尾根の急登を快調に、時々ゴミを拾いながら登っていきました。道脇のイワカガミに励まされ、涼しいさわやかな風に癒されながら、外山尾根の鞍部に出ると、今年はミネザクラはもう既に無くなっていましたが、その代わりにシヤクナゲが綺麗に咲いていました。

急な登りから緩やかな登りとなったシヤクナゲが見事に咲く尾根道を進み、天狗平を越えて前白根山の山頂に着きました。山頂付近には、コマクサが今が盛りと咲いていました。コマクサはこれまで生えていなかった登山道脇にも株が広がって、赤い花を咲かせていました。そこから、避難小屋まで下り休憩を取りました。小屋付近は何頭も鹿がおり、その鹿に囲まれながら小屋前でエネルギーや水分の補給をして、奥白



奥白根山頂

根の登りにかかりました。ガスっていて視界が悪く急な山道を登り切り、奥白根の山頂に無事到着しました。ガスがかかり景色どころか、道も余りよく見えないような感じで風も強く吹いていたため、記念写真だけ撮り、早々にハガタテ方面に下山を開始しました。急な下りを安全に気を付けながら弥陀が池まで降りてきました。弥陀が池の景色に心奪われ、そこで休憩して、再度記念写真を撮りました。その後、五色山を越えて国境平に下り、中ッ曾根尾根を下りました。ガスが晴れるようになり、幾分雲もうすくなり晴れ間も出始め、湯元の景色や男体山等の山並みが見えるようになってきました。湯場見平で休憩して、湯元には午後5時に到着しました。

ゴミの回収の方は、登山道では毎年のことですが回収するゴミも本当に僅かで、最近の登山者の意識の高さを再確認しました。

そして最後は参加者特典である温泉入浴をして、疲れと汗を流し、雨で濡れた身体を温めて、清掃登山の全日程を終了しました。

#### ・活動行程

湯元 →外山尾根取り付き→前白根山  
7:50      8:20                      10:30  
→白根避難小屋→奥白根山→弥陀が池  
11:30              12:30              13:30  
→五色山→湯元(解散)  
14:30      17:00



弥陀が池にて

## ○ハイキンググループ

切込湖・刈込湖コース

参加会員：坂口

※一般参加3名

本年は、のんびりハイキングコースを設定しました。湯元からは、会員1名と、一般参加者3名が参加して、計4名のパーティーでハイキングを楽しんでいただきました。

湯元を7時50分に出発して、金精道路を横切り、小峠を越えて刈込湖から、更に奥に進んで切込湖の湖畔にたどり着きました。会員は、往路を湯元に戻りましたが、一般参加者は更に足を伸ばして山王峠経由で光徳に達し、そこからバスで湯元に帰着しました。

参加者は美しい樹林と景色を楽しみ、奥日光屈指の景観である、切込湖・刈込湖の景色を堪能して、さらに会員の案内により実りのある、楽しいハイキングになりました。

前日の好天から、朝は雨に変わり天気が心配されましたが、厚い雲に覆われ風も吹いていましたが、山行中は雨に降られることもほとんどなく、むしろ下界とうってかわって涼しい風が吹き、段々天気も回復してきて次第に視界も大きくようになってきて、景色や高山植物を楽しむことができました。そのような中での清掃登山活動は、自然保護とへの貢献への満足感も含めて良き山となりました。参加した会員と、一般参加のみなさんお疲れ様でした。

# 会 員 紹 介

4146 日下田 實



私は多分昭和 28 年に日本山岳会に入会したと思っております。入会しても当時は大学を卒業して間もない頃で、日本山岳会のことよりも現役の学生の面倒をみていることが殆どで、山岳会のことは何もしていない状況でした。当時は日本山岳会の学生部に属しており、今は亡くなられた日大OBの金坂一郎さんにお世話になっておりました。

栃木県岳連との関わりあいは、マナスルから帰国して7月頃だと思いますが、現在もお元気でおられる坂口三郎さんが家へお出でになり、栃木県岳連で那須へ行くので一緒に行かないかと誘われて同行したのがはじまりだと思います。しかしその当時、大学で体育が正課になり、各運動部がその授業を受け持つようになり、私も山岳担当の非常勤講師ということで上京することが多く、栃木県岳連とは殆ど関わりを持たない状況でした。

現在の渡邊支部長になって日光白根山へ同行し、再び栃木県の山岳関係者との関わりを持つようになり、支部長にまつりあげられ、支部の皆さまのお世話になり、現在に至っている次第です。現在殆ど山登りはしておりません。デスクライマーに徹しております。しかし学生時代から山登りをやっていたおかげで、現在も歩くことはあまり苦になりませんが、平らなところを歩くようにしております。ゴルフもやっておりますが、上りのコースは苦手ですが、上りがあれば下りもありますし、何とかワンラウンドくらいはカートの世話にならなくても出来るようです。

これからもなるべく歩くようにしていきたいと思っております。年齢が年齢なので山登りは無理ですが、できるだけ歩くよう心掛けていきたいと思っております。

4255 堀越 利男

4633 山野井 武夫



4661 森 元一



『日光白根山は高かった』  
支部設立記念山行は県内(境)最高峰の日光白根山。対象として誠に相応しい、と後になって気付いた次第。県内の山登りの経験は全くなく、東京大森中学の修学旅行で初めての日光。華厳の滝、中禅寺湖と男体山を眺めた記憶しかない烏山在住の後期高齢者です。

丸沼スキー場のゴンドラ山頂駅は、真夏の日射しは強くても涼味満喫。白雲浮かぶ青空に聳え立つ三つの峰とその直下の爆裂火口の山容は印象深い標高 2578m。

5346 沖 允人



6189 小島 守夫



6956 井上 孝郎

1935年岐阜市で生まれる。その後、高山市、大垣市、戸畑市(今の北九州市)を転居し、高校、大学時代は広島で過ごす。1960年から栃木県の教員として当地に定住することになった。山は、中学1年から昆虫採集で英彦山、阿蘇山などに登っていたが、大学に入ってから山岳部で活動した。





7914 渡邊 雄二



私の入会の紹介者は、大学時代の山岳部部長であった恩師の板倉勝正先生である。板倉先生は松尾峠で遭難(1923年1月)された板倉勝宣氏の甥にあたり、ご自宅で遺品などを拝見させていただいた思い出がある。現在の日本山岳会会長小林政志氏(会員No.7915)は山岳部の1学年先輩で、同じく板倉先生が紹介者であると記憶するが、なぜか会員番号が私の方が一つ若い。理由はたまたま書類が上に重なっていただけだと思う。

日本山岳会では1988年の三国合同エベレスト登山隊や1995年のマカルー登山隊などの大きな登山隊に参加させていただき準備から実際の登山活動、その後の後始末等に携わり大変勉強になった。そのお陰で2回理事としてお世話になり、会務の一翼を担当させていただいた。夜の理事会に定期的に日光から通うのは結構大変だったが、これまた大いに勉強させていただいた。栃木支部の設立に関わり、9年間事務局長を務め現在は支部長の任を仰せつかっている。日下田、山野井両元支部長の名を汚さないように、会員の皆様のご理解とご協力を得ながら務めたい。

7973 坂口 三郎



8282 上野川 孝一

8383 前田 洋子



高校時代バスケットボールをしていた。その顧問の先生が三年の引退後、卒業記念旅行として「霧ヶ峰～車山」へハイキングに連れて行ってくれた。山歩きが好きになる、大きなきっかけとなった。

大学W・V部に所属し、奥多摩・丹沢・奥秩父を主に歩いた。大学三年の時行った屋久島は再度行きたい所であるが今だ実現していない。

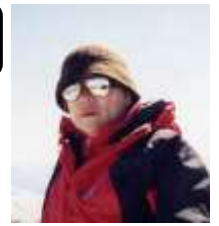
卒業後日本山岳会の事務局に就職し退職後、会員となる。

8386 牛窪 光政



8432 前田 文彦

昨年(平成27年度)より、支部事務局長を担当しています前田Fです。入会は1978年6月、大学院に在籍中でした。その後当時の集会委員会で活動、四番町のルームに入り浸り、カンチの登山隊にもかかわり、ルームの代理職員をやっていました。栃木に来てから30年、支部にかかわるとは思ってもみませんでした。よろしく願います。写真はアメリカ駐在中に登ったMt.ホイットニー山頂での自己撮りです。



9265 石澤 好文

栃木県の教員に採用され、高体連登山部で沢山の山仲間と出会うことができ、学生時代には夢であったヒマラヤにも行くことができました。また、山岳部の生徒と登った山行は楽しい思い出になっている。5年前に退職し、晴山雨読の生活を夢見、読むべき本も大量に買いだめしていましたが、地域の役職やら非常勤講師を頼まれ、現役の時よりは忙しい毎日を送っております。今後体力に応じた山登りを楽しんでいきたいと思っています。



9267 白田 徳雄

私は、昭和55年10月第35回栃の葉国体を機に、元栃木県山岳連盟会長渡辺宏之氏の紹介により日本山岳会に入会して、今日に至る。はや36年が経過するが、栃木支部に何らかの貢献ができない状況で申し訳ありません。

実は栃木県山岳連盟の役員を長期に至り任命され、40代で国体強化コーチを務め、第34回宮崎国体と第35回栃の葉国体で成年男子の監



督に選任され、特に栃の葉国体で県代表として県民の期待を背負い、長期間の強化合宿の成果で、種別1位となり、本県成男・成女・少男・少女と共に天皇杯・皇后杯を獲得。

50代では、平成10年、立山連峰での中高年登山者の多量遭難事故が発生し、社会問題となった。このため日本山岳協会から各県山岳連盟に対して、未組織の中高年登山者への指導と組織の要請があり、平成2年に中高年登山委員会を発足させ、具体的な活動を始める。

登山は、危険な状況にもなる自然が相手であるにもかかわらず、中高年登山者は基礎知識・技術・体力・経験が不足していることから、正しい判断ができずに遭難事故が急増した。

そこで日本体育協会公認スポーツ指導員の資格を活用して、安全登山教室を開催。読図・気候・装備・食料・応急手当などの知識を、実技では歩行・読図・観天望気・自然保護・マナーなどを指導、引き続き安全登山を続けるため、クラブ設立を終了者に呼びかけ、委員会でクラブ運営を支援する条件で、栃木ビスターリークラブとラリグラスHCが設立される。月2回の山行には指導員12名が交代で実技指導に当たり、20年間遭難事故ゼロ達成。60代では長年の登山活動の成果として、日本百名山を完登することを、定年後の目標にし、未踏30座を3年計画で達成すべく仲間を募り、愛好会を設立し、2年間で28座を登頂し、平成13年7月恵那山、8月5日北アルプス最奥の水晶岳を65歳で百名山を完登。

9307 佐藤 清衛



9350 山本 武志

○昭和16年東京都新宿区生れ○疎開で益子町に移住

○出身学校 真岡高校、法政大学

○所属団体 日本山岳会アルパインフォトクラブ

日本ワンダーフォーゲル会

日本風景写真協会

法政体育会ワンダーフォーゲル倶楽部

○好きな山「筑波山」現在130回登頂



9642 金田 利夫

10416 上田 景子

山岳会の100周年記念の時、ちょうど栃木に居を移したときで「栃木には行く山がない」と栃木知らずの私が自己紹介すると、「なにを言ってますか、いい山沢山あるじゃないですか」と怒られたように言われ、ハッと我に返った。以後百名山の本を参考に登り始めた。驚いたのは樹々の花の美しさ！濃いピンクのまるいアカヤシオ、心が洗われていくシロヤシオだった。

下野の百名山を登ってみる いつの間にか追いかけている。 景子



10459 仙石 富英



10885 蓮實 淳夫

主な仕事：

農林業・黒羽文化協会会長

黒羽芭蕉の里全国俳句大会

実行委員長

山暦俳句会同人会長・余瀬俳句会代表

「おくのほそ道」を歩く旅の会講師



10909 中村 靖弘



11381 関根 和男



11402 渡辺 剛



12466 長 百合子



12503 菱田 克彦



13906 吉田 春彦



### 『私のロングトレイル』

50代の日本アルプス横断登山(新潟県親不知海岸～静岡県静波海岸)・・・登山回数20回、44泊64日・・・が契機となり、62歳の時に日本山岳ガイド協会の正会員(所属は片品山岳ガイド協会)。無積雪期の尾瀬周辺の山地登山ガイドをしながら登山している。現在のテーマは「太平洋から日本海へ」。コースは、三保の松原～富士山～八ヶ岳縦走～徳本峠～槍ヶ岳～読売新道～黒部ダム～東一の越～美女平～富山湾。登山には出会いがあり、発見があり、驚きがある。いつも前向きに生きていく勇気もらっている。

14419 斎藤 隆

14438 神島 仁誓



栃木支部発足時に入会して10年目に入りました。山登りを本格的に始めたのは大学で山岳部に入ってからでしたが、山に関わりを持つようになった原点は、父に連れられて登った那須や塩原の山にあったようです。幼少の頃、父に連れられてスキー場に行くと、父のザックから首だけ出して父を待っていたようですし、キノコとりや松の実拾いなどでも山に行った記憶があります。そのどれもが楽しい思い出となっており、大学での山登りにつながっていったのかもしれない。

高校教員となってからは、山好きな生徒にも恵まれて、赴任先の高校で山岳部をつくることができました。宇都宮南高校と大田原高校です。ともに生徒に恵まれて、毎年かなりの日数山に入ることができました。なにしろ生徒を引率するので出張で山に行けるのですから、山好きにとってはこれほど魅力的な環境はありません。宇都宮南高校には山岳部の前身として野外活動研究部があり、そこで毎回山に行っていたのが佐藤栄一くん(宇都宮市長)、大田原高校で山の中でもうけねらいでアホなことをしていたのが益子卓郎くん(U字工事)でした。

しかし生徒を引率するというは大変な責任を負うことになり、それは必然的に生徒よりも引率顧問自身が常に体力・気力・技術・経験向上を目指してトレーニングすることが要求されることとなります。そのために在職中は顧問同士の山行も多くあり、その一環として海外遠征にも4回ほど参加する機会を得たのは幸甚でした。多くの山仲間を得た高体連登山部での活動でした。

父の死後、寺の住職を継職しましたが、両立が困難となり平成16年3月に高校教員を退職しました。途端に山に行く機会は全くなくなりました。山にイ・キ・タ・イ！！

14475 北見 正光



14483 東 和之

14510 桑野 正光



**14518 猿山 浩**

共通一次世代で、就職当時は今の「ゆとり世代」と同じように「新人類」と揶揄弄されていた。が、時は流れ、最近は年寄りキャラがしっくり馴染み、定年退職までの数年間、如何に有意義に過ごすかを考えている。春は山スキー、夏は沢登り、秋はツーリング、冬はスキーを楽しんでいる。旧車のハーレーとポルシェの維持に手を焼いている。妻子あり。栃木山岳会所属。

**14527 稲葉 昌弘**

学生時代に登山を始め、現在に至るまで、その時々の仕事や家庭の状況などに応じて続けてきました。今は日帰り、地元栃木を中心に、目立たなくとも静かな山を探し歩いています。今後も、奥日光や那須でのクリーンキャンペーン、コンセーレ（栃木県青年会館）での講演会や映画会など、日本山岳会栃木支部の様々な活動に参加することで、これまで自分を育ててくれた山に恩返しがしたいと思っています。

**14529 麦倉 常治**

私の山の始まりは、高校山岳部で初めて参加した日光の黒桧・社山を会場で開かれた高体連登山部の大会でした。登る大変さに負けそうになりながらも、それを乗り越えたと、新たな世界が広がる楽しみを感じたことを覚えています。その時から時間は流れてきましたが、その当時の恩師がいるこの会で、その当時の気持ちと変わらず、未だにまだ見ぬ世界に心を躍らせて、自分なりの山を楽しみたいと思います。

**14536 後藤 尚****14626 内間 茂**

1952年生まれ（64才）  
 （経歴）1970年 初登山は磐梯山、高3の夏休み桑野会員（恩師）を説得し、2泊3日の尾瀬・燧ヶ岳40名の団体登山（卒業イベント）を実施してから山に憧れる。1972年の剣岳以降、27年間。山とは無縁の会社人間を貫く。1999年コンセーレ生涯学習セミナーで安全登山を目的としたハイキング講座開設、桑野会員とともに2012年の退職まで運営に携わる。



2013年 講座修了生から招請され楽しいハイキング同好会（ACC）を発足、代表世話人として現在に至る。この年より毎年、北海道遠征登山（7泊8日）を始める。

2016年 日本百名山踏破を目指す会員16名で、北海道3座、東北越4座、北アルプスの6座に登る。

《資格》 日体協山岳指導員

**14650 早川 和子****14656 石井シモ子****14667 増渕 仁一****14674 船村 徹**

**14679 仲島 正子**

日本山岳会栃木支部に入会して7年目、その間いろいろな思い出ができました。その中でも一番印象深いことは、平成27年7月19日、第4回親子登山教室の一コマです。小学生10人、保護者8人が参加し、登山初めての方も太郎山新薙コースに挑戦です。ロープが固定された岩場が続く急登や、ガレ場をトラバースする危険な箇所があり、健脚向けのコースです。参加者の皆さんは登山教室の良いところで、ライバル心や迷惑をかけないようにと頑張り、普段の力以上を發揮し、全員無事登頂できました。しかし、下山こそ要注意です。小学2年生と3年生の5人に対して、一人一人に指導員がつき、滑落や落石に備え、安全確保をしながら、慎重に下山しました。この時、山男達の素晴らしいさを実感するとともに、遙か昔のことが脳裏に甦りました。高校生の時山岳部に所属し、度々困難な状況に陥り、顧問の先生方に何度も助けられてきたことです。また、登山を通した1泊2日の経験で、参加者の成長を見守ることができたことも、うれしいことでした。素晴らしい経験をさせていただき感謝申し上げます。

**15212 深谷 篤志**

大田原高校山岳部に入部し、神島仁誓先生のご指導のもと登山を始める。高校・大学と競技登山にも参加する傍ら、マロニエアルパインクラブにも所属し、1993年チベットのニンチンカンサ峰の遠征隊に参加。佐藤清衛先生をはじめ沢山の素晴らしい山男に出会って本当の？山の楽しさを知る。就職後は少し山から遠ざかっていたが、渡邊支部長のご配慮で日本山岳会の会員として今に至る。

**15382 深谷 優子**

鹿沼東高校山岳部に入部し、登山の基礎を教えてもらいました。卒業後は、国体のOBで作ったマロニエアルパインクラブや、当時勤務していた宇都宮市冒険活動センターの仲間と、主に栃木県内の山に登っていました。現在は自転車(ロードバイク)に乗って、地元鹿沼の富士山や、古賀志山や日光や那須の山道を走っています。徒歩でも自転車でも、山を登るのが昔も今も大好きです！

**14681 吉澤 照子****14721 鈴木 清一**

10周年おめでとう。私も65歳で山を登り始め、10年になりました。以前、昭和37年に宇都宮山岳会に入会し、坂口さんと出会い、山のいろはの指導を受け、春夏秋冬の山、群馬・栃木の県境の山々のルート開発をしました。結婚後は仕事一筋でしたが、65歳になってこれからはと思った時、自分には山登りがあると気づき、山登りを始めました。そして坂口さんと再会し、日本山岳会栃木支部を紹介されて入会。現在はマスターズを主に、自主山行を楽しんでいます。

**15384 君島 敏明****15456 青山 孝雄****15625 村田 美代****16048 坂口 直孝**

2016年7月に入会致しました。宇都宮出身で1977年以降は東北・北海道など県外に在住し、アウトドアライフは沢釣り・スキー・ダイビングが中心でしたが、山・沢や花の撮影をしながら



らの幕営山行を 2004 年から始め、北海道を中心に時折日本アルプスに登るようになりました。今後は関東甲信の山々に広く親しんでいきたい

と思っています。今春の帰郷を機に基礎体力の維持・向上を目指し、ロードバイクを始めました。

## 山本武志会員『ネパール行回想』【2015(平成 27)年発行・第 8 号より】

- 4月 25 日ネパール中部で大規模な地震が発生し、数千人が負傷し、死者も近隣諸国を合わせると 2500 人を越えているそうです。
- もう 46 年も前になる話ですが、横浜からカトマンズへ海路と陸路をたどってのネパール旅を綴ってみます。
- ネパールには日本の江戸時代の徳川家と同じように、将軍家としてのラナ家があったそうです。1951 年ラナ将軍家の支配が終わり、トリブバン国王が即位して王政復古になりました。日本と似ているところがあるのも面白いものです。
- 1969 年 10 月フランス郵船で横浜港を後にして、香港・バンコク・シンガポール・セイロン(現スリランカ)に寄港しながら、20 日間の船旅の末、インドのボンベイ(現ムンバイ)に着きました。
- 船中には色々な人種の人がいって船旅を楽しむことができました。寄港する前夜にはダンスパーティが開かれましたが、山ばかりやっついてはだめだと思って学生時代最後にダンスを習っていたお陰で、いろいろな国の女性を相手に踊ることができたのは旅の良い慰めとなりました。
- バンコクに寄港した時には、すぐに親切な現地人が現れて市内の観光地を案内してくれたのですが、最後に法外な案内料を請求されて騙されたのがわかったものでした。この教訓が以後の海外生活に大いに役だったのを考えると、かえってこれはよい経験だったのかもしれない。
- ボンベイのジュフウ海岸に行った時には、英国のエヴェレスト隊がここで海水浴をした記録を読んでいたのも、流石にヒマラヤに慣れている連中だと感心したのを思い出したことでした。
- ボンベイ駅はイギリス風の造りが見事でした。ここで切符を購入した時に、「英語もヒンディー語もわからないようだがこの先大丈夫なのか」と女性の係官の目つきがそう語っていました。案の定、汽車での旅は苦労が毎日続くことになりました。
- 汽車の乗り換えがまた一苦労でした。エヴェレスト隊が立ち寄り、川口慧海がネパール語を学んでいた場所がスゴリ駅ですが、ここで乗り換えの時間があつたので、付近の写真を撮っていたところ、警察に捕まってパスポートを取り上げられることになりました。仕方ないので、カメラからフィルムを抜き出し感光させて、その上始末書を書かされて何とか無事放免となりました。
- 汽車の旅も何とか終わり、インド側の国境の街ラクソールを馬車で通過して、やっとカトマンズ行きのバスに乗ることができました。とはいっても、インド国内で大いに飲み食いしたのが原因で物凄い下痢になり、体調の悪い状態でカトマンズ入りをしたこととなります。それでもバスでダマン峠を越えた時には、遙か彼方に白い山々が見えてきて、やっとここまで来たかと身体が震えるほどの感慨に浸ったものでした。
- ネパール地震の映像を見て、一日も早い復興を願いながら本稿をしたためました。

# 年度別支部役員一覧【各年度の総会終了時点での役員】

	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
支部長	日下田 實	日下田 實	日下田 實	日下田 實	山野井武夫	山野井武夫	山野井武夫	山野井武夫	渡邊 雄二	渡邊 雄二
副支部長	山野井武夫	山野井武夫	山野井武夫	山野井武夫	渡邊 雄二	渡邊 雄二	渡邊 雄二	渡邊 雄二		
顧問					日下田 實	日下田 實	日下田 實	日下田 實	日下田 實	日下田 實
									山野井武夫	山野井武夫
事務局長	渡邊 雄二	渡邊 雄二	渡邊 雄二	渡邊 雄二	渡邊 雄二	渡邊 雄二	渡邊 雄二	渡邊 雄二	前田 文彦	前田 文彦
委員	小島 守夫	小島 守夫	小島 守夫	小島 守夫	小島 守夫	小島 守夫	小島 守夫	小島 守夫	小島 守夫	小島 守夫
	渡邊 雄二	渡邊 雄二	渡邊 雄二	渡邊 雄二	渡邊 雄二	前田 文彦	前田 文彦	前田 文彦	前田 文彦	前田 文彦
	前田 文彦	前田 文彦	前田 文彦	前田 文彦	石澤 好文	石澤 好文	石澤 好文	石澤 好文	石澤 好文	石澤 好文
	石澤 好文	石澤 好文	石澤 好文	石澤 好文	山本 武志	山本 武志	山本 武志	山本 武志	山本 武志	山本 武志
	山本 武志	山本 武志	山本 武志	山本 武志	仙石 富英	仙石 富英	仙石 富英	仙石 富英	上田 景子	上田 景子
	神島 仁誓	神島 仁誓	神島 仁誓	神島 仁誓	神島 仁誓	神島 仁誓	神島 仁誓	神島 仁誓	仙石 富英	仙石 富英
									神島 仁誓	神島 仁誓
監事	沖 允人	沖 允人	沖 允人	沖 允人	沖 允人	沖 允人	坂口 三郎	坂口 三郎	坂口 三郎	坂口 三郎
	坂口 三郎	坂口 三郎	坂口 三郎	坂口 三郎	坂口 三郎	坂口 三郎	牛窪 光政	牛窪 光政	牛窪 光政	牛窪 光政
自然保護 委員会	蓮實 淳夫	蓮實 淳夫	蓮實 淳夫	蓮實 淳夫	蓮實 淳夫	石澤 好文	石澤 好文	石澤 好文	石澤 好文	石澤 好文
	東 和之	東 和之	東 和之	東 和之	東 和之	蓮實 淳夫	蓮實 淳夫	蓮實 淳夫	蓮實 淳夫	蓮實 淳夫
						東 和之	東 和之	東 和之	東 和之	東 和之
山の日 のり外 委員会		麦倉 常治	麦倉 常治	麦倉 常治	麦倉 常治	麦倉 常治	麦倉 常治	麦倉 常治	麦倉 常治	麦倉 常治
		猿山 浩	猿山 浩	猿山 浩	猿山 浩	猿山 浩	猿山 浩	猿山 浩	猿山 浩	猿山 浩
		後藤 尚	後藤 尚	後藤 尚	後藤 尚	後藤 尚	後藤 尚	後藤 尚	後藤 尚	後藤 尚
事業 委員会				麦倉 常治	麦倉 常治	麦倉 常治	麦倉 常治	麦倉 常治	麦倉 常治	麦倉 常治
				前田 文彦	石澤 好文	前田 文彦	前田 文彦	前田 文彦	前田 文彦	前田 文彦
				石澤 好文	上田 景子	石澤 好文	石澤 好文	石澤 好文	石澤 好文	石澤 好文
				仙石 富英	仙石 富英	上田 景子	上田 景子	上田 景子	上田 景子	上田 景子
				神島 仁誓	神島 仁誓	仙石 富英	仙石 富英	仙石 富英	仙石 富英	仙石 富英
				猿山 浩	猿山 浩	神島 仁誓	神島 仁誓	神島 仁誓	神島 仁誓	神島 仁誓
				稲葉昌弘	稲葉昌弘	猿山 浩	猿山 浩	猿山 浩	猿山 浩	猿山 浩
				後藤 尚	後藤 尚	稲葉昌弘	稲葉昌弘	稲葉昌弘	稲葉昌弘	稲葉昌弘
					仲島 正子	後藤 尚	後藤 尚	後藤 尚	後藤 尚	後藤 尚
						仲島 正子	仲島 正子	仲島 正子	仲島 正子	仲島 正子
YOUTH栃木							深谷 篤志	深谷 篤志	深谷 篤志	深谷 篤志
								麦倉 常治	麦倉 常治	麦倉 常治
マスター クラブ									上田 景子	上田 景子
									前田 洋子	前田 洋子
									長 百合子	長 百合子

# 公益社団法人 日本山岳会栃木支部 規約

平成24年4月1日制定

平成26年4月一部改正

平成28年5月一部改正

## 第1章 総則

(名称)

第1条 本支部は、公益社団法人日本山岳会栃木支部と称する。

(事務所及び支部地域)

第2条 本支部は、事務所を栃木県内に置く。

2 本支部の支部地域は、主として栃木県、茨城県及び群馬県の県域とする。

## 第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 本支部は、公益社団法人日本山岳会（以下「本会」という。）定款及び支部に関する規程に基づき、定款第3条に定める活動を本会と一体として行うことを目的とする。

(事業)

第4条 本支部は、前条の目的を達成するため、本会定款及び支部に関する規程に基づき、定款第4条に定める事業を行う。

## 第3章 会員

(支部会員)

第5条 本支部の会員（以下「支部会員」という。）は、本会の会員であって、本支部の目的に賛同し、本支部が定める会費（以下「支部会費」という。）を納める個人又は団体とする。

2 本支部を退会しようとするときには、その旨を支部長に申し出るものとする。また、本会定款（資格喪失）に該当した場合はその資格を失うものとする。



## 第4章 役員等

### (役員)

第6条 本支部に次の役員を置く。

支部長 1名 副支部長 1名 事務局長 1名 会計監事 2名  
委員 若干名

2 上記の他、必要に応じて顧問を置くことができる。

### (役員の仕事)

第7条 支部長は本支部を代表し、会務全般を総括する。

2 副支部長は、支部長を補佐し、支部長に事故ある時はこれを代行する。

3 事務局長は、事務及び会計を担当する。

4 会計監事は支部会計を監査し、総会に報告するほか委員会に出席し意見を述べることができる。

5 委員は委員会を構成し、総会の決議に従い本支部の活動を企画立案し、会務を処理執行する。

### (役員の仕事)

第8条 役員は支部会員の中から選出し、総会にて承認を受けるものとする。

2 役員のうち支部長については、選任後、本会理事会の承認を求めなければならない。

### (役員の仕事)

第9条 役員の仕事は2年とし再任を妨げない。

## 第5章 会議

### (支部総会)

第10条 支部長は、毎年1回以上支部総会を招集し、事業報告、会計報告、事業計画及び予算の承認を得なければならない。

2 支部長は、前項記載の事項を支部総会終了後速やかに本会会長に報告しなければならない。

### (委員会等)

第11条 委員会は、必要に応じて支部長が招集する。

## 第6章 会計

### (経費)

第12条 本支部の運営に要する経費は、本会からの運営交付金及び事業補助金によるほか、補助金、助成金及び寄付金等をもって充当し、本会と一体的な会計処理を行うものとする。

2 支部長は、前項記載の内容を毎会計年度終了後1月以内に本会会長に報告しなければならない。

### (支部会費)

第13条 本支部の支部会費は、年額3,000円とし、毎年6月末日までに納めなければならない。

但し、婚姻関係にある者が共に支部会員の場合は、いずれか1名の支部会費を免除する。

### (会計年度)

第14条 本支部の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

## 第7章 解散

### (任意解散)

第15条 本支部は、支部会員現在数の3分の2以上の同意により解散することができる。

### (本会理事会の審議による解散)

第16条 本支部は、本会支部に関する規程第15条の規定により解散する場合がある。

## 第8章 規約の変更

### (規約の変更)

第17条 この規約は、総会において出席者の3分の2以上の決議によって変更することができる。

### (重要事項の変更)

第18条 本支部の名称及び支部地域の変更等重要事項の変更については、本会理事会の承認を得なければならない。

## 附則

- 1 この規約は、平成24年4月1日より施行する。
- 2 一部改正（平成26年4月）
- 3 一部改正（平成28年5月29日）

祝 創立10周年おめでとうございます



企業の宿泊研修・各種大会等に最適…

学生のスポーツ&ゼミ合宿にお得で安心

さらに、四季折々のお料理をお楽しみ下さい！



# コンサーレ

(一般財団法人 栃木県青年会館)

〒320-0066 宇都宮市駒生1丁目1番6号

TEL 028(624)1417 FAX 028(624)1843

<http://www.concere.jp> E-mail: [info@concere.jp](mailto:info@concere.jp)

大駐車場完備 500台収容 (無料)

皆様の整理の一助へ

株式会社

長月整事

LINEでのお問い合わせも受付始めました！  
お気軽にご連絡ください！



遺品整理  
不用品回収

一般社団法人「遺品整理士認定協会」が認める「遺品整理士」が常駐していますので、専門家がお見積もりや遺品の整理を行います。  
また、不用品も1点から片付けますのでお気軽にお問い合わせください。



現状復帰  
解体

物が増えて片付けに手が回らない、散らかってしまい自身ではうまく片付けられないなどお困りなことがあれば、お悩みになる前にまずご相談ください。  
また解体に関しても無料でご相談にのりますのでご連絡ください。



before after

引っ越し  
移設

引っ越し、移設作業のお手伝いと引っ越し、移転に伴う粗大ゴミや不用品を一括して全てお片付けします。



また、お客様にご用意していただくものは一切ありませんので、急な場合もご相談にのりますので、まずはご相談ください。

産業廃棄物  
収集・解体

産業廃棄物処理法において、「事業者は、その産業廃棄物を自ら処理しなければならない」と規定されています。受け入れられた産業廃棄物は、有害物や許可品目以外が混入していないかチェックした後、適正で安全な処理を推進しています。



収集 解体

ご予算・ご要望に応じて適切なプランをご提供いたします。  
また、お見積もりは無料でお受けいたしますのでお気軽にご相談ください！

メールでのお問い合わせはこちらのアドレスまでお願い致します。

✉ [nagatukiseizi@gmail.com](mailto:nagatukiseizi@gmail.com)

お問い合わせ・ご依頼はコチラまで。心よりお待ちしております。

フリーコール ☎ 0800-080-0901

営業時間 9:00~20:00 URL <http://nagatukiseizi.net>

祝 日本山岳会栃木支部創立10周年  
おめでとうございます！！

真宗大谷派【本山：京都・東本願寺】藤田山圓光寺

住職：神島仁誓(会員No.14438)

〒329-2755 栃木県那須塩原市西原町4-5

TEL：0287-36-0476 FAX：0287-36-2965



白根山頂直下にて記念撮影【栃木支部設立記念山行(2007年8月19日)】



立山カルデラ砂防博物館にて記念撮影【秋山山行(2014年9月13日(土))】

## 編集後記

栃木支部設立 10 周年を迎えるにあたり、支部役員の中で記念事業準備委員会を立ち上げたのが平成 27 年 11 月 29 日の役員会でした。その後何回かの役員会で決まったのは祝賀会の日程や講演会の講師、あるいは記念支部報を発行することだけでありました。今年度に入りようやく実行委員会に移行したのは 6 月 12 日の第 3 回役員会で、それ以降は急ピッチで記念支部報発行に向けての準備を進めて参りました。

立ち上げが遅れたこともあって、会員の皆様に依頼した原稿締切りまでの日数が限られていたわけですが、それにもかかわらず多くの会員から寄稿していただきまして、曲がりなりにも記念誌の体裁を整えることができました。まずもって御礼申しあげます。

編集委員の力量不足で思うような記念誌ができたとはいえませんが、これまでの支部報を手掛かりとして、支部 10 年の歩みを何とかまとめあげることができたかなと思っております。ただし、支部報からできるだけ多くの方の文を引用しようとしたのですが、頁数にも制約があって全ての方の玉稿を掲載できなかったことをお詫びいたします。また森会員には、会報編集までの手順を懇切丁寧にご指導いただきましたことに感謝申し上げる次第です。

誤字・脱字、事実誤認等の問題点も多々あるかと存じます。ご指摘いただければ幸いに存じます。これで編集委員にも安寧の日々がおとずれます。ホッ！

(公社)日本山岳会栃木支部  
創立 10 周年記念誌編集委員会  
委員長 神島 仁誓  
委員 石澤 好文

## 10周年記念誌

2016(平成 28)年 11 月 27 日発行

発行 (公社)日本山岳会栃木支部  
発行者 (公社)日本山岳会栃木支部創立 10 周年記念事業実行委員会  
〒329-0434 栃木県下野市祇園 5-12-10  
前田 文彦 方  
印刷製本 合資会社 永興社印刷所  
〒321-0627 栃木県那須烏山市南 2-3-2

